若宮大路周辺遺跡群（No.242）

小町二丁目 364 番 17

例　言

1．本報告は、鎌倉市小町二丁目364番17地点における個人専用住宅の建設に伴い実施した、若宮大路周辺遺跡群（神奈川県遺跡台帳－鎌倉市No.242）の緊急調査報告である。

2．発掘調査は平成21年4月16日から同年6月1日にかけて、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は、39㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　三ッ橋正夫

調　査　員　　岡田慶子、押木弘己

作　業　員　　渡辺輝彦、佐藤美隆、大塚尚城、安藤宗幸、中村廣義

（公益社団法人　鎌倉市シルバー人材センター）

整理作業参加者　岡田、押木、菅野尚子、村松房代

4．本報告では世界測地系（第Ⅸ系）の国家座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23年3月11日以前の測量基準点を基に測量・作図したため、座標値は東日本大震災後の地殻変動に対応した補正値となっていない。

5．本報告の執筆・編集は、押木が行った。

6．本報告で使用した写真は、現地写真を三ッ橋と押木が、出土遺物を押木が撮影した。

7．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＷＡ０９０３」とし、出土品への注記その他に使用した。

目　次

本　文　目　次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 149

第二章　調査の方法と経過 …… 152

第１節　調査に至る経緯
第２節　調査の方法
第３節　調査の経過

第三章　基本土層 …… 153

第四章　発見された遺構と遺物 …… 154

第１節　検出遺構
第２節　出土遺物

第五章　調査成果のまとめ …… 172

挿　図　目　次

図１　調査地の位置 …… 149
図２　調査区配置図 …… 152
図３　検出遺構平面図① …… 155
図４　検出遺構平面図② …… 156
図５　調査区壁断面図 …… 157
図６　遺構断面図 …… 159
図７　出土遺物① …… 160
図８　出土遺物② …… 160
図９　出土遺物③ …… 161
図10　出土遺物④ …… 162
図11　出土遺物⑤ …… 163
図12　出土遺物⑥ …… 164

表　目　次

表１　出土遺物計数・計量表 …… 165
表２　出土遺物観察表 …… 169

図　版　目　次

図版１…… 175
１．Ⅰ区1面　全景（南東から）
２．Ⅰ区1面　溝２（南西から）
３．Ⅰ区1面　土坑１断面（南西から）
４．Ⅰ区1面　土坑１　完掘状況（南西から）
図版２…… 176
１．Ⅱ区1面　遺構確認状況（南西から）
２．Ⅱ区1面　溝1a土層断面（北東から）
３．Ⅱ区1面　溝1a完掘状況（北東から）
４．Ⅱ区1面　溝1a内　遺物出土状況（南から）
５．Ⅱ区1面　溝1b覆土中層　遺物出土状況（南から）
６．Ⅱ区1面　溝1b完掘状況（北東から）
７．Ⅱ区1面　溝1b底面　板材検出状況（西から）
図版３…… 177
１．Ⅱ区１面　溝1b完掘状況（北東から）
２．Ⅱ区１面　溝1b･1c土層断面（北東から）
３．Ⅱ区１面　溝1c･中世基盤層土層断面（北東から）
４．Ⅱ区１面　遺構完掘後全景（東から）
５．Ⅱ区１面　井戸１（南東から）
６．Ⅱ区１面　井戸1内　ウマ上顎骨出土状況（東から）
図版４…… 178
図版５…… 179
図版６…… 180

第一章　遺跡の位置と歴史的環境

若宮大路周辺遺跡群は鎌倉低地の中心部を占め、史跡若宮大路を挟んで東西に展開している。遺跡の南限は県道鎌倉・葉山線で、西は今小路に、東は滑川および小町大路（道路名はともに現在の通称）で限られている。細かな地形差はあるが、概ね滑川とその支流群の沖積作用によって形成された泥質平野に立地し、東西650ｍ、南北900ｍほどの広がりを持つ。

今回の調査地は遺跡範囲の東側、小町大路の東辺に面しており、道路を挟んだ西側には妙隆寺が位置している。現地表の標高は約8.8ｍで、東方100ｍを南流する滑川（山裾）に向けて緩やかに上がっていく。

若宮大路は鶴岡八幡宮の参詣道であり、源頼朝が妻・政子の安産祈願を契機として寿永元年（1183）に整備されたという。将軍御所が大倉郷から宇津宮辻子の北側に（嘉禄元年＝1225）、次いで若宮大路東頰に移転（嘉禎二年＝1236）して以降、若宮大路は政治・信仰上の両面で都市鎌倉を象徴する存在として位置付けられていく。

市街地に起因する開発件数の多さもあり、本遺跡群ではこれまでに130以上の地点で発掘調査が実施されている。小規模な調査が多く遺跡全体の性格を考えるには情報が断片的であるが、概ね「二ノ鳥居」以北では武家屋敷を窺わせる様相が強く、以南では竪穴建物（主に倉庫か）が多く展開する町屋的様相が色濃くなることが確認されている。若宮大路沿道の調査では大路の側溝が検出され、東西両側溝とも

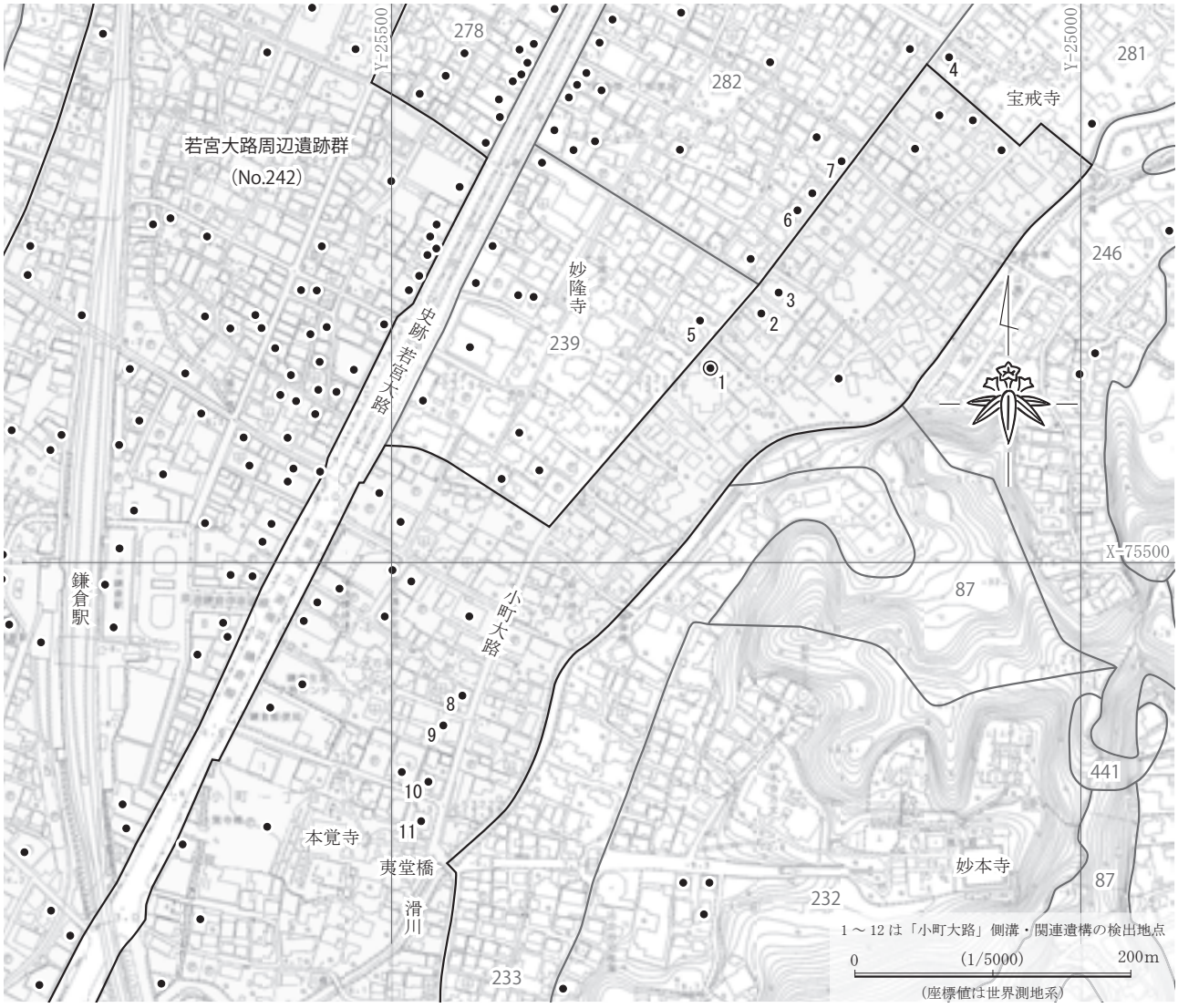


図１　調査地の位置

開削当初は素掘りであったものが木組み護岸をもつものへと構造変化することが確認されている。小町大路沿いでも複数の調査地点で中世の南北道路面やこれに伴う道路側溝が発見され、現在の小町大路が中世まで遡ることを明らかにした。このうち西側溝については初め素掘りであったものが木組み護岸、次いで凝灰岩切石積みまたは泥岩塊積みへの改変が把握されているが、今のところ東側溝での護岸施設検出例はない。素掘り段階の西側溝は非常に大規模で、幅や路面からの深さなど全体の規模や断面形は確認されていない。開削～存続時期を含めた実態の解明が期待される。

現行の小町大路は史料解釈によって「小町大路」または「町大路」という名称であったと考証され、後者の場合には本覚寺門前の夷堂橋以北と以南とで「小町大路」「大町大路」と呼び分けていた可能性も指摘されている。関連する研究事情については馬淵和雄氏の叙述に詳しいので参照されたいが（馬淵ほか2007）、歴史名称としての「小町大路」は未だ確定に至っていないのが実情といえる。

【図1に番号を掲載した調査地点と報告書等】

◆若宮大路周辺遺跡群（No.242）

1.小町二丁目364番17（本地点）
2.小町二丁目402番5：「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17（第1分冊）』所収
　2001年　鎌倉市教育委員会
3.小町二丁目402番9外：「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23（第2分冊）』所収
　2007年　鎌倉市教育委員会
8.小町一丁目329番1：「若宮大路周辺遺跡群（No.242）の調査」『第23回　鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』
　所収　2013年　特定非営利活動法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会
9.小町一丁目331番1：未報告
10.小町一丁目333番5：未報告
11.小町一丁目302番：「本覚寺境内」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』所収　1983年　鎌倉市教育委員会

◆北条高時邸跡（No.281）

4.小町三丁目426番3：「北条高時邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12（第1分冊）』所収
　1996年　鎌倉市教育委員会

◆宇津宮辻子幕府跡（No.239）

5.小町二丁目374番1：「鎌倉市宇津宮辻子幕府跡」『第22回　神奈川県遺跡調査・研究発表会　発表要旨』所収
　1998年　神奈川県考古学会・鎌倉市教育委員会

◆北条小町邸跡（No.282）

6.雪ノ下一丁目432番2：「北条小町邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』所収　1989年　鎌倉市教育委員会
7.雪ノ下一丁目401番5外：「北条小町邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』所収
　2005年　鎌倉市教育委員会

【引用・参考文献】

高柳光寿　1959『鎌倉市史　総説編』 鎌倉市

田代郁夫　1998「大町大路と小町大路―中世都市の中の「町」と「路」―」『湘南考古学同好会々報73』 湘南考古学同好会

馬淵和雄ほか　2007 「若宮大路周辺遺跡群（No.242） 小町二丁目402番9ほか地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　23（第2分冊）』 鎌倉市教育委員会

第二章　調査の方法と経過

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、個人住宅の建設に伴う事前の記録保存を目的として、鎌倉市教育委員会が実施した。平成21年2月9日、届出に基づいて基礎工事の立会を行ったところ、当初の計画にはない鋼管杭が打ち込まれていたことを確認したため、急遽、工事用の重機で確認調査を実施した。この結果、地表下75～120㎝で中世の整地層とみられる淡褐色土層が検出され、この上面ではピットが確認できた。同層中からは、かわらけや陶器の破片が出土し、これを取り除くと中世の基盤層である灰黒色粘質土層（基本土層のⅢ層、次章参照）が確認できた。現代の攪乱層は深いものの、全体として中世の遺構・遺物が良好に遺存していることを予測させる結果となった。

確認調査の内容を踏まえ、施工会社に基礎工事の中断を求めたうえで、建築部分について発掘調査を実施することとなった。およそ2ヶ月の調整期間を経て、平成21年4月16日に調査に着手した。

第２節　調査の方法

表土の除去は重機によって実施し、遺構面に近付いたところで人力での掘削に移行した。掘削に伴う残土置場を確保する必要から調査対象地は2分割し、先行して着手した東半部をⅠ区、西半部をⅡ区と呼称した。本報告でも、これに準じて記載を進める。確認調査の結果に基づき、表土・攪乱を除去したところを第1面としたが、Ⅱ区では攪乱が深く及んでいたため中世整地層の遺存状態は良好ではなく、概ねⅢ層の上面ないし層中で遺構確認に当たった。今回の調査では、対象区全体をⅢ層上まで掘り下げ、

図２　調査区配置図

Ⅰ・Ⅱ区とも部分的にサブトレンチを掘削して、下層の堆積状況について確認を行った。

測量に当たっては、調査区の形状に沿った形で任意の平面座標軸を設定し、主に光波測距儀を用いて平面図の作図に当たった。国家座標系との整合については市道上に設置された鎌倉市4級基準点「U099」と「U100」の2点間の関係から開放トラバースによる座標移動を行い、任意基準点および敷地境界杭の国家座標値を得る方法を採った。現地調査の終了後、この成果に基づいて図上合成を行ったが、4級の成果簿が旧測地系に準じていたことから、本報告の作成に当たり世界測地系の座標値に表記を改めた。座標値の変換には、国土地理院が公開する座標変換ソフト「Web版TKY2JGD」を使用した。また、標高については、宝戒寺門前にある3級基準点「No.53210」から水準点移動を行い、任意の基準点に標高値を移して断面図その他の作図に利用した。

第3節　調査の経過

前述のとおり、本地点の調査は平成21年4月16日に開始した。重機によるⅠ区の表土掘削を行い、翌日から測量方眼（グリッド）の設定や残土置場の整備を行った後、人力による遺構面の精査と調査区壁面の整形などに移行した。順次、確認できた遺構の掘削と調査区壁の断面観察を併行して進め、平面および断面の実測図作成と写真撮影を行った。これら一連の作業を終え、サブトレンチによる下層確認・記録を行った後、Ⅰ区の埋め戻しとⅡ区の表土掘削を5月11日に実施した。翌日から人力による攪乱掘削と遺構面の精査に着手し、Ⅰ区と同様の手順で調査を進めた。サブトレンチの記録まで終えた5月27日に終了確認を行い、6月1日に調査器材の撤収を行って現地での調査工程を終了した。なお、施工会社との協議の結果、Ⅱ区の埋め戻しについては調査工程には組み込まず、調査終了から間を置かずに再開される基礎工事の際、行われることとなった。

第三章　基本土層

前章までに述べたように、本地点では表土・現代攪乱層が地表下120cmまで堆積し、中世基盤層（Ⅳ層）の近くまで削平が及んでいた。このため、中世の遺構面はⅣ層上面と上位のⅢ層中において、ほぼ1面が確認されたに過ぎない。この面上で、概ね中世3時期の遺構変遷を捉えることができた。Ⅲ層以下の堆積については、部分的に設定したサブトレンチで確認した。

以下、本地点の基本層序について説明する。図5と併せて参照されたい。

Ⅰ．褐色土　粘質土。表土・攪乱層。コンクリートブロックなどを含む。標高7.7 ～ 8.9 m。

Ⅱ．黒褐色土　粘質土。白色微粒を少量含む。標高7.9 ～ 8.1 m。

Ⅲ．淡褐色土　泥岩粒や炭化物粒を少量含む。中世の遺物包含層。上面を中世遺構面として捉えた。標高7.8 ～ 7.95 m。

Ⅳa.灰黒色土　粒径1mm以下の白色粒を微量含む。粘性、締まり強い。標高7.7 ～ 8.0 m。

Ⅳb.黒色土　灰黄色土が斑文状に混入する。粘性、締まり強い。標高7.55 ～ 7.8 m。

Ⅳc.灰黒色土　粘性、締まり強い。標高7.45 ～ 7.6 m。

Ⅳd.黒色土　粒径1mm以下の白色粒子を微量含む。締まり、粘性強い。標高7.25 ～ 7.5 m。

Ⅴa.暗黄灰色/暗青灰色砂　上半部が酸化により黄色に変色。粗砂粒、粒径5～10mmの泥岩粒を微量含む。標高7.0 ～ 7.25 m。

Ⅴb.青灰色砂　粗砂粒に粒径10 ～ 30mmの泥岩粒をやや多く含む。締まり弱い。標高7.0 m以下。

第四章　発見された遺構と遺物

第１節　検出遺構

本調査で検出された遺構は全て中世に属するもので、Ⅲ層以下では遺構・遺物とも発見されなかった。南北溝４条、井戸１基、土坑１基、ピット28基が検出され、南北３列、東西２列の柱穴列を復元することができた。

溝1a～1c：Ⅱ区の西端付近で検出された３条の南北溝で、切り合い関係から溝1c→1b→1aの順に開削されたことが確認できた。何れも南北の調査区外に続き、周辺の調査地ではこれらの延長部であろう溝が検出され、中世「小町大路」の側溝と考えられている。

溝1aは３条のうち、最も西に位置する。遺構の東岸が検出されたのみで、全体の幅は不明である。調査区壁の断面観察からは上場幅120㎝、下場幅50cm以上の規模を持つことが確認されている。深さは最大で60cmを計測した。底面標高は検出された北端部で7.4ｍ、南端部で7.35ｍを測り、緩やかに南へ下がる。立ち上がりの斜度は30°前後と緩く、痕跡も含めて護岸施設は確認できなかった。覆土は暗灰褐色の砂質土で、前段階の溝覆土と比べると色調が明るく夾雑物が少ない印象を持った。掘り方底面には細かな凹凸が目立ち、開削に伴う鋤等の掘削痕と考えられた。底面付近の覆土最下層からは、15世紀代のかわらけ小皿とウシの四肢骨が出土している（**図版2-4**）。東岸辺の軸方位は、N46°Ｅを指す。

掘り込み面が遺存していないため断定はできないが、断面観察からは先行する溝1bの廃絶後、溝状凹地を泥岩塊混じりの客土で埋め立てた後に開削されたと考えられる。凹地の段階も、道路側溝として一定の役割は果たしていたであろう。

溝1bは、溝1aの東、1cの西に位置する。調査区南壁の断面では、上場幅150㎝以上、下場幅50cmを計測した。深さは100㎝を測り、検出部の中央近くでは底面が南に25㎝ほど落ちる段差を確認した。落ち込み際では厚さ1㎝、幅15cmの板材が直立して遺存しており、墨書文字は確認できなかったが、工事区割りの標榜であった可能性も考えられる。調査区の北壁と南壁では覆土様相が異なることから局所的浚渫や改修があったことも想定され、**図14**-7層を挟んで新旧２時期に区分できる可能性もある。底面の標高は、検出北端で6.9ｍ、南端で6.6ｍを測る。７層下端を一時期（新段階）の底面と考えた場合、北端と南端の底面標高はともに6.9ｍ強を測り、高低差は見出せない。底面からの立ち上がりは、調査区の南壁で西岸が80°、東岸が73°を測り、横断面は逆台形を呈する。この段階でも護岸の痕跡は見られなかった。検出北半部では、覆土4a層の上端部で完形の手づくねかわらけが平面的な広がりを見せていた（**図版2-5･6**）ことから、本遺構が廃絶した後、一時的に整地面が形成されていたことも考えられる。これらかわらけの様相から、13世紀中頃には埋没していた遺構と考えられる。中心軸はN38°Ｅを指す。

溝1cは３条の中で最も古く、また、最も東側で検出された。確認できたのは東岸のみで、調査区の南壁断面では上場幅120㎝以上、下場幅30㎝以上、深さ100㎝までを確認できた。前述したように、北半部では溝1bの埋没過程において削平を伴う整地がされたらしく、その影響もあって調査区の北壁断面では30㎝ほどの深さしか確認できなかった。東岸壁の立ち上がり斜度は40°で、横断面は逆台形であったと推察される。覆土は黒褐色ないし暗褐色の粘質土で、溝1と比較して夾雑物は少なかった。中心軸は、N44°Ｅを指す。

溝２はＩ区の西側で検出された。概ね溝１と近似した主軸方向で、N39°Ｅを指す。南北とも調査区の外に続く。上場幅70～75cm、下場幅は40cm前後を測る。深さは調査区壁の断面で最大60cmを確認でき、底面標高は検出北端部で7.3ｍ、南端部で7.2ｍを計測した。底面は平坦で断面は概ね逆台形を呈するが、

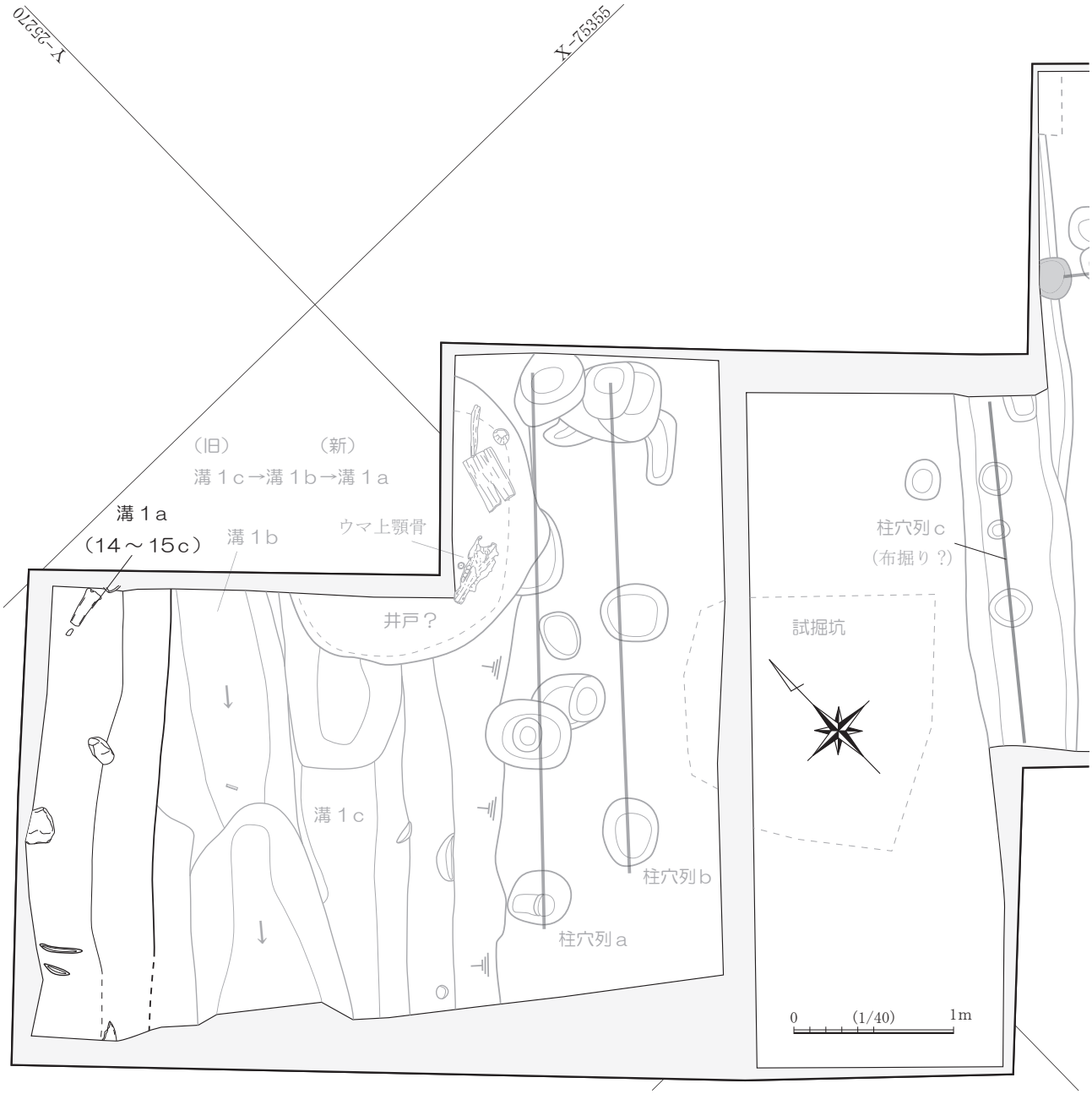


図３　検出遺構平面図①

検出北半部の東辺側には底面から30cmほど高いテラスが遺存していた。明確には捉えられなかったが、古段階の溝が存在していた可能性もある。底面には上場径15～30cm、深さ2～10cmのごく浅い小穴が検出された。柱痕は認識できなかったが、並びが良いことから布掘りの柱穴列としての可能性を示しておく（**柱穴列c**）。柱穴の間隔は、約80cmを測る。溝部分の覆土は粘質土を基調として5層に細別でき、レンズ状の堆積が認められた。

井戸１は、Ⅱ区の北壁際で検出された。調査区内では全外周の2/3程度が確認でき、長径190cm前後の平面規模となることが掴めた。溝1cに切られ、重複による新旧関係の上では、本地点の中世遺構の中で最も古い段階に位置付けられる。調査区の壁際でもあり、安全面に配慮して底面に達する前に掘削を断念した。確認レベルから90cm以上の深さを持ち、底面は標高6.8m以下にある。平面規模や確認深度、垂直となる落ち込み形状から井戸と推測したが、不確定要素を残す調査結果となった。覆土は腐植質の

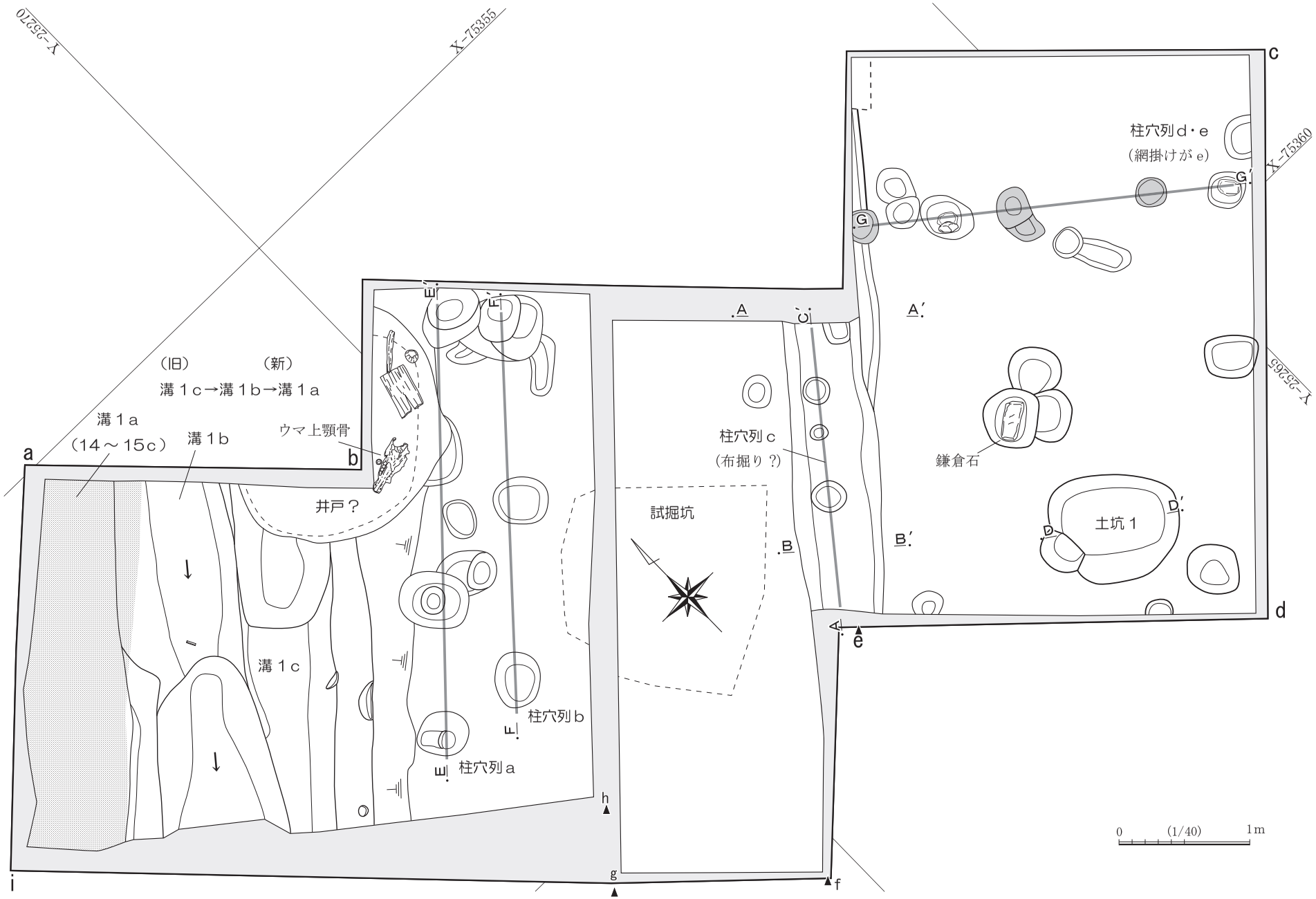
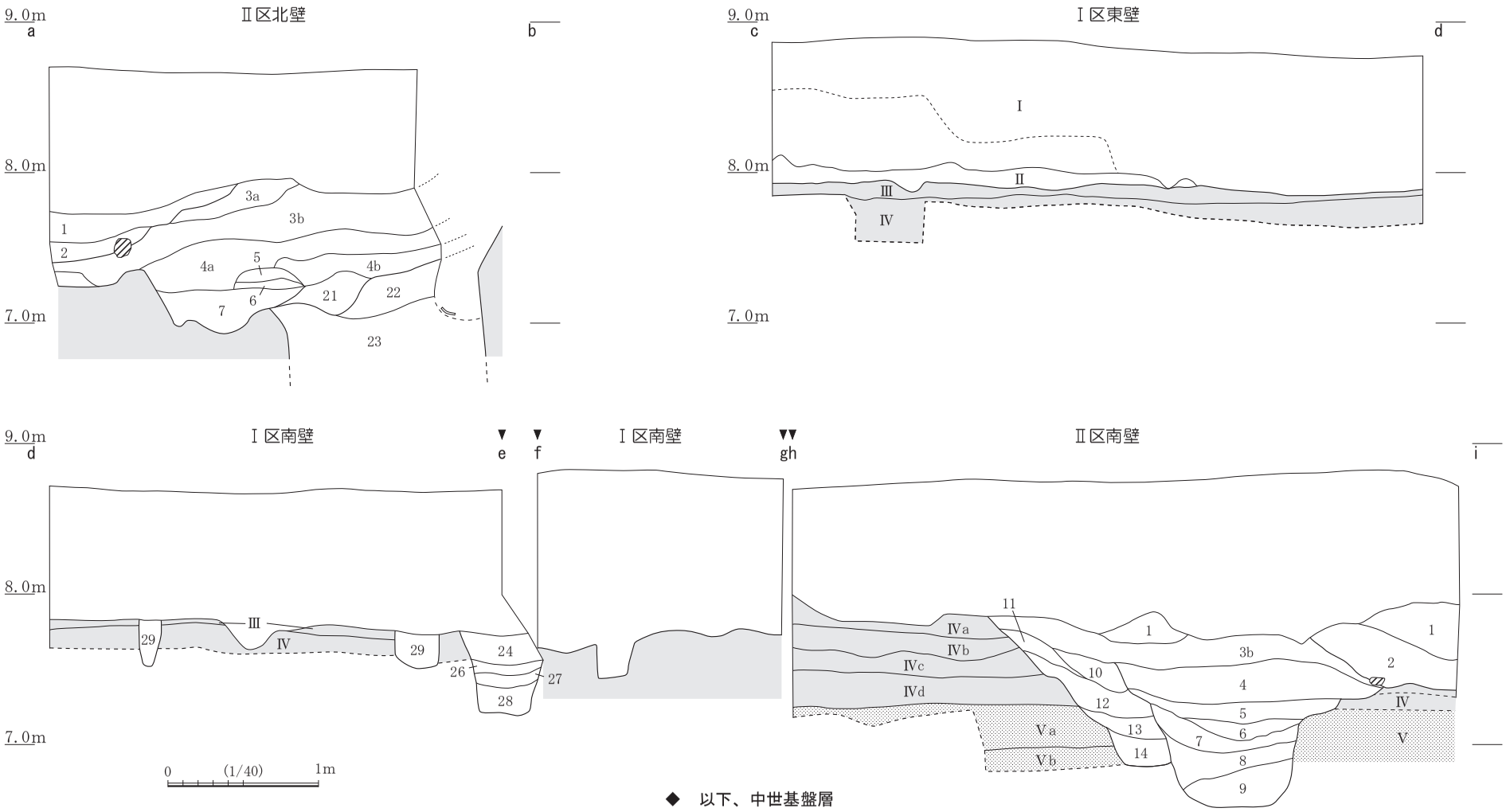

X-75355
Y-25270
X-75360
Y-25265
a
b
c
d
e
f
g
h
i
A
A′
B
B′
C
D
D′
E
E′
F
F′
G
G′
柱穴列d・e
（網掛けがe）
鎌倉石
土坑１
柱穴列ｃ
（布掘り？）
試掘坑
柱穴列ｂ
柱穴列ａ
井戸？
ウマ上顎骨
（旧）
（新）
溝１ｃ→溝１ｂ→溝１ａ
溝１ａ
（14～15ｃ）
溝１ｂ
溝１ｃ
0
(1/40)
1m

図４　検出遺構平面図②



Ⅰ. 褐色土　粘質土。表土･攪乱層。コンクリートブロックなどを含む。

Ⅱ. 黒褐色土　粘質土。白色微粒を少量含む。

Ⅲ. 淡褐色土　泥岩粒や炭化物粒を少量含む。中世遺物包含層。
上面を中世の遺構面として捉えた。

◆　以下、中世基盤層

Ⅳa. 灰黒色土　粒径 1mm 以下の白色粒を微量含む。粘性、締まり強い。

Ⅳb. 黒色土　灰黄色土が斑文状に混入する。粘性、締まり強い。

Ⅳc. 灰黒色土　粘性、締まり強い。

Ⅳd. 黒色土　粒径 1mm 以下の白色粒子を微量含む。締まり、粘性強い。

Ⅴa. 暗黄灰色 / 暗青灰色砂　上半部が酸化により黄色に変色。粗砂粒、粒径 5 ～ 10mm の泥岩粒を微量含む。

Ⅴb. 青灰色砂　粗砂粒に粒径 10 ～ 30mm の泥岩粒をやや多く含む。締まり弱い。

図５　調査区壁断面図

調査区壁断面図　土層説明（図５に対応）

【溝1a】

1.　暗灰褐色土　砂質土。泥岩粒多い。締まりややあり。

2.　暗灰褐色土　砂質土。1層より泥岩粒減少する。締まりあり。

【溝1b】

3a. 暗黄褐色土　泥岩粒多い整地層。締まり強い。

3b. 暗黄褐色土　3a層より泥岩粒多く締まり強い。

4a. 暗褐色土　砂質で土丹粒多い。炭粒少量。

5.　暗黄褐色土　細粒化した泥岩流からなる。

6.　黒褐色土　砂質土。部分的に泥岩ブロックと混貝砂の集積あり。

7.　黒褐色土　黒色砂質土と貝砂の混交層。縞状堆積。

8.　灰黒色土　粘性あり。板片が少量混入する。「マグソ」層。

9.　灰黒色砂　粗粒の混貝砂を全体に多く含む。

【溝1c】

10. 暗褐色土　4層と同質だが泥岩の量と締まりの強さに欠ける。

11. 暗灰褐色土　泥岩粒少量。締まり、粘性ともに強い。

12. 暗灰褐色土　11層より泥岩粒減少し、粘性・締まりともに強さ増す。

13. 灰黒色土　14層に微砂粒を交える。締まり弱く粘性ややあり。

14. 黒色土　粘性あり、ボソボソ。腐植土。

21. 黄褐色砂　粗粒の混貝砂が主体。締まり弱い。

【井戸1】

22. 灰黒色土　砂質土。泥岩粒少量。粘性あり。締まり弱い。

23. 灰黒色土　泥岩ブロック少量。粘性強く、締まり弱い。

【溝2（柱穴列c・図6のA-A'にも対応）】

24. 黒褐色土　粘質土。泥岩微粒、白色微粒を少量含む。締まりあり。

25. 灰色土　粘質土。砂を含み軟質。

26. 灰褐色土　砂質土。

27. 灰色土　粘質土。砂を少量含む。

28. 褐色土　粘質土。

灰黒色土で、層中からは板片や丸木杭、ウマの上顎骨が出土している。土器類の出土は皆無であった。

土坑1は、Ⅰ区の南東角付近で検出された。隅丸長方形の平面プランで、断面は逆台形を呈していた。長径100㎝、短径80cmで、確認面からは30㎝ほどの深さがあった。覆土は4層に細分され、砂質土と粘質土がレンズ状に堆積していた。

柱穴列a～e：布掘りの可能性を持つ溝2（**柱穴列c**）を含め、5列の柱穴列を復元しえた。概ね溝1の走方向と平行または直交する軸線を持ち、板塀など、区画施設を構成した遺構と考えられる。

柱穴列aは溝1cの東肩を切って構築され、溝1bと同時期に機能していた可能性が考えられる。礎版や明確な柱痕は捉えられなかったが、底面に柱の据え穴と見られる小穴を確認している。各柱穴の平面規模は長径40～50cmで、確認面からの深さは30㎝前後であった。柱間の距離は100～110㎝である。覆土は暗褐色土で、直径1～2㎝の泥岩粒を多く含んでいた。主軸線は、N43°E前後を指す。

柱穴列bは、列aのすぐ東側で検出された。一部、列aの柱穴に切られていることを確認している。遺構間の新旧関係および検出位置から、溝1cと同時期に機能した可能性も考えられる。やはり明確な柱痕は確認できず、底面の小穴も見て取れなかった。柱穴の平面規模は長径40～50cmで、確認面からの深さは10～35㎝であった。柱間距離は、140～150㎝を測る。覆土は暗褐色土で、少量の泥岩粒を含んでいた。主軸方位は、N42°Eを指す。

柱穴列cについては、前記した溝2の項を参照されたい。

柱穴列d･eは、Ⅰ区の北部で検出された。ともに同一の軸線上にあり、溝1の走方向とは直交方向に展開する。ピット間の距離や底面の泥岩塊の存在により2段階の柱穴列に分けたが、検出範囲が狭いこともあり、本報告での復元は可能性の提示に留めたい。

柱穴列dは底面に泥岩塊が据えられたピット2基をもって復元した。両穴間の距離は215㎝で、他の柱穴列に比べ非常に大きい間隔となっている。柱穴の平面規模は長径30～40cmで、確認面から30～40cmの深さを計測した。両穴とも、底面には厚さ10cm以下の扁平な泥岩塊が据えられていた。泥岩の

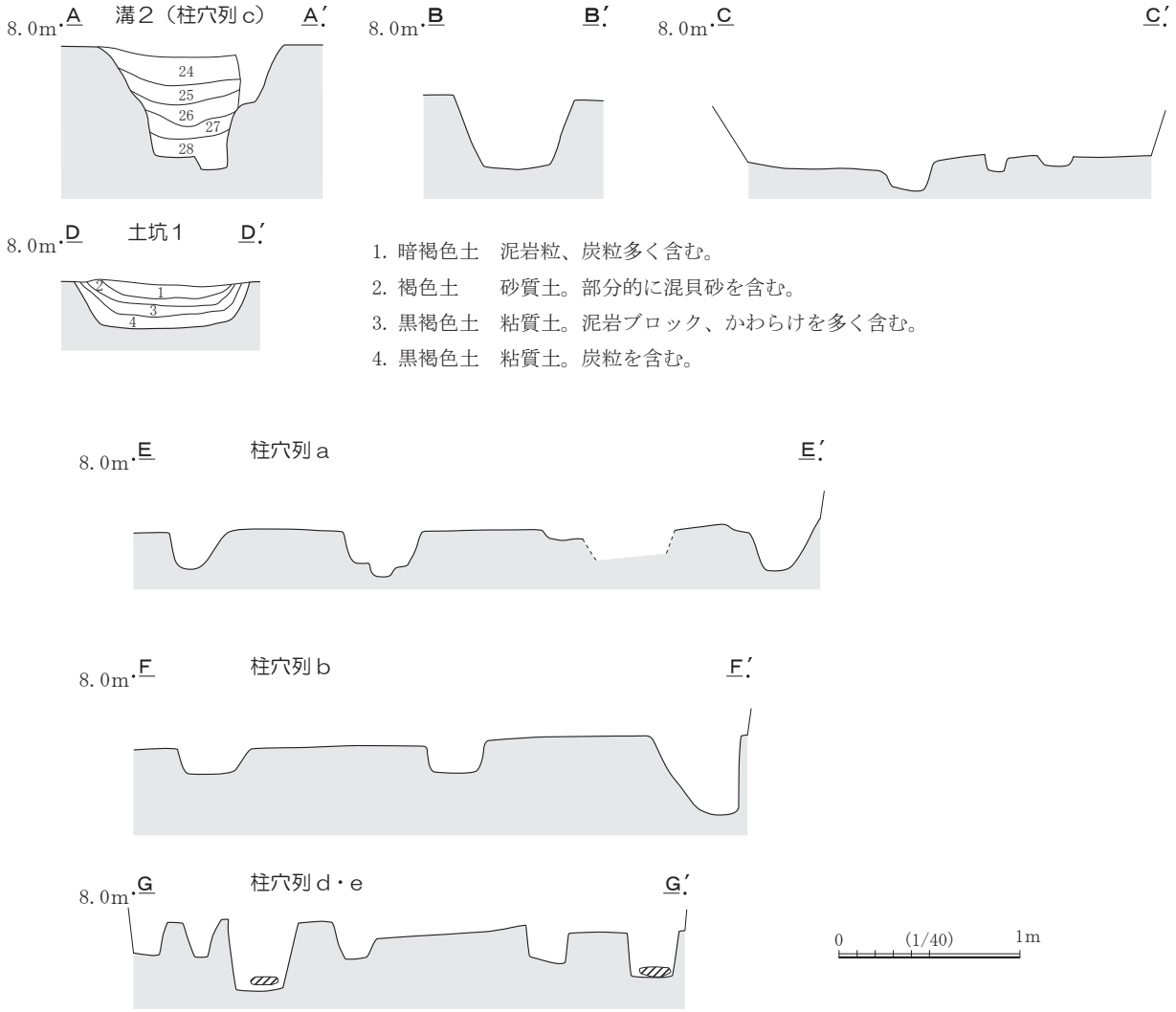


図６　遺構断面図

上端レベルは、7.53 ～ 7.60 mであった。中心軸は、N52° Wを指す。

柱穴列eは、直径25cm ～ 30cmの小穴が110 ～ 120cm間隔で並ぶ列として復元した。検出された東端のピットが溝2の東肩を切っている。各柱穴の深さは、確認面から15 ～ 20cmとごく浅いものであった。いずれのピットでも、柱痕は確認できなかった。

第２節　出土遺物

図７には溝1aの出土遺物を掲げた。1 ～ 5はロクロかわらけ。小（1 ～ 3）、大（4・5）ともに器壁が厚く体部から口縁部にかけて外反する傾向を示す。4・5は体部下半がやや丸みを帯びており、総体としては15世紀中葉～後半頃の形態的特徴を備えている。6は土器の鍔釜。胎土は精良・緻密で、器壁は薄く作られる。7は古瀬戸の碗または皿の底部で、二次利用のため円形に打ち欠かれている。内面にのみ灰釉が施され、焼成時のトチ痕が4ヶ所に残る。釉薬・トチ痕とも摩擦によって平滑になっている。研磨具として再利用されたものであろう。外底面には回転糸切り痕が残り、擦痕は見られなかった。

かわらけは出土点数の76％をロクロ成形の資料が占めており、これらの器形的特徴を見れば、24％を占める手づくねかわらけも、前代からの混入品と判断できる（表1）。

図８には、溝1bの覆土上層より出土した遺物を掲げた。かわらけはロクロ成形の資料（8 ～ 11）と手

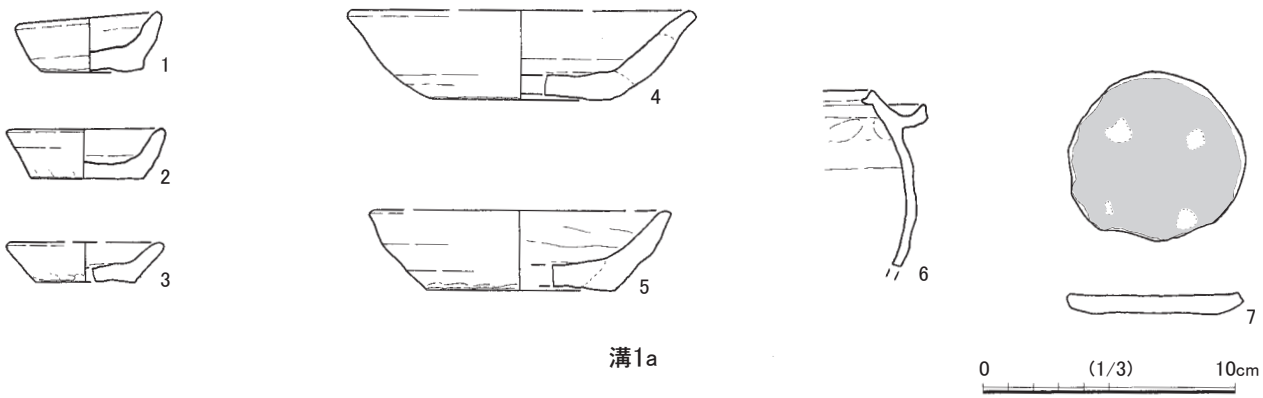


図７　出土遺物①

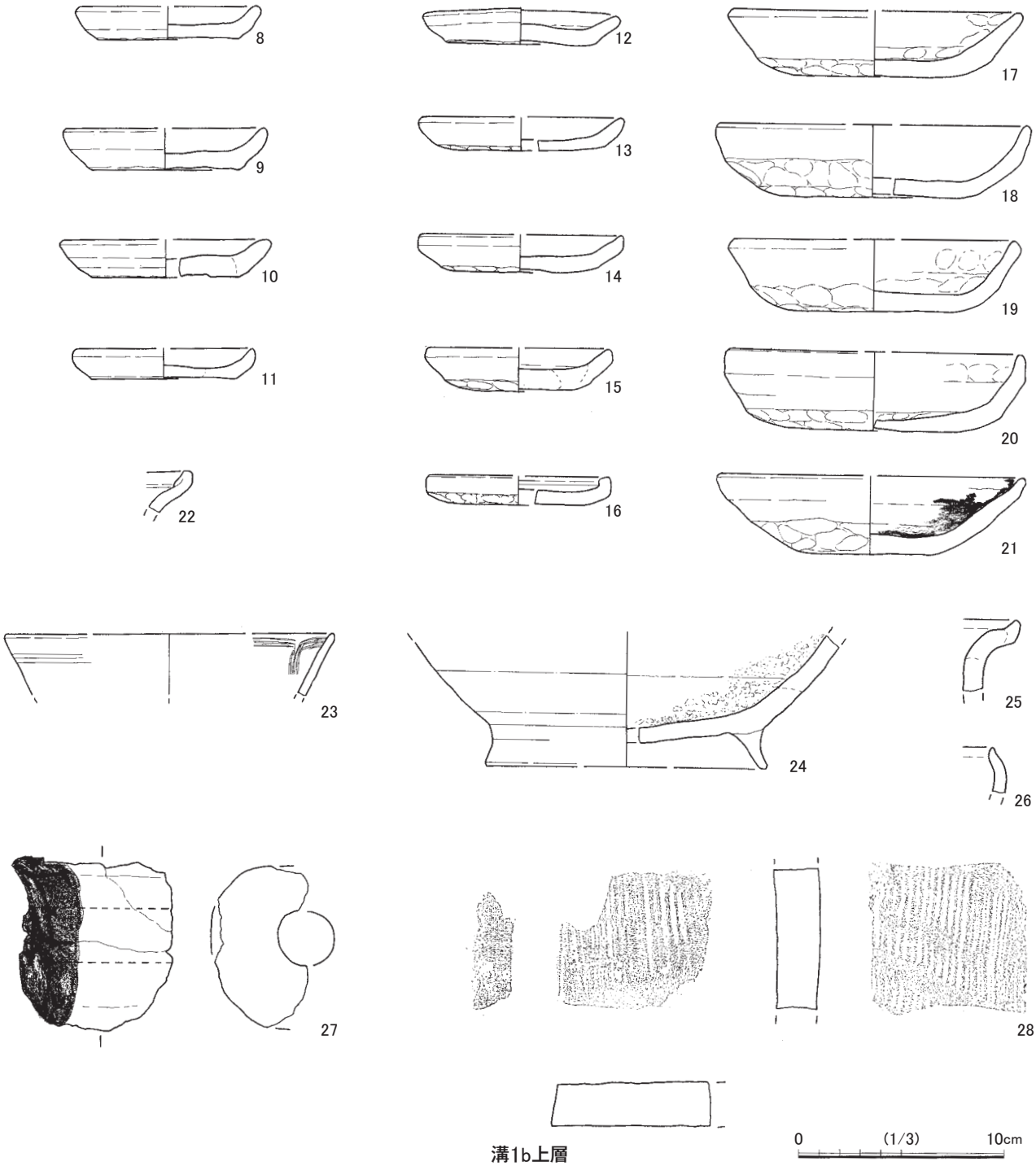


図８　出土遺物②

づくね成形のもの（小12～16、大17～21）に分かれるが、溝1b全体の出土点数（表1）を見れば、手づくねが88％を占め、この段階においての主体であったことが分かる。手づくねは大・小とも身深で器壁が厚く、この類型の中では新しい特徴を備えている。23の龍泉窯系青磁劃花文碗（大宰府Ⅰ-4類）や24の尾張産の山茶碗系片口鉢（Ⅰ類）、25の常滑4～5型式の甕口縁部片、28の永福寺創建期に比される女瓦A類など、全体として13世紀の中葉以前にまとまる遺物様相として捉えられる。

図9に掲げた遺物も**溝1b**の出土で、かわらけ集中部を含む中層より出土した。かわらけ（29～38、42～51）は上層と同じく手づくね製品が主体を占めるが、器壁がやや薄手となる資料（34～36）や、口縁端部をナデによって面取りするもの（34～37､47～49）など､わずかに古相の名残が見受けられる。40・41の木製品は、ともに用途不明である。

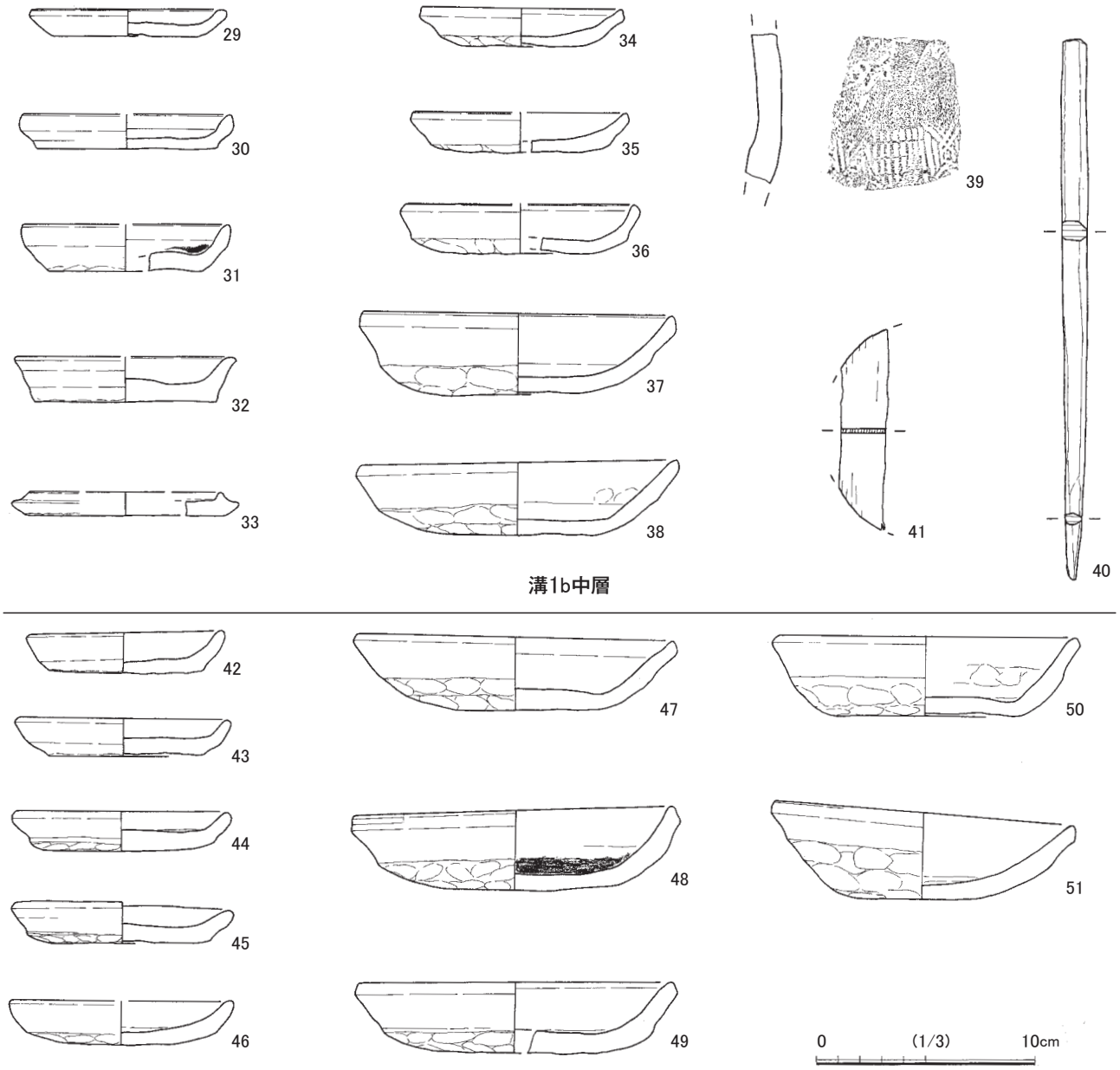


図9　出土遺物③

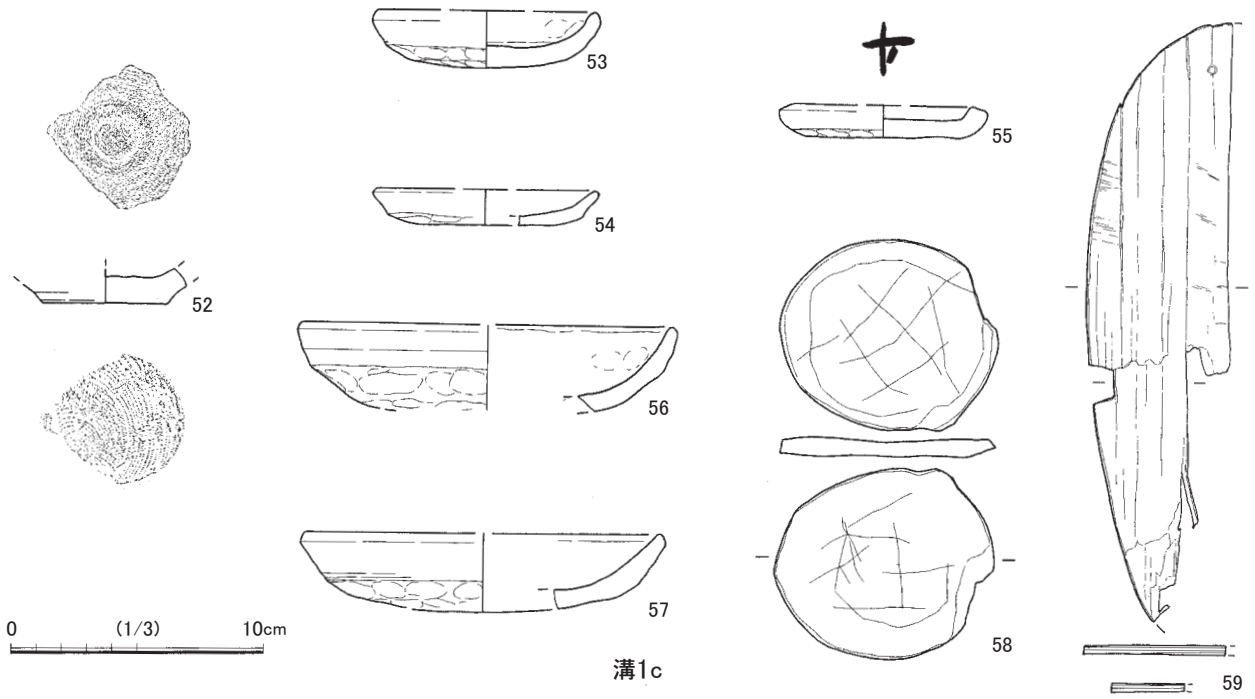


図10　出土遺物④

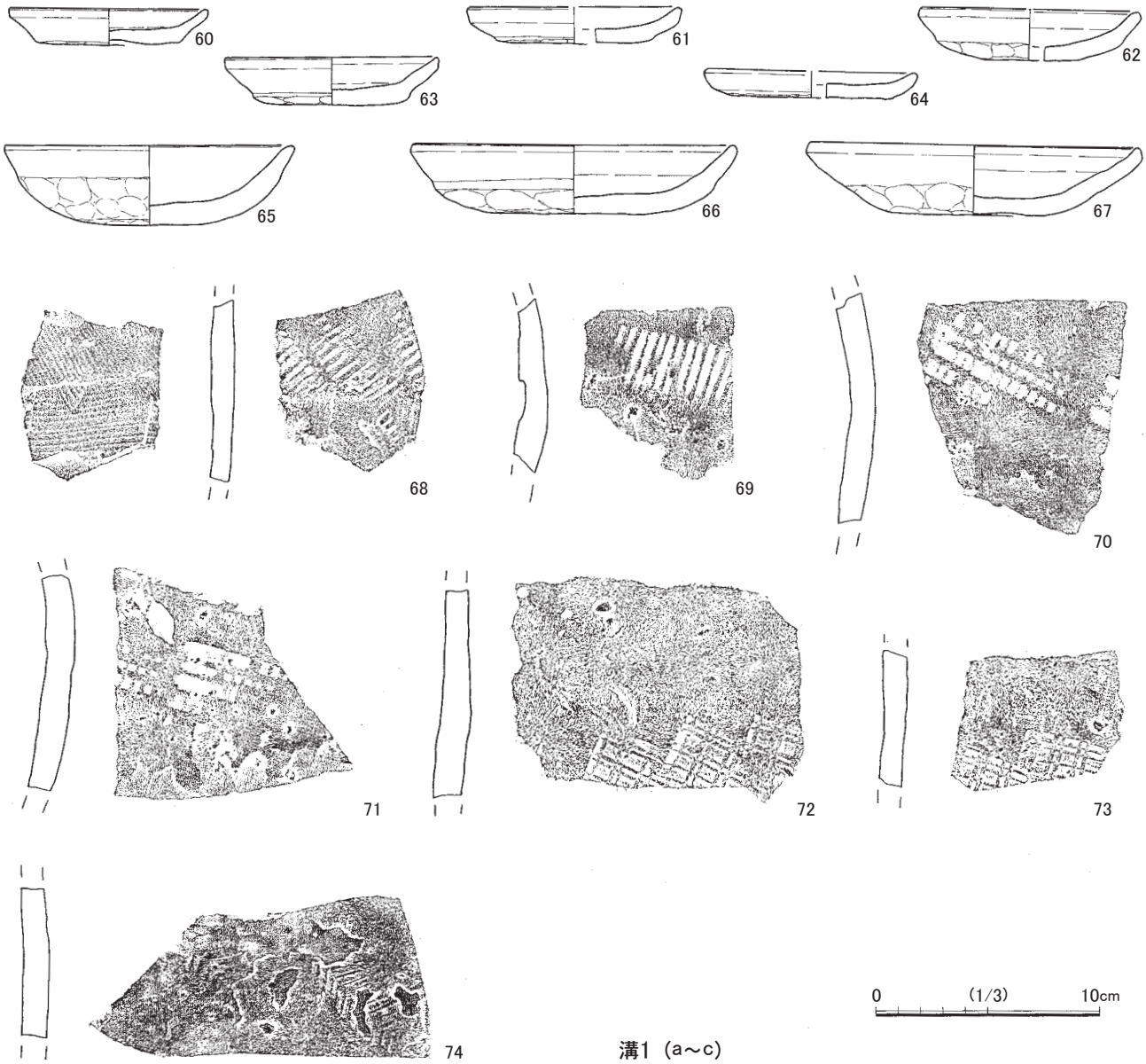
図10には溝1cの出土遺物を掲げた。表1におけるかわらけの出土点数は手づくねが97％を占め、ロクロ成形の資料は1点のみの出土であった。52の底部片がそれで、厚底で外底面の糸切り痕は回転が緩く、内底面には仕上げのナデが施されずロクロ挽き痕が顕著に残る。胎土は細砂粒が多い精良土で、焼成は良く淡灰褐色を呈している。全体として鎌倉時代初期の12世紀末葉に遡る様相を示している。手づくねは溝1bほど遺存の良好な資料が多くないため明確な様相差を見出しにくいが、限られた資料からは56・57の大皿が身浅となるところに古い要素を見て取れるかもしれない。55は内折れかわらけ。図示したほど明瞭ではないが、内底面に判読できない墨痕が認められた。58は手づくね大皿の底部で、内外面に針状具による線刻が施されていた。何を象ったものかは定かでない。59は草履芯の半存品。

図11には、溝1のうちa～cへの帰属を把握できなかった遺物を掲げた。表1では手づくね製品がかわらけのうち81％の点数比率を占めることから、概ね1b以前の出土状況を色濃く映し出していると考えられる。実測・図示できたかわらけ（60～67）は全て手づくねである。68～74は常滑甕の胴部片で、外面に押印のある資料を集めた。

図12－75～81は土坑1の出土遺物。出土したかわらけの約90％がロクロ成形の資料となる。図化できたロクロかわらけ（75～79）は大・小とも器高が低く、口径と底径との差が小さい。また、大皿の器形がさほど内湾傾向を示していないことから見て、13世紀前半～中頃の所産であると考えられる。実測・法量復元できた個体は限られているが、中皿への法量分化が進む以前の資料と考えておきたい。手づくねがごく僅少であることは、時期的傾向というよりも選択の結果による組成の特徴といえよう。81は渥美甕の胴（肩）部片。外面に平行格子状押印とヘラ描きによる「上」の線刻文字が施されている。

図12－82・83は柱穴列aのPit27から出土したかわらけ。Pit27は、溝1cを切って構築されている。84は柱穴列bのPit20から出土したかわらけ。85はPit6、86はPit24で出土した手づくねかわらけ小皿。

図12－87～95は遺構外の出土遺物。95のみ1面上の精査時に出土した資料で、その他は全て表土および攪乱掘削時に出土した遺物である。87のロクロかわらけ小皿は器壁が厚手で口径に対して身深の形態をとる。15世紀中葉～後半の所産と見られ、溝1a出土かわらけと同例の資料である。93は平瓦



溝1（a～c）

図11　出土遺物⑤

の小片を転用した研磨具。凹面～破断面が使用され、平滑になっている。凹面には布目痕が僅かに残る。94・95はともに同安窯系の青磁で碗と皿。94の碗は体部外面に縦方向の櫛描き文を、内面にヘラと櫛歯を併用した劃花文を施している。大宰府Ⅰ－1b類。95の皿も内底面にヘラと櫛歯による劃花文を施している。外面の体部下端～底部に回転ヘラケズリを施しており、外底面は無釉である。大宰府Ⅰ－1b類。

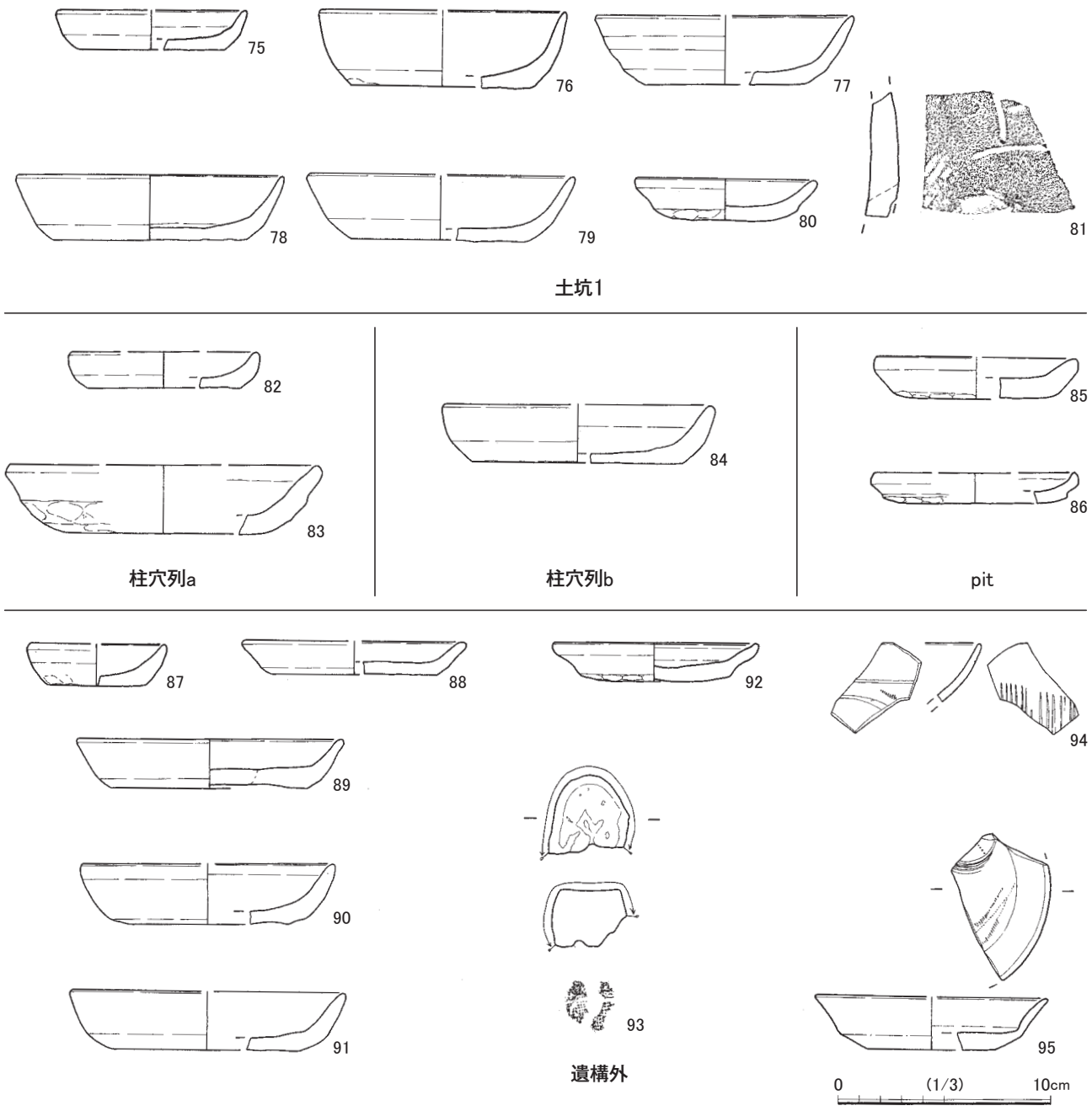

75
76
77
78
79
80
81
土坑1
82
83
柱穴列a
84
柱穴列b
85
86
pit
87
88
89
90
91
92
93
94
95
遺構外
0
(1/3)
10cm

図12　出土遺物⑥

表１　出土遺物計数・計量表

地区	面	遺構	層位	かわらけ															
				ロクロ				手づくね								小片		小壺?	
				大		小		大		小		内折れ		不明					
Ⅱ	1	溝1a～1c		35	356	22	189	197	2494	48	431					24	72		
Ⅱ	1	溝1a		41	521	10	150	12	82	2	10								
Ⅱ	1	溝1a	最下層					2	260										
Ⅱ	1	溝1b				7	194	81	2096	29	353					28	75		
Ⅱ	1	溝1b	上層	52	699	32	452	420	5055	72	771	3	39			42	120		
Ⅱ	1	溝1b	中層	8	90	12	140	163	2282	39	337	2	19						
Ⅱ	1	溝1c						24	341	7	79	1	6						
Ⅱ	1	溝1c	13・14層	1	35			1	6	1	20	1	9			1	14		
Ⅰ	1	溝2						6	29	4	57								
Ⅱ	1	井戸1		1	35			1	6										
Ⅰ	1	土坑1		81	864	23	156	9	62	3	11					63	128		
Ⅱ	1	柱列a-P21						2	17	1	4								
Ⅱ	1	柱列a-P27		1	10			8	98										
Ⅱ	1	柱列a-P28								3	16								
Ⅱ	1	柱列b-P20		4	93	1	4	8	85	3	9								
Ⅱ	1	柱列b-P23						1	16										
Ⅱ	1	柱列b-P26						1	9							2	6		
Ⅱ	1	柱列d-P7						1	4	1	4								
Ⅱ	1	柱列e-P5														3	6		
Ⅰ	1	柱列e-P10						1	11							3	5		
Ⅱ	1	P8		1	20			9	37							10	24		
Ⅰ	1	P14		51	261	8	60	59	427	16	80					41	104		
Ⅱ	1	P18						14	127	1	42								
Ⅱ	1	P24						1	7	1	7								
Ⅰ	1	P29						2	16										
Ⅰ	～1	遺構外	表土・攪乱	7	100	4	59	7	68	2	29					1	11		
Ⅰ	1	遺構外		26	236	13	105	63	606	9	64					9	71		
Ⅱ	～1	遺構外	表土・攪乱	57	850	20	201	138	1335	27	266					51	194	1	26
Ⅰ・Ⅱ	～1	遺構外	攪乱	4	86	1	12	4	46										

地区	面	遺構	層位	土器				白磁						青磁(同安系)		青磁(龍泉系)					
				鍔釜		南伊勢系鍋		口兀皿		皿		瓶		櫛描文碗		劃花文碗		蓮弁文碗		碗・皿	
Ⅱ	1	溝1a～1c										1	31			1	3			1	3
Ⅱ	1	溝1a		1	42																
Ⅱ	1	溝1a	最下層																		
Ⅱ	1	溝1b																			
Ⅱ	1	溝1b	上層			1	10			2	27					4	52			4	17
Ⅱ	1	溝1b	中層					1	2							2	13				
Ⅱ	1	溝1c																			
Ⅱ	1	溝1c	13・14層																		
Ⅰ	1	溝2																			
Ⅱ	1	井戸1																			
Ⅰ	1	土坑1																			
Ⅱ	1	柱列a-P21																			
Ⅱ	1	柱列a-P27																			
Ⅱ	1	柱列a-P28																			
Ⅱ	1	柱列b-P20																			
Ⅱ	1	柱列b-P23																			
Ⅱ	1	柱列b-P26																			
Ⅱ	1	柱列d-P7										1	2								
Ⅱ	1	柱列e-P5																			
Ⅰ	1	柱列e-P10																			
Ⅱ	1	P8																			
Ⅰ	1	P14																1	6		
Ⅱ	1	P18																			
Ⅱ	1	P24																			
Ⅰ	1	P29																			
Ⅰ	～1	遺構外	表土・攪乱																		
Ⅰ	1	遺構外												1	24						
Ⅱ	～1	遺構外	表土・攪乱											1	4			1	6	2	6
Ⅰ・Ⅱ	～1	遺構外	攪乱																		

地区	面	遺構	層位	瀬戸										渥美・湖西			
				卸皿		折縁鉢		入子		入子		瓶子		甕		短頸壺	
Ⅱ	1	溝1a～1c										1	24				
Ⅱ	1	溝1a		1	35			1	51								
Ⅱ	1	溝1a	最下層														
Ⅱ	1	溝1b												1	41		
Ⅱ	1	溝1b	上層			1	10			1	8	1	32	2	82	2	11
Ⅱ	1	溝1b	中層											2	49		
Ⅱ	1	溝1c															
Ⅱ	1	溝1c	13・14層														
Ⅰ	1	溝2															
Ⅱ	1	井戸1															
Ⅰ	1	土坑1												1	83		
Ⅱ	1	柱列a-P21															
Ⅱ	1	柱列a-P27															
Ⅱ	1	柱列a-P28															
Ⅱ	1	柱列b-P20															
Ⅱ	1	柱列b-P23															
Ⅱ	1	柱列b-P26															
Ⅱ	1	柱列d-P7															
Ⅱ	1	柱列e-P5															
Ⅰ	1	柱列e-P10															
Ⅱ	1	P8															
Ⅰ	1	P14															
Ⅱ	1	P18															
Ⅱ	1	P24															
Ⅰ	1	P29															
Ⅰ	～1	遺構外	表土・攪乱														
Ⅰ	1	遺構外												1	19		
Ⅱ	～1	遺構外	表土・攪乱							1	9			1	35		
Ⅰ・Ⅱ	～1	遺構外	攪乱														

地区	面	遺構	層位	尾張・常滑						瓦器		瓦質土器		瓦							
				甕		片口鉢				碗		火鉢		平瓦				丸瓦			
						Ⅰ類		Ⅱ類						永・女A類		不明		永・男A類		永・男D類	
Ⅱ	1	溝1a～1c		42	4241	3	127														
Ⅱ	1	溝1a										1	36			1	4				
Ⅱ	1	溝1a	最下層	1	35																
Ⅱ	1	溝1b		1	411																
Ⅱ	1	溝1b	上層	19	1004	6	392			2	4			2	250			1	61		
Ⅱ	1	溝1b	中層	1	81																
Ⅱ	1	溝1c		2	143																
Ⅱ	1	溝1c	13・14層																		
Ⅰ	1	溝2																			
Ⅱ	1	井戸1																			
Ⅰ	1	土坑1		1	132																
Ⅱ	1	柱列a-P21																			
Ⅱ	1	柱列a-P27																			
Ⅱ	1	柱列a-P28		3	214																
Ⅱ	1	柱列b-P20				1	23	1	23												
Ⅱ	1	柱列b-P23																			
Ⅱ	1	柱列b-P26		7	293																
Ⅱ	1	柱列d-P7		1	20																
Ⅱ	1	柱列e-P5																			
Ⅰ	1	柱列e-P10																			
Ⅱ	1	P8														1	11				
Ⅰ	1	P14		6	246	3	94														
Ⅱ	1	P18																			
Ⅱ	1	P24																			
Ⅰ	1	P29																			
Ⅰ	～1	遺構外	表土・攪乱	3	166																
Ⅰ	1	遺構外		6	338	1	35	1	70												
Ⅱ	～1	遺構外	表土・攪乱	21	989	5	138	1	46	1	2	1	1			2	72				
Ⅰ・Ⅱ	～1	遺構外	攪乱																		

地区	面	遺構	層位	鉄製品・鉄滓								石製品				木製品・木材			
				刀子		釘		不明		鉄滓		火打石		砥石		草履芯	箸	不明	板片
Ⅱ	1	溝1a ～ 1 c		1	29	1	12			1	23								13
Ⅱ	1	溝1a																	
Ⅱ	1	溝1a	最下層																
Ⅱ	1	溝1b																	
Ⅱ	1	溝1b	上層					10	166	7	273								16
Ⅱ	1	溝1b	中層														6	2	
Ⅱ	1	溝1c																	14
Ⅱ	1	溝1c	13・14層							1	46					1			20
Ⅰ	1	溝2																	
Ⅱ	1	井戸1															1		2
Ⅰ	1	土坑1				1	3												
Ⅱ	1	柱列a-P21																	
Ⅱ	1	柱列a-P27								1	230								
Ⅱ	1	柱列a-P28																	
Ⅱ	1	柱列b-P20																	
Ⅱ	1	柱列b-P23																	
Ⅱ	1	柱列b-P26																	
Ⅱ	1	柱列d-P7																	
Ⅱ	1	柱列e-P5																	
Ⅰ	1	柱列e-P10				1	8												
Ⅱ	1	P8										1	8						
Ⅰ	1	P14				5	20			5	18								
Ⅱ	1	P18																	
Ⅱ	1	P24																	
Ⅰ	1	P29																	
Ⅰ	～1	遺構外	表土・攪乱																
Ⅰ	1	遺構外												1	7				
Ⅱ	～1	遺構外	表土・攪乱			1	10												
Ⅰ・Ⅱ	～1	遺構外	攪乱																

地区	面	遺構	層位	土製品・用材						肥前系磁器		瀬戸・美濃系磁器				不明陶器	
				鞴羽口		炉壁		炭化材(土壁?)		染付碗		染付碗		不明		擂鉢	
Ⅱ	1	溝1a ～ 1 c		3	118			1	32								
Ⅱ	1	溝1a															
Ⅱ	1	溝1a	最下層														
Ⅱ	1	溝1b															
Ⅱ	1	溝1b	上層	7	365												
Ⅱ	1	溝1b	中層	1	73												
Ⅱ	1	溝1c															
Ⅱ	1	溝1c	13・14層														
Ⅰ	1	溝2															
Ⅱ	1	井戸1															
Ⅰ	1	土坑1															
Ⅱ	1	柱列a-P21															
Ⅱ	1	柱列a-P27															
Ⅱ	1	柱列a-P28				1	64										
Ⅱ	1	柱列b-P20															
Ⅱ	1	柱列b-P23															
Ⅱ	1	柱列b-P26															
Ⅱ	1	柱列d-P7															
Ⅱ	1	柱列e-P5															
Ⅰ	1	柱列e-P10															
Ⅱ	1	P8															
Ⅰ	1	P14															
Ⅱ	1	P18															
Ⅱ	1	P24															
Ⅰ	1	P29															
Ⅰ	～1	遺構外	表土・攪乱														
Ⅰ	1	遺構外										1	5				
Ⅱ	～1	遺構外	表土・攪乱							1	3			1	29	2	14
Ⅰ・Ⅱ	～1	遺構外	攪乱														

地区	面	遺構	層位	土師器				須恵器		獣骨		貝							種子
				相模型甕		不明		坏		不明	ウシ・ウマ	不明	アカニシ	サザエ	アワビ	ハマグリ	チョウセンハマグリ	ダンベイキサゴ	桃核
Ⅱ	1	溝1a～1c				2	19			3	18			1	1	5		1	8
Ⅱ	1	溝1a								1	1								
Ⅱ	1	溝1a	最下層																
Ⅱ	1	溝1b																	
Ⅱ	1	溝1b	上層			1	21			4			5			1			9
Ⅱ	1	溝1b	中層							1		2	6	1	6	33	1	17	1
Ⅱ	1	溝1c																	
Ⅱ	1	溝1c	13・14層									1	1	1	1	3			
Ⅰ	1	溝2																	
Ⅱ	1	井戸1									1								
Ⅰ	1	土坑1								1									
Ⅱ	1	柱列a-P21																	
Ⅱ	1	柱列a-P27																	
Ⅱ	1	柱列a-P28																	
Ⅱ	1	柱列b-P20																	
Ⅱ	1	柱列b-P23																	
Ⅱ	1	柱列b-P26																	
Ⅱ	1	柱列d-P7																	
Ⅱ	1	柱列e-P5																	
Ⅰ	1	柱列e-P10																	
Ⅱ	1	P8																	
Ⅰ	1	P14						1	7										
Ⅱ	1	P18																	
Ⅱ	1	P24																	
Ⅰ	1	P29																	
Ⅰ	～1	遺構外	表土・攪乱																
Ⅰ	1	遺構外																	
Ⅱ	～1	遺構外	表土・攪乱	1	11														
Ⅰ・Ⅱ	～1	遺構外	攪乱																

凡例

かわらけ			
ロクロ			
大		小	
35	356	22	189
41	521	10	150
		7	194
52	699	32	452
8	90	12	140
1	35		

破片点数　重量

（木製品・自然遺物は点数のみ）

表２　出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
１面　溝１a（図７）						
1	土器	かわらけ	5.5	4.1	2.0	完形　32g　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
2	土器	かわらけ	6.0	4.4	1.9	2/3　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
3	土器	かわらけ	(5.9)	(4.0)	1.6	1/4　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
4	土器	かわらけ	(13.5)	(7.2)	3.2	1/6　ロクロ大　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
5	土器	かわらけ	(11.5)	(7.5)	3.2	1/8　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
6	土器	鍔釜	—	—	[6.9]	口小片　胎土：精良　色調：淡黄褐色
7	陶器	瀬戸 碗or皿	—	5.0	0.9	底部完存　内面の灰釉が摩滅　4ヶ所にトチ痕あり
１面　溝１b上層（図８）						
8	土器	かわらけ	(8.6)	6.8	1.6	1/2弱　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
9	土器	かわらけ	(9.6)	7.1	2.1	1/3　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：明褐色
10	土器	かわらけ	(9.9)	(7.2)	1.8	1/3　ロクロ小　胎土：やや粉質　色調：淡黄褐色
11	土器	かわらけ	(8.5)	(7.0)	1.5	1/4　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：明褐色
12	土器	かわらけ	9.3	7.3	1.8	2/3　手づくね小　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
13	土器	かわらけ	(9.7)	(8.2)	1.5	1/3　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
14	土器	かわらけ	(9.7)	(7.7)	1.8	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
15	土器	かわらけ	(8.7)	(7.1)	2.1	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
16	土器	かわらけ	(8.8)	—	1.4	1/4　手づくね小（内折れ）　胎土：雲母・白色針状物質 色調：淡黄褐色
17	土器	かわらけ	(13.8)	—	3.3	1/2　手づくね大　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
18	土器	かわらけ	(14.9)	—	3.5	1/4　手づくね大　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
19	土器	かわらけ	(13.6)	—	3.5	1/4　手づくね大　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
20	土器	かわらけ	(14.2)	—	3.9	1/4　手づくね大　胎土：やや粉質　色調：淡黄褐色
21	土器	かわらけ	(14.7)	—	3.8	1/3　手づくね大　胎土：微砂粒少量　白色針状物質 色調：橙褐色/黒色
22	土器	鍋	—	—	[1.9]	口小片　南伊勢系　胎土：白色小礫　色調：明褐褐色
23	青磁	碗	(15.7)	—	[3.0]	口1/8　龍泉窯系・Ⅰ-4類　胎土：緻密　色調：明緑灰色
24	陶器	尾張 片口鉢	—	(13.6)	[6.6]	底1/4　山茶碗系（Ⅰ類）　胎土：長石多量　色調：淡灰色
25	陶器	常滑 甕	—	—	[3.4]	口小片　4型式　胎土：長石多量　色調：暗灰色
26	陶器	短頸壺	—	—	—	口小片　渥美・湖西産か　胎土：微細砂多量　色調：淡灰色
27	土製品	鞴羽口	長さ [7.2]	直径 (7.8)	孔径 (2.7)	先端部1/2弱　胎土：粗雑　色調：橙褐色/黒色　先端部ガラス質付着
28	瓦	平瓦	長さ [7.7]	幅 [7.8]	厚さ 2.2	小片　永福寺女瓦A類　胎土：精良　色調：灰黒～淡灰色
１面　溝１b中層（図９）						
29	土器	かわらけ	8.7	6.5	1.2	完形　48g　ロクロ小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：明褐色
30	土器	かわらけ	(9.6)	(8.2)	1.6	1/4　ロクロ小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：明褐色
31	土器	かわらけ	(9.4)	(7.0)	2.1	1/4　ロクロ小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：褐色
32	土器	かわらけ	(9.9)	(8.4)	2.1	1/4　ロクロ小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色

33	土器	かわらけ	(8.1)	—	1.6	1/6　手づくね小(内折れ)　胎土：雲母・白色針状物質　色調：褐色
34	土器	かわらけ	(9.1)	—	1.7	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：褐色
35	土器	かわらけ	(9.6)	—	1.8	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
36	土器	かわらけ	(10.4)	—	2.3	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
37	土器	かわらけ	14.2	—	3.5	略完形　206g　手づくね大　胎土：雲母・白色針状物質 色調：淡黄褐色
38	土器	かわらけ	14.3	—	3.6	完形　227g　手づくね大　胎土：精良、白色針状物質 色調：淡黄褐色/黒褐色
39	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目タタキ
40	木製品	用途不明	長さ 24.6	幅 1.3	厚さ 1.0	棒状　板目材を使用 側縁部を刀子により面取り、一端を尖らせる
41	木製品	用途不明	直径 (10.0)	—	厚さ 0.2	円板状　柾目材を使用
1面　溝1b中層　かわらけ集中(図9)						
42	土器	かわらけ	8.7	7.1	2.0	略完形　[59]g　ロクロ小　胎土：精良、白色針状物質 色調：明橙褐色
43	土器	かわらけ	9.5	7.1	1.8	完形　77g　ロクロ小　胎土：精良、白色針状物質　色調：完形
44	土器	かわらけ	9.6	8.4	1.8	完形　109g　手づくね小　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
45	土器	かわらけ	9.8	8.4	1.9	2/3　手づくね小　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
46	土器	かわらけ	(10.0)	—	2.0	1/4　手づくね小　胎土：精良、白色針状物質　色調：明橙褐色
47	土器	かわらけ	14.4	—	3.6	完形　248g　手づくね大　胎土：精良、白色針状物質 色調：明橙褐色
48	土器	かわらけ	14.4	—	4.0	完形　247g　手づくね大　胎土：精良、白色針状物質　色調：明橙褐色
49	土器	かわらけ	14.3	—	3.5	3/4　手づくね大　胎土：細砂粒多い　白色針状物質　色調：明黄褐色
50	土器	かわらけ	13.5	—	3.7	完形　197g　手づくね大　胎土：細砂粒多い　白色針状物質 色調：明黄褐色
51	土器	かわらけ	13.7	—	4.4	完形　197g　手づくね大　胎土：細砂粒多い　白色針状物質 色調：橙褐色
1面　溝1c(図10)						
52	土器	かわらけ	—	5.0	[1.4]	底2/3　ロクロ大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡灰褐色 内底面未調整(ロクロ目を残す)
53	土器	かわらけ	(8.7)	—	2.2	1/3　手づくね小　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
54	土器	かわらけ	(8.6)	—	1.5	1/6　手づくね小　胎土：精良　色調：橙褐色
55	土器	かわらけ	(7.1)	—	1.3	1/3　手づくね小(内折れ)　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
56	土器	かわらけ	(14.6)	—	[3.3]	1/4　手づくね大　胎土：白色針状物質　色調：明橙褐色
57	土器	かわらけ	(14.0)	—	(3.1)	1/4　手づくね大　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
58	土器	かわらけ	長径 8.7	短径 7.5	厚さ 0.8	(完存)　手づくね大の底部　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色 内外面に線刻画(焼成後)
59	木製品	草履芯	長さ [23.0]	幅 [4.0]	厚さ [0.4]	1/3　板目材を使用(樹種未同定)　13・14層
1面　溝1(a～c)(図11)						
60	土器	かわらけ	(8.8)	—	1.4	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
61	土器	かわらけ	(9.4)	—	1.6	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡灰褐色
62	土器	かわらけ	(9.8)	—	2.2	1/3　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：橙色
63	土器	かわらけ	9.4	—	2.0	1/2　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
64	土器	かわらけ	(9.4)	—	1.2	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色

65	土器	かわらけ	12.8	—	3.6	2/3　手づくね大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：褐色
66	土器	かわらけ	(14.4)	—	3.1	1/3　手づくね大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
67	土器	かわらけ	(14.6)	—	3.1	1/2　弱　手づくね大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
68	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目タタキ、内面ハケ状小口によるナデ
69	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目タタキ
70	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目タタキ
71	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目タタキ
72	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目タタキ
73	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目（四菱形）タタキ
74	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目（四菱形）タタキ
1面　土坑1（図12）						
75	土器	かわらけ	(8.8)	(6.9)	1.6	1/2弱　ロクロ小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：橙色
76	土器	かわらけ	(11.4)	(8.4)	3.3	1/4　ロクロ大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
77	土器	かわらけ	(12.0)	(7.6)	3.0	1/4　ロクロ大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：橙色
78	土器	かわらけ	(12.4)	(9.0)	3.1	1/3　ロクロ大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
79	土器	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.1	1/4　ロクロ大　胎土：白色針状物質　色調：橙色
80	土器	かわらけ	(8.8)	—	2.0	1/4　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：橙色
81	陶器	渥美甕	—	—	—	胴小片　外面にヘラによる線刻「上」と格子目タタキ
1面　柱穴列a（図12）						
82	土器	かわらけ	(8.7)	(7.2)	1.7	1/6　ロクロ小　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色 Pit27出土
83	土器	かわらけ	(14.3)	—	3.2	1/8　手づくね大　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色 Pit27出土
1面　柱穴列b（図12）						
84	土器	かわらけ	(12.4)	(9.9)	2.8	1/3　ロクロ大　胎土：細砂粒多量　色調：淡黄褐色　Pit20出土
1面　ピット						
85	土器	かわらけ	(9.4)	—	1.8	1/3　手づくね小　胎土：雲母　色調：淡黄褐色　Pit6出土
86	土器	かわらけ	(9.4)	—	1.5	1/8　手づくね小　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色　Pit24出土
遺構外（図12）						
87	土器	かわらけ	(6.4)	(4.0)	2.0	1/2弱　ロクロ小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：明橙色
88	土器	かわらけ	(10.4)	(7.4)	1.6	1/4　ロクロ小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：淡黄褐色
89	土器	かわらけ	(12.5)	9.2	2.3	1/2弱　ロクロ大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：橙色
90	土器	かわらけ	(11.7)	(7.6)	2.8	1/3　ロクロ大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：褐色
91	土器	かわらけ	(12.7)	(8.8)	2.8	1/5　ロクロ大　胎土：雲母・白色針状物質　色調：褐色
92	土器	かわらけ	(9.6)	—	1.8	1/3　手づくね小　胎土：雲母・白色針状物質　色調：橙色
93	土器	平瓦（転用）	3.8	3.5	2.6	凹面～破断面に擦痕　色調：灰色
94	青磁	碗	—	—	[2.8]	口小片　同安窯系・Ⅰ-1b類　胎土：精良　色調：灰緑色
95	青磁	皿	(10.8)	(6.0)	2.5	1/6　同安窯系・Ⅰ-1b類　胎土：精良　色調：灰緑色

第五章　調査成果のまとめ

本地点では中世の遺構面が現代の攪乱によって大きく失われており、遺存していたのは中世基盤層の上面に構築された1面のみであった。この1面上で中世の遺構群が重複して検出され、多いところでは4段階の遺構変遷（切り合い）を把握することができた。

また、中世遺構の調査を終えた後に中世基盤層を部分的に掘り抜いたが、遺構・遺物の発見には至らなかった。

以下、中世遺構の展開と変遷について、溝1の変遷を軸に若干の検討を加えて本調査成果のまとめとしたい。

溝１（「小町大路」側溝）について

溝1はⅡ区西半部で検出された北東－南西方向の溝で、古い順に溝1c→1b→1aの順に構築されていたことが確認できた。3段階の溝とも概ね同方向で延びるが、細かく見ると1bが若干西振れとなる。流下方向は全体として北東から南西に向かっていたが、1b･1cでは底面が段状に20cmほど落ち込んでおり、1cでは北側が一段低くなっている状況が見て取れた。開削時における工事分担者の違いや存続期間内の浚渫によって生じた段差と考えられよう。a～c、いずれの段階においても護岸施設の痕跡は窺えなかった。

出土遺物の様相からは1c－1b間に若干の時間差が窺えたが､1c埋没（13世紀前半）から1b構築･廃絶（13世紀中葉頃）までに経過した時間は長くないことが、1b中層出土のかわらけから読み取れた。1b中層のかわらけ集中部は標高7.5～7.6ｍで平面的な広がりを見せ、鎌倉でいう「かわらけ溜まり」ほどの集積状況ではなかった。ただ、完形資料が主体となる点からは、一括廃棄の跡と考えて大過ないだろう。かわらけ廃棄時における遺構の断面形は非常になだらかな傾斜としか捉えられず、覆土様相を見ても溝としての機能は失っていたものと考えられる。次の溝1aでは15世紀中葉～後半のかわらけが数点出土しており、覆土様相が1bまでと大きく異なっていた点からも、1bの廃絶以後、1cの開削までには一定の断絶期間があったと考えられる。この間､溝1bに後続する溝の存在を窺わせる痕跡は確認できなかった。存在したとすれば本地点の西側、現行の道路下またはそれに近接した未調査範囲ということになろう。

これら三時期に亘る溝の性格について、出土位置や流下方向を見れば、西側に存在したであろう道路の側溝と見るのが自然な理解であろう。第1章で述べたように、中世において西側道路は「小町大路」または「町大路」と称され（註1）、現行道路についても小町大路と呼ばれている。周辺の調査では、現行の小町大路を挟んだ東西で道路の側溝と見られる北東－南西方向の溝が発見され、重層的に版築を施した道路面も複数の地点で確認されている。過去の調査成果に共通しているのは、大路の西側溝では土台角材から立ち上げた木組み護岸が施されているのに対し、東側溝では護岸施設を持たずに素掘り溝として検出されている点である。後者の状況は、本地点でも追加事例として確認できた。他地点の報告では両側に木組み護岸を持つ若宮大路側溝との対比から、小町大路の西側溝にも東側溝と同様の木組み護岸が設置され、（腐朽により）遺存しなかったものと理解されている。この点について、今回の調査所見にのみ基づけば、①各時期の側溝（溝1a～c）断面に護岸裏込め土と思しき痕跡が見られなかった。②溝の底面に土台材の据え方や規則的な杭穴の痕跡が認められなかった。③市内の他地域に比べ地下水は豊富でなかったものの一定量の湧水はあり、僅少ながら溝内には木製遺物が遺存していた。といった理由から、土台材を含む木組み護岸が何の痕跡も残さずに腐朽・消失したとは考えにくい。狭小な点的成

果をもって普遍的評価として示すことはできないが、実状として東側溝での護岸検出例がない以上、部分的であるにせよ東側溝が素掘り溝として構築・維持されていた可能性を考えても良いだろう。

対する西側溝では木組み護岸に加えて、新しい時期になると切石（鎌倉石）による護岸が構築されるケースが確認されている（註2）。竪穴建物の多い「二ノ鳥居」以南地区での検出例が目立ち、時期や場の性格によって護岸形態が異なっていたことを窺わせてくれる。もう一つ、最初期の西側溝が極めて規模の大きなものであった可能性が、近年の調査成果から把握されつつあること（註3）も重要である。「小町大路」の整備時期や初現段階の規模を知ることにより、都市鎌倉の形成史に新たな知見がもたらされることだろう。

「小町大路」東側溝が検出された地点の中で、本地点の80ｍ北東に位置する小町二丁目402番5地点（**図1－2**）では新旧4時期の大路側溝と推定される溝が確認され、このうち溝4・5が最古段階に位置付けられている。覆土様相の対比からは、どちらかが本地点の溝1cと同一の遺構として繋がるものと推測できる。また、同地点の北東に隣接する402番9地点（**図1－3**）でも合計で6段階の大路側溝と思われる溝が確認されている。ほぼ同じ位置に繰り返し構築され、複雑な覆土堆積を残すため前掲地点との直接的な対比は難しいが、第3面の溝17・15cが初期側溝と考えられているので、これも本地点の溝1cと同一遺構となる可能性が高い。同地点の側溝では、第1面の溝1が側溝では最も新しい。旧い側溝の西側上部を浅く削り込んだだけで、東岸のみの検出であったため詳細は不明であるが、幅は4ｍ以上と広い。底面は一定レベルで平らに推移しており、断面図を一見した限りでは側溝というより造成平場という印象を持った。15世紀代のかわらけが出土しており、覆土様相の近似性から見ても本地点の溝1aとは同一の遺構と判断して差し支えないだろう。溝1aも東岸から幅1ｍしか検出していないので、これがどのような規模・形態の遺構となるかについては、今後の周辺における調査成果に委ねたい。

その他の検出遺構について

溝1a～cの他、本地点では井戸や土坑、柱穴列といった遺構が検出された。

井戸1はⅡ区の北壁際で検出され、安全面への配慮から底面まで完掘することができなかった。そのため、井枠を有するかも分からず井戸と判断した根拠は薄弱であるが、平面規模や円筒形の断面形状を呈することから井戸と認識した。本遺構は、初期「小町大路」側溝と見られる溝1cに切られており、本地点の中世遺構としては最古段階に位置付けられる。覆土中にウマ上顎骨や板片が捨てられていた他は出土遺物がなかったため具体的な所産時期は分からないが、大路の整備という土地利用の画期を考察する上では貴重な事例である。周辺成果も含めた断片情報を繋ぎ合わせることで、鎌倉初期、もしくはそれ以前における当地域の性格に近付くことができるだろう。

柱穴列は、溝1と平行に並ぶ3列（柱穴列a～c）と、これと直交方向に並ぶ2列（柱穴列d・e）を本報告では提示した。狭い調査範囲での復元のため過誤があるかも知れないが、基本的な軸線は溝1に沿っていると考えて間違いないだろう。各列とも掘立柱建物に復元できるものはなく、板塀など区画・遮蔽施設の痕跡と考えられる。前掲の2地点など、本地点より広い面積の調査地でも明確な建物復元案は示されていないので、若宮大路沿いの屋敷地と同様、道路に接した土地は少なくとも主屋を配置するような空間として認識されていなかったと考えられる。

柱穴列aは溝1cの東岸と柱穴列bを切っていることが確認できた。やや短絡的な想定だが、各遺構の配置関係から、当初は溝1cと柱穴列bがセットとして存在し、その後、溝1bと柱穴列aのセットが西に位置をずらして再構築されたことが考えられる。

柱穴列cは、溝2の底面に並ぶ「布掘り」方式をとる。他の柱列と上部構造がどのように異なるのか明確でないが、より堅牢な構造体を造るための措置と考えるのが妥当であろう。前掲2地点でも同形態の遺構が確認されており、小町大路の周辺では普遍的な工法であったことが窺える（註4）。出土遺物はロクロかわらけのみで、実測個体がないため詳細は不明であるが、13世紀後半以降の所産になると考えられる。

付記―年代観の根拠について―

本報告では各遺構の年代観について、主として下記の文献を参考に提示したが、在地土器で供膳具の中心となる「かわらけ」の編年研究では、特に年代観の付与という点で鎌倉内の研究者間に共通理解を見出せていない現状があり、また筆者自身がこれら先行研究を咀嚼できていないこともあって一定の幅を持たせた曖昧な記述に終始してしまった。お詫びしたい。

かわらけ：宗臺秀明　2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』

常滑：中野晴久　2005「常滑・渥美系」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』

【註】

註1　史料解釈に諸説があるため範囲の確定はできないとしながらも、「小町大路」が宝戒寺以南で夷堂橋以北の名称と理解することの蓋然性を説いている（馬淵ほか2007）。

註2　**図1－地点8**で切石積みの護岸が良好に遺存していた（宮田眞氏のご教示による）。**地点9・10**では溝内に切石が捨てられており、同様の切石護岸が存在していた可能性を窺える（地点10は筆者調査、地点9は調査担当者である山口正紀氏からのご教示）。本覚寺夷堂の建設に伴う発掘調査では、現在の小町大路にほぼ併行して走る切石積みの石垣が確認されている。詳細な説明はないが、概報の掲載写真からは溝（大路側溝）の護岸を思わせる検出状況が見て取れる（**地点11**・松尾1983）。

註3　やはり**図1－地点8・9・10**などで検出されている。各地点とも調査範囲の制約もあって幅や深さは把握されておらず、具体的な規模や形状、存続期間については今後の課題である。地点8・9では、この大溝が有機質土で埋没した後、上部に道路面が重層的に構築されている（宮田氏・山口氏のご教示による）。近年、玉林美男氏の整理によって、初期の若宮大路側溝と同形態・同規模となる可能性が示されている（玉林2010）。

註4　宇都洋平氏は鎌倉市内で検出された「布掘り」柱穴列を集成し、中世鎌倉では布掘り工法による建物は検出例がなく、主として区画施設の基礎工法として採用されたと理解されている。「布掘り」が採られた理由として、柱穴のみの構造体より強度・耐久性を高めるためとの認識が示されている（宇都2007）。

【引用・参考文献】

高柳光寿　1959『鎌倉市史　総説編』 鎌倉市

松尾宣方　1983 「36　本覚寺境内」 鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報　Ⅰ」 鎌倉市教育委員会

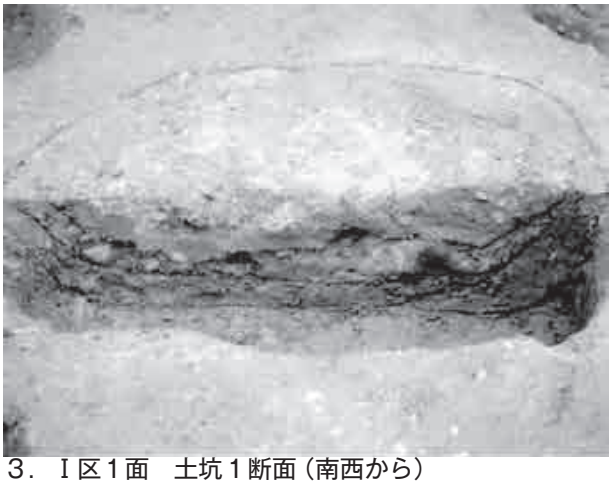
宇都洋平　2007 「第4章　第2節　考察　若宮大路周辺遺跡群（小町二丁目402番9ほか地点）第2面検出の柱穴列について」（後掲、馬淵ほか2007所収）

馬淵和雄ほか　2007 「若宮大路周辺遺跡群（No.242）　小町二丁目402番9ほか地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　23（第2分冊』 鎌倉市教育委員会

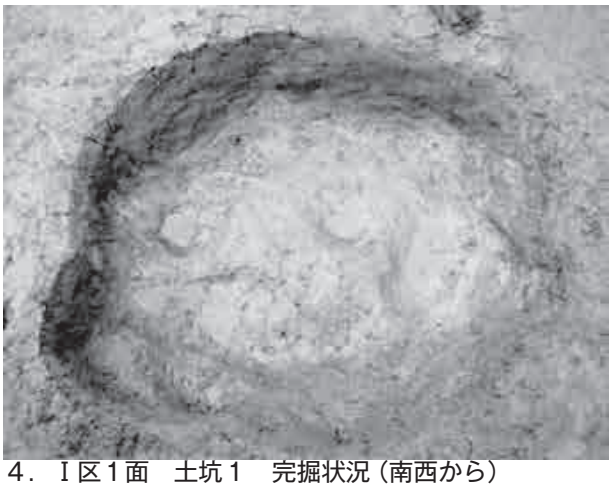
玉林美男　2010「中世の動向（鎌倉を中心として）」『神奈川の考古学・最近の動向』 平成22年度考古学講座　当日配布資料　神奈川県考古学会

１．Ⅰ区１面　全景（南東から）

２．Ⅰ区１面　溝２（南西から）



３．Ⅰ区１面　土坑１断面（南西から）



４．Ⅰ区１面　土坑１　完掘状況（南西から）

図版２

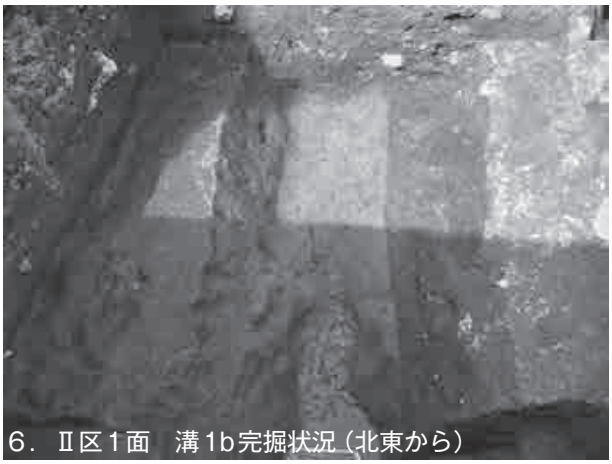
１．Ⅱ区１面　遺構確認状況（南西から）

２．Ⅱ区１面　溝1a土層断面（北東から）

３．Ⅱ区１面　溝1a完掘状況（北東から）

４．Ⅱ区１面　溝1a内　遺物出土状況（南から）

５．Ⅱ区１面　溝1b覆土中層　遺物出土状況（南から）


６．Ⅱ区１面　溝1b完掘状況（北東から）

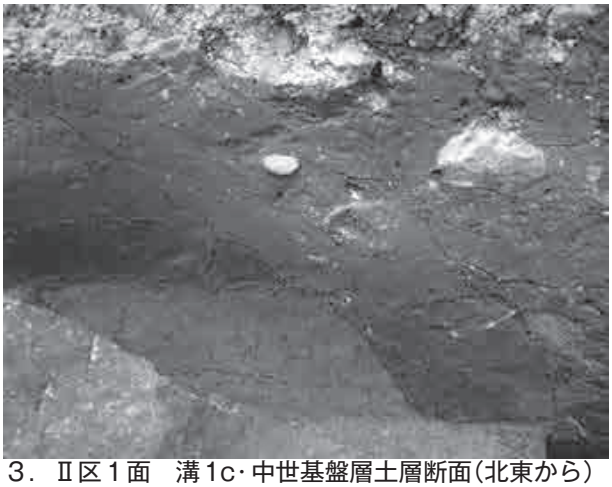
７．Ⅱ区１面　溝1b底面　板材検出状況（西から）

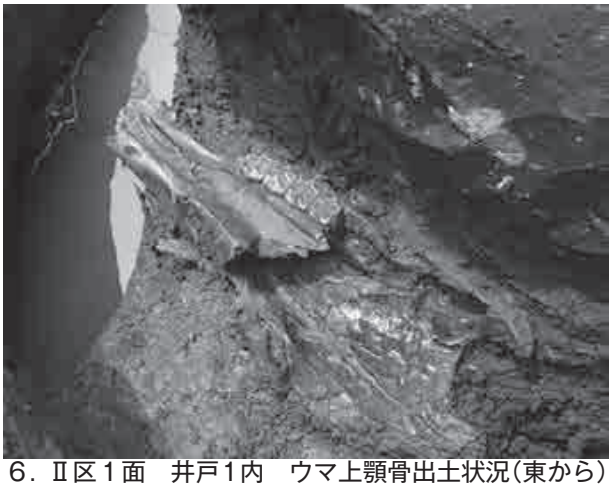
１．Ⅱ区１面　溝1b完掘状況（北東から）

４．Ⅱ区１面　遺構完掘後全景（東から）

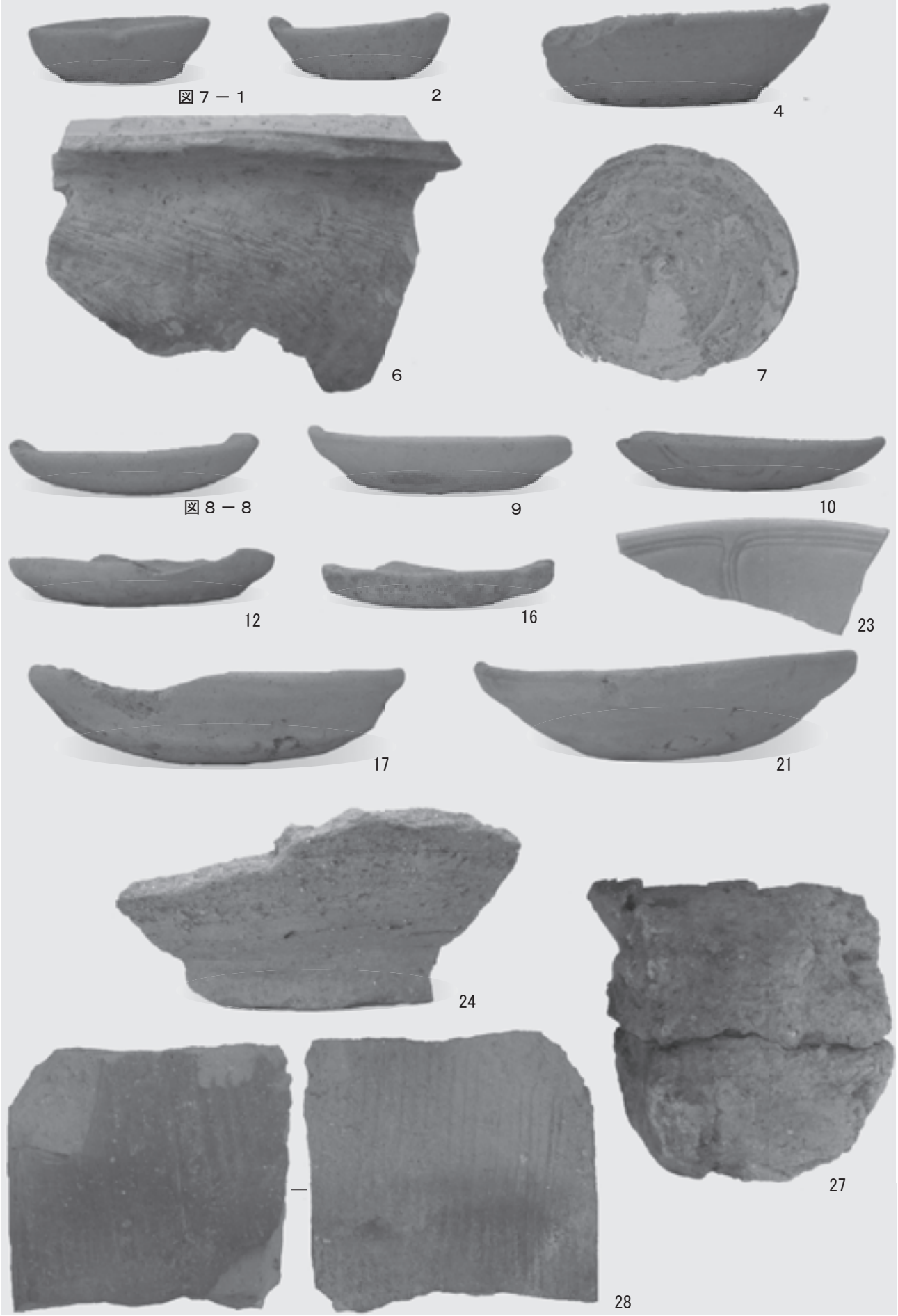
２．Ⅱ区１面　溝1b･1c土層断面（北東から）

５．Ⅱ区１面　井戸１（南東から）


３．Ⅱ区１面　溝1c･中世基盤層土層断面（北東から）


６．Ⅱ区１面　井戸1内　ウマ上顎骨出土状況（東から）

図版４



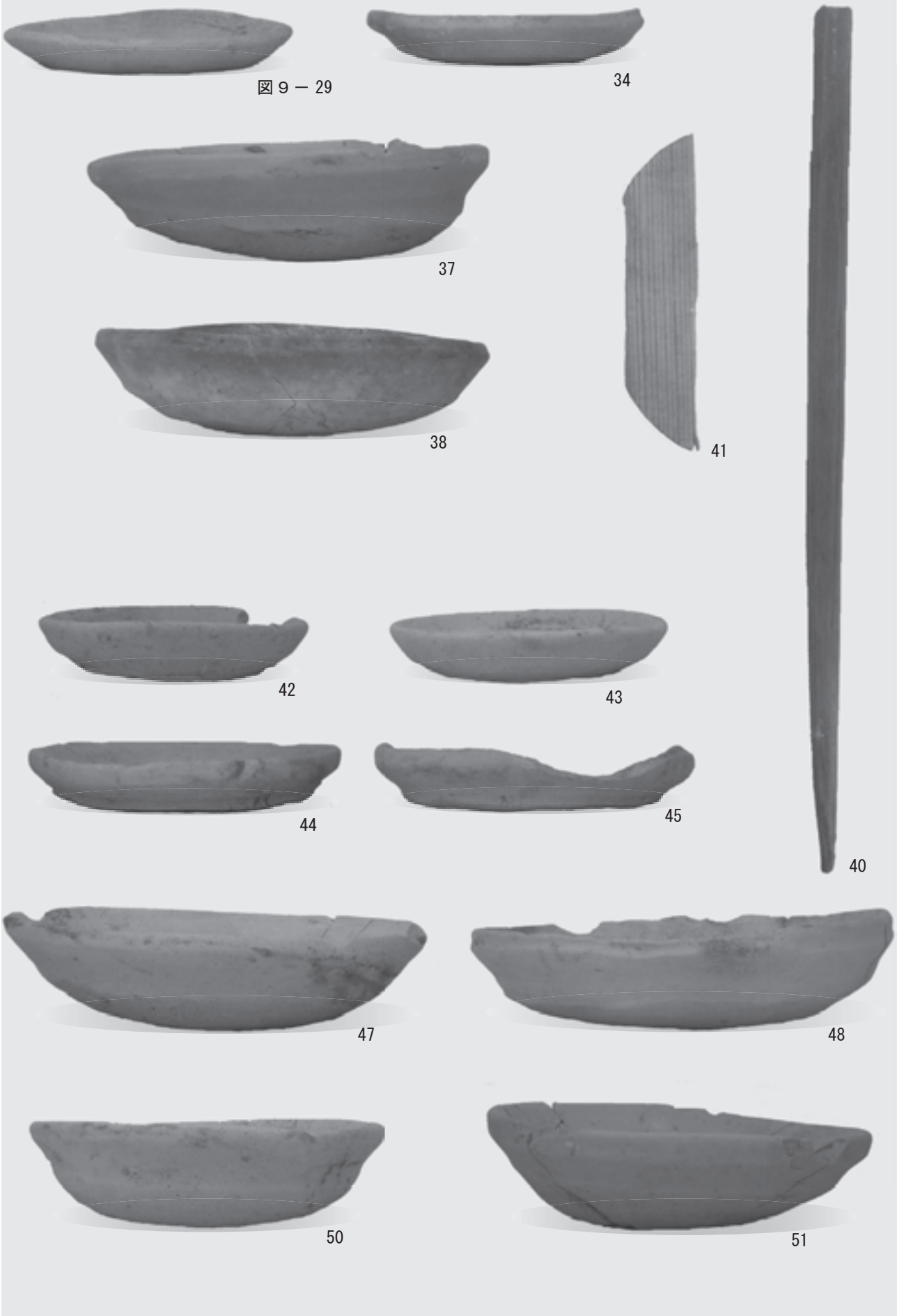
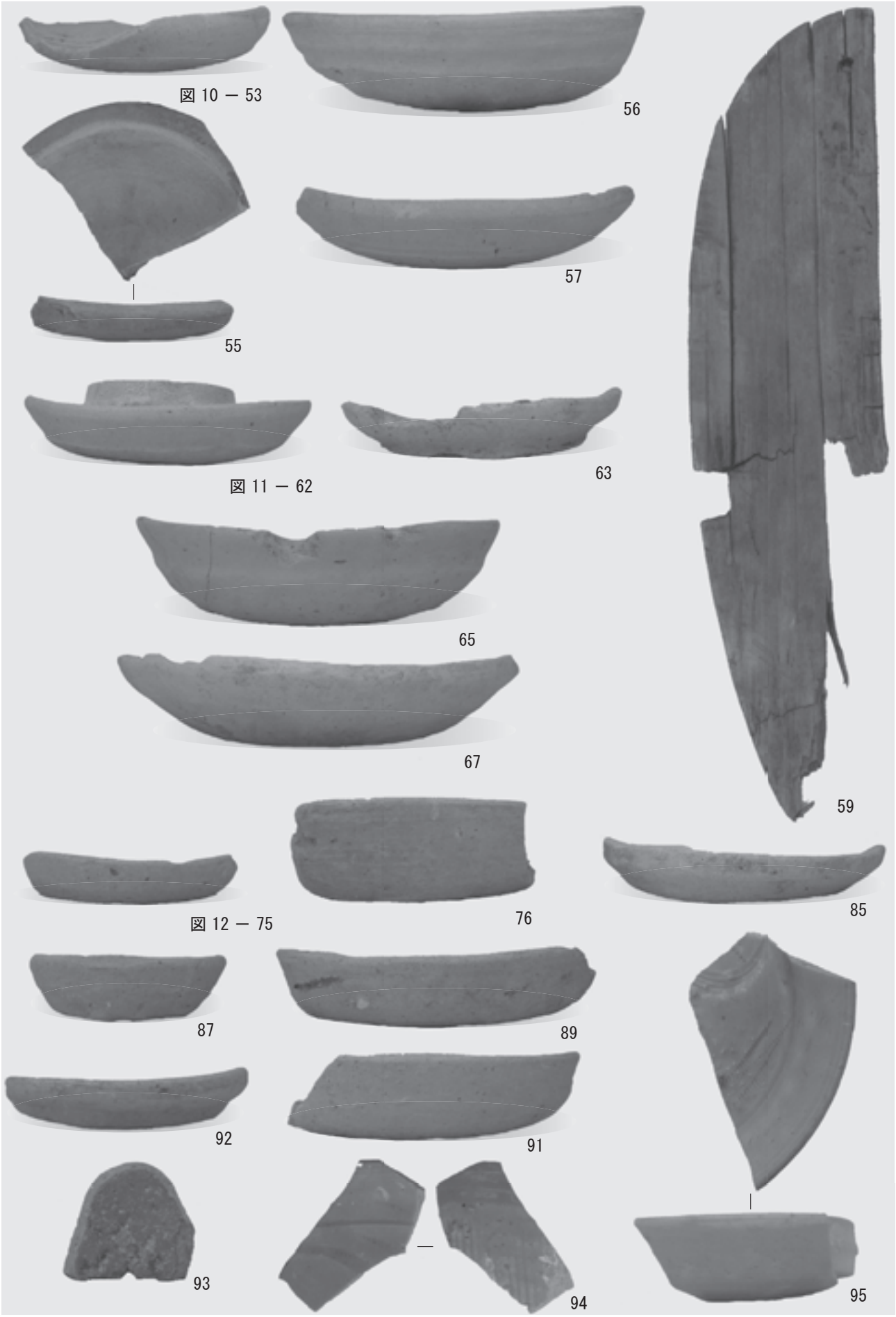


図９－29
34
37
38
41
42
43
44
45
40
47
48
50
51

図版６



米町遺跡（No.245）

大町二丁目 2311 番 5

例　言

1．本報告は、鎌倉市大町二丁目2311番5地点において個人専用住宅の建設に伴って実施した、米町遺跡（神奈川県遺跡台帳－鎌倉市No.245）の緊急調査報告である。

2．発掘調査は平成21年6月23日から8月31日にかけて、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、53.6㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　熊谷　満（平成21年6月）、押木弘己（同年7・8月）
調　査　員　　岡田慶子
作　業　員　　牛島道夫、清水政利、佐野吉男、根市真古人
（公益社団法人　鎌倉市シルバー人材センター）
整理作業参加者　岡田、押木、菅野尚子、村松房代
天野隆男、倉澤六郎、秋田公佑、松岡信喜
（公益社団法人　鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告では世界測地系（第Ⅸ系）の国家座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23年3月11日以前の測量基準点を基に測量・作図したため、座標値は東日本大震災後の地殻変動に対応した補正値となっていない。

5．本報告の執筆・編集は、押木が行った。

6．本報告で使用した写真は、現地写真を熊谷と押木が、出土遺物を押木が撮影した。

7．出土品の整理に当たり、以下の諸氏からご教示を賜った（五十音順、敬称略）。

沖元　道、汐見一夫、中野晴久、馬淵和雄、安井俊則

8．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本地点の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＫＭ０９０６」とし、出土品への注記その他に使用した。

目　次

本　文　目　次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 185

第二章　調査の方法と経過 …… 187

第１節　調査に至る経緯
第２節　調査の方法

第三章　基本土層 …… 188

第四章　発見された遺構と遺物 …… 192

第１節　検出遺構
第２節　出土遺物（図15～図29）

第五章　調査成果のまとめ …… 213

第１節　各遺構面の年代観
第２節　３面遺構の性格と軸線について

挿　図　目　次

図１　調査地の位置 …… 185
図２　調査区配置図 …… 187
図３　土層断面図① …… 189
図４　土層断面図② …… 190
図５　１面全体図 …… 193
図６　１面 個別遺構図 …… 194
図７　２面全体図 …… 195
図８　３面全体図 …… 197
図９　３面 個別遺構図 …… 198
図10　３面 遺構27・135 …… 199
図11　３面 遺構27 …… 200
図12　３面下全体図① …… 201
図13　３面下全体図② …… 202
図14　３面下 個別遺構図 …… 203
図15　表土～１面 出土遺物 …… 204
図16　１面 出土遺物① …… 205
図17　１面 出土遺物② …… 206
図18　１面下 出土遺物 …… 207
図19　１面下・２面 出土遺物 …… 208
図20　２面下 出土遺物 …… 209
図21　３面 出土遺物① …… 210
図22　３面 出土遺物② …… 211
図23　３面 出土遺物③ …… 212
図24　３面 出土遺物④ …… 213
図25　３面下 出土遺物① …… 214
図26　３面下 出土遺物② …… 215
図27　３面下 出土遺物③ …… 216
図28　３面下 出土遺物④ …… 217
図29　３面下 出土遺物⑤ …… 218
図30　東西道路の検出地点 …… 219

表　目　次

表１　出土遺物計数・計量表 …… 221
表２　出土遺物観察表 …… 239

図　版　目　次

図版１…… 249
１．Ⅰ区１面　全景（北から）
２．Ⅰ区１面　遺構7a（東から）
３．同上　土層断面（東から）
４．Ⅰ区１面　遺構7b（東から）
５．Ⅰ区１面　遺構7b（東から）
６．同上　断面（東から）
７．Ⅰ区１面　遺構１（北から）
８．Ⅰ区１面　遺構９（北から）
図版２…… 250
１．Ⅰ区１面　遺構7a断面・遺構11（東から）
２．Ⅰ区１面　遺構11（南から）
３．Ⅰ区２面　全景（北から）
４．Ⅰ区３面　遺構27a　遺物出土状況（西から）
５．同上　アワビ殻集積出土状況（南から）
６．Ⅰ区１面　遺構27a板壁材検出状況(西から)
図版３…… 251
１．Ⅰ区３面　遺構27a（北から）
２．Ⅰ区３面下　遺構57（北から）
３．同上　土層断面（南東から）
４．同上　遺物出土状況（南から）
５．Ⅱ東区３面下　遺構27周辺　遺物出土状況（東から）
６．Ⅱ西区２面　全景（北から）
７．Ⅱ西区３面　全景（北から）
図版４…… 252
１．Ⅱ西区３面下　全景（北から）
２．Ⅱ西区３面下②　全景（北から）
３．Ⅱ東区１面　全景（東から）
４．Ⅱ東区３面　全景（北から）
５．Ⅱ東区３面　遺構27a　遺物出土状況
６．Ⅱ東区３面下　全景（北から）
７．Ⅱ東区３面下　遺構133（西から）
８．Ⅱ東区　地山砂層検出状況（南西から）
図版５…… 253
図版６…… 254
図版７…… 255
図版８…… 256
図版９…… 257
図版10 …… 258
図版11 …… 259
図版12 …… 260
図版13 …… 261
図版14 …… 262

第一章　遺跡の位置と歴史的環境

米町遺跡は、県道鎌倉葉山線とJR横須賀線とに挟まれた東西700ｍ、南北200ｍの範囲を有する。地形的には滑川の支流である逆川の右岸（北岸）に位置し、北の山稜（祇園山）裾部から逆川に向かう微高地上に立地する。現地表の標高は約7.8ｍを測り、微高地を南に下りきった魚町橋付近との比高差は2.2ｍを測る。今回の調査は、本遺跡内で16地点目の発掘調査となる（試掘・確認調査は除く）。

本地点の北側を走る県道鎌倉葉山線は長谷・笹目から名越方面へと通じ、中世から都市鎌倉を東西に貫く基幹道であったと考えられている。中世の名称については定説がないものの、「大町大路」とする理解が一般的かと思われる。さらには奈良時代の宝亀二年（771）以前の東海道駅路に前身を遡らせて考える所見もある。周辺の発掘調査では、中世の東西道と考えられる路盤面や側溝跡が発見されている（**図1－地点11・17**など）。古代駅路については歴史地理学にもとづいた想定にとどまっており（木下ほか1997など）、未だ発掘調査による遺構の検出には及んでいない。

遺跡名の「米町」は『吾妻鏡』建保元年（1213）五月二日条に「若宮大路米町口」「米町辻」などの記述があり、下記の町屋免許の記事とともに鎌倉時代まで遡る地域名であることを示している。

建長三年(1251)と文永二年(1265)の二回、鎌倉内の商業地を規定する通達が出されたことは有名だが、そこには「米町」や異称の「穀町」という名で当地区も掲げられている。免許地の詳細な範囲は定かでないが、近隣地名の「大町」や「小町」も同じく町屋免許を与えられていることから、鎌倉中期には当地区一帯が広く商業地としての様相を呈していたことを窺わせてくれる。

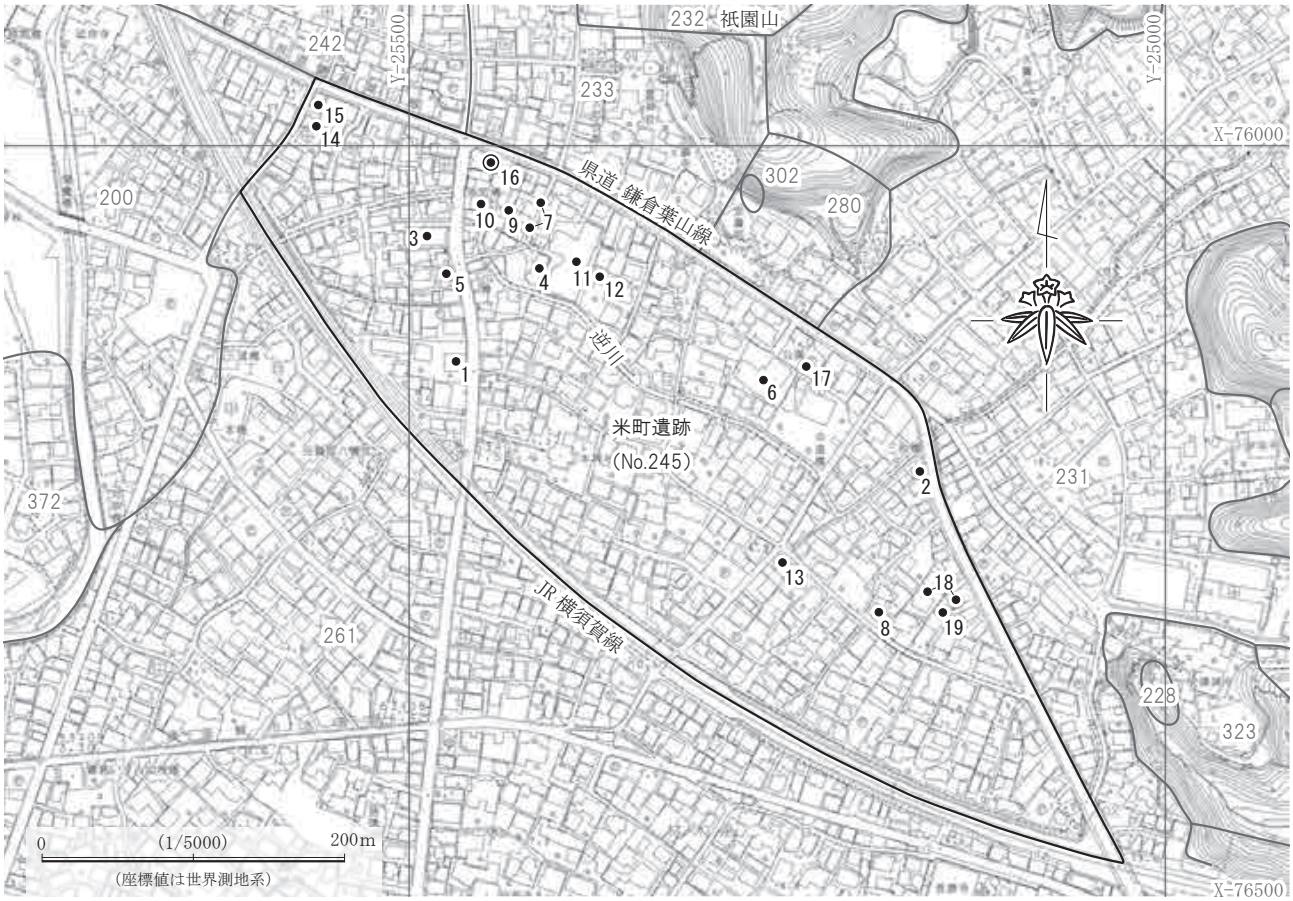


図1　調査地の位置

図１－地点11では庶民の家屋と目される簡素な板壁建物の建ち並ぶさまが見て取れ、傘の轆轤部分や製作途上の草履芯など手工業者の存在を窺わせる遺物が出土している。これらは主に鎌倉中・後期に属しており、史料が示す町屋の活動を裏付ける成果となった。一方で、『吾妻鏡』は当地区に御家人の邸宅が存在していたことも伝えており、一概に庶民（≒商工業者）の居住・活動の場という要素のみで当地を語ることはできない。**地点６**では溝と柱穴列（塀跡）によって区画された空間内に多数の井戸が穿たれ、区画の面積や井戸の規模が大きいこと、そして常滑産の突帯付三耳壺など優品を含む出土遺物から、寺院または屋敷地としての性格が想定されている。このように、中世の当地区は寺院・屋敷地と庶民居住地とが混在する、都市鎌倉を象徴するような景観を呈していたと推察される。

時代は下って、明応年間（1492 ～ 1501）の製作とされる「善寶寺寺地図」には「置石」(若宮大路段葛）の東に滑川に架かる延命寺橋と町屋らしき家並みが続き、そこに「米町」の注記がみえる。鎌倉が政権機能を失った戦国時代にあっても「米町」が一定の賑わいをもつ地区であったことを示す貴重な史料といえる。

【引用･参考文献は第五章末尾にまとめて掲げた】

調査地点・報告一覧（発掘調査の実施順）

1. 大町二丁目929番　未報告
2. 大町二丁目2411番2『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』所収　1989年　鎌倉市教育委員会
3. 大町二丁目933番外『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』所収　1990年　鎌倉市教育委員会
4. 大町二丁目2315番外『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11』所収　1995年　鎌倉市教育委員会
5. 大町二丁目931番1『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14』所収　1998年　鎌倉市教育委員会
6. 大町二丁目2338番1『米町遺跡発掘調査報告書』　1999年　米町遺跡発掘調査団
7. 大町二丁目2312番4･10『米町遺跡―第６地点、第７地点発掘調査報告書―』　2000年　米町遺跡発掘調査団
8. 大町二丁目2404番の一部『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16』所収　2000年　鎌倉市教育委員会
9. 大町二丁目2313番15地点『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17（第１分冊）』所収　2001年　鎌倉市教育委員会
10. 大町二丁目2308番１地点『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17（第２分冊）』所収　2001年　鎌倉市教育委員会
11. 大町二丁目2320番１『米町遺跡発掘調査報告書―第10地点―』　2005年　有限会社鎌倉遺跡調査会
12. 大町二丁目2324番１外『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20』所収　2004年　鎌倉市教育委員会
13. 大町二丁目2235番３『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』所収　2008年　鎌倉市教育委員会
14. 大町二丁目992番７外『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22（第２分冊）』所収　2006年　鎌倉市教育委員会
15. 大町二丁目993番１外『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29（第２分冊）』所収　2013年　鎌倉市教育委員会
16. **大町二丁目2311番５　本報告**
17. 大町二丁目2340番10　一部報告
18. 大町二丁目2398番、2400番３　未報告
19. 大町二丁目2400番５　未報告

第二章　調査の方法と経過

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、個人住宅の建設に伴う事前の記録保存調査として鎌倉市教育委員会が実施した。建築計画の届出を受けて平成21年3月3・4日に確認調査を実施した結果、現地表95㎝以下で近世と中世の堆積層が確認された。建築計画では基礎部分に長さ５ｍの鋼管杭を打ち込む予定であったことから、確認調査の結果を受けて本格的な発掘調査を実施する必要があるものと判断された。

現地調査は平成21年6月23日に着手し、同年8月31日まで2ヶ月強の期間を要した。

出土品等の整理および本報告の作成業務は平成25年6月から10月まで断続的に行った。

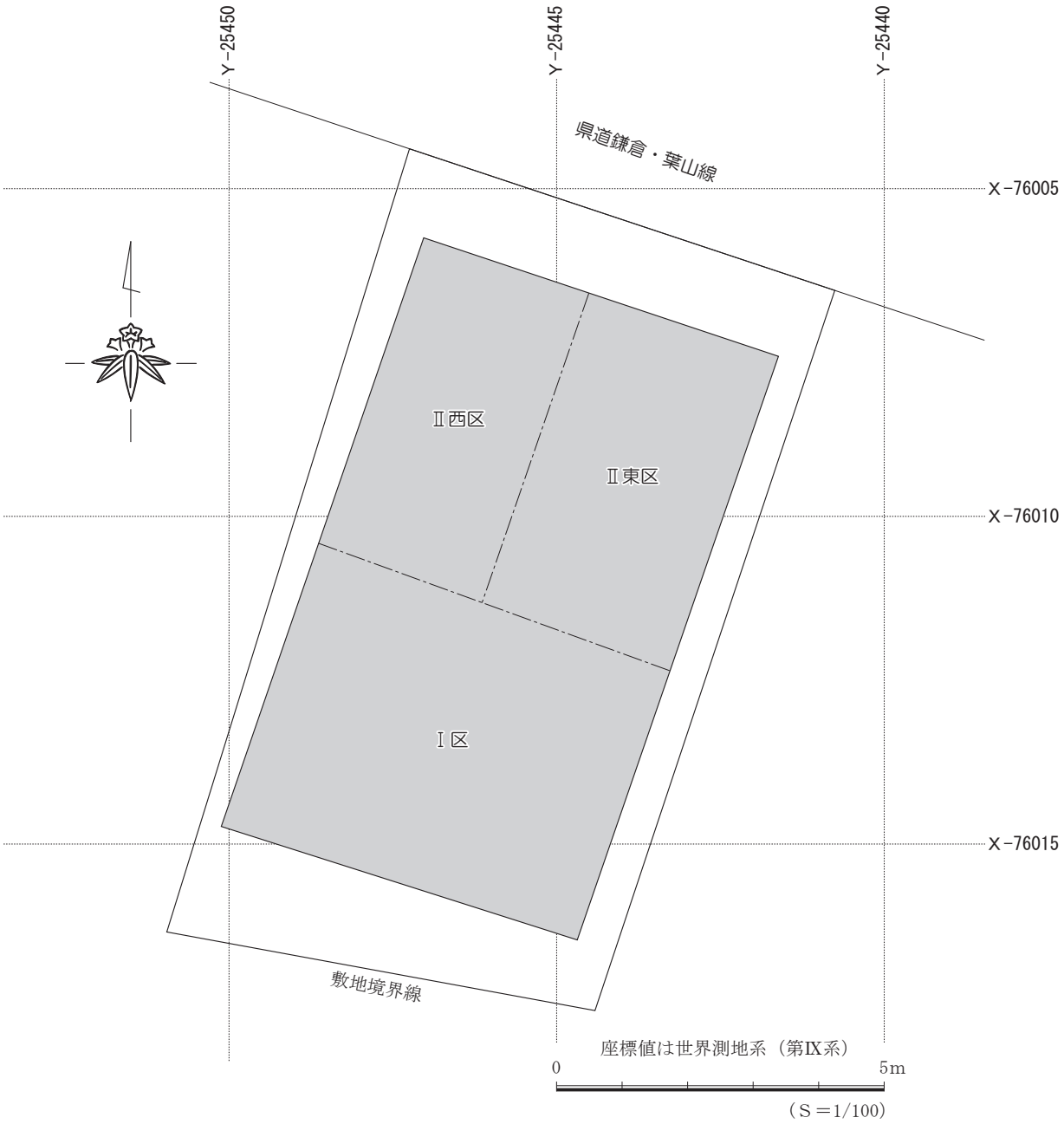


図２　調査区配置図

第２節　調査の方法

表土の除去は重機によって実施し、遺構面に近付いたところで人力での掘削に移行した。掘削に伴う残土置場を確保する必要から調査対象地は３分割し、先行して着手した南半部をⅠ区、北西1/4ほどをⅡ－西区、北東1/4ほどをⅡ－東区と呼称し、順次、掘削・調査に当たった。本報告においても、現地での呼称にもとづいて記載を進めていく。今回は敷地のほぼ全域が調査対象となったこともあり、掘削による発生土の処理には苦慮した。残土山崩落の危険を回避するため、各調査区間には未掘削のベルトを残して土留めの役割をもたせるなど、本来の調査対象である53.6㎡のうち、結果的に調査を施せた範囲は36㎡までに縮減した。

建物基礎となる鋼管杭の強度を保つ必要があるため、調査に伴う掘削深度は現地表下３ｍまでと制限された。表土層の堆積分となる深さ100㎝まではＨ鋼と矢板で土留め施工を行い、隣地との境界塀などが崩落しないよう留意した。これ以下では未掘削箇所の設定や調査区壁の勾配を緩やかにするなどして崩落の危険性を回避した。

各調査区とも１面～３面下の計４枚の遺構面を把握して、写真撮影・測量ほかの記録作業を進めた。

測量に当たっては、国家座標軸に沿った方眼区画を設定して平面図の作成に供した。国家座標の移設は市道上に設置された鎌倉市４級基準点「H8-362」と「H8-363」の２点間関係から開放トラバース測量によって行なった。現地では旧測地系の国家座標値をもとに方眼区画を設定したため、本報告の作成に際して世界測地系の座標値に改訂した。座標値の変換には、国土地理院が公開する座標変換ソフトWeb版「TKY2JGD」を使用した。また、標高については、辻薬師堂前にある３級基準点「No.53402」から水準点移動を行い、任意の基準点に標高値を移して断面図その他の作図に利用した。

第三章　基本土層

繰り返しになるが、本地点では表土層が地表下95㎝まで堆積し、これ以下では近代と中世の堆積層が確認された。Ⅱ－東区の北端では地表下２ｍで無遺物の黄褐色砂層が検出されたが、南と西に向かうにつれて検出レベルは低くなり、Ⅰ区とⅡ－西区では規制深度の下にも中世の遺物包含層・遺構の続く状況が確認された。表土直下の１面は江戸末期～近代の遺構面で、標高6.8ｍ付近で検出された。２面以下は中世面となる。２面は標高6.3 ～ 6.7ｍで確認した。３面は5.8 ～ 6.4ｍ、３面下は5.8 ～ 6.1ｍで確認した。３面は上下２層に細別でき、３面下についてはⅡ－東区でⅣ層・黄灰色砂層の上面で土坑などを確認したものの、他の調査区では同砂層の確認には及ばず、概ね規制深度で掘削を終了した。Ⅱ－西区では３面下での遺構の重複が著しかったため、全体図を２枚に分割、提示した（図12・13）。中世層は暗灰褐色の砂質土をベースとしており、３面の道路面を除き明確な地業層は検出できなかった。土層の硬軟や泥岩粒の混入量の違いをもとに遺構面の把握に努めたものの、上層遺構を下層面において確認しえたケースも多くある。本報告では現地の平面図と断面図とを整合させた全体図を提示したが、少なからず混乱を残した点はご寛容いただきたい。

整理すると、本地点の堆積は以下のとおりに大別できる。各層とも、細別層ごとに色調は多様である。

Ⅰ層　暗褐色土　表土・現代攪乱層。コンクリート片などを含む。

Ⅱ層　暗灰色砂質土　近世以降の耕作土。Ⅲ層より灰色味が強く、泥岩粒などの混入量が少ない。

Ⅲ層　暗灰褐色砂質土　中世の遺物包含層・遺構面形成層。泥岩粒・ブロックを多く含む。

Ⅳ層　黄白色/灰白色砂　無遺物層。この直下に波蝕台岩盤が広がっているものと思われる。

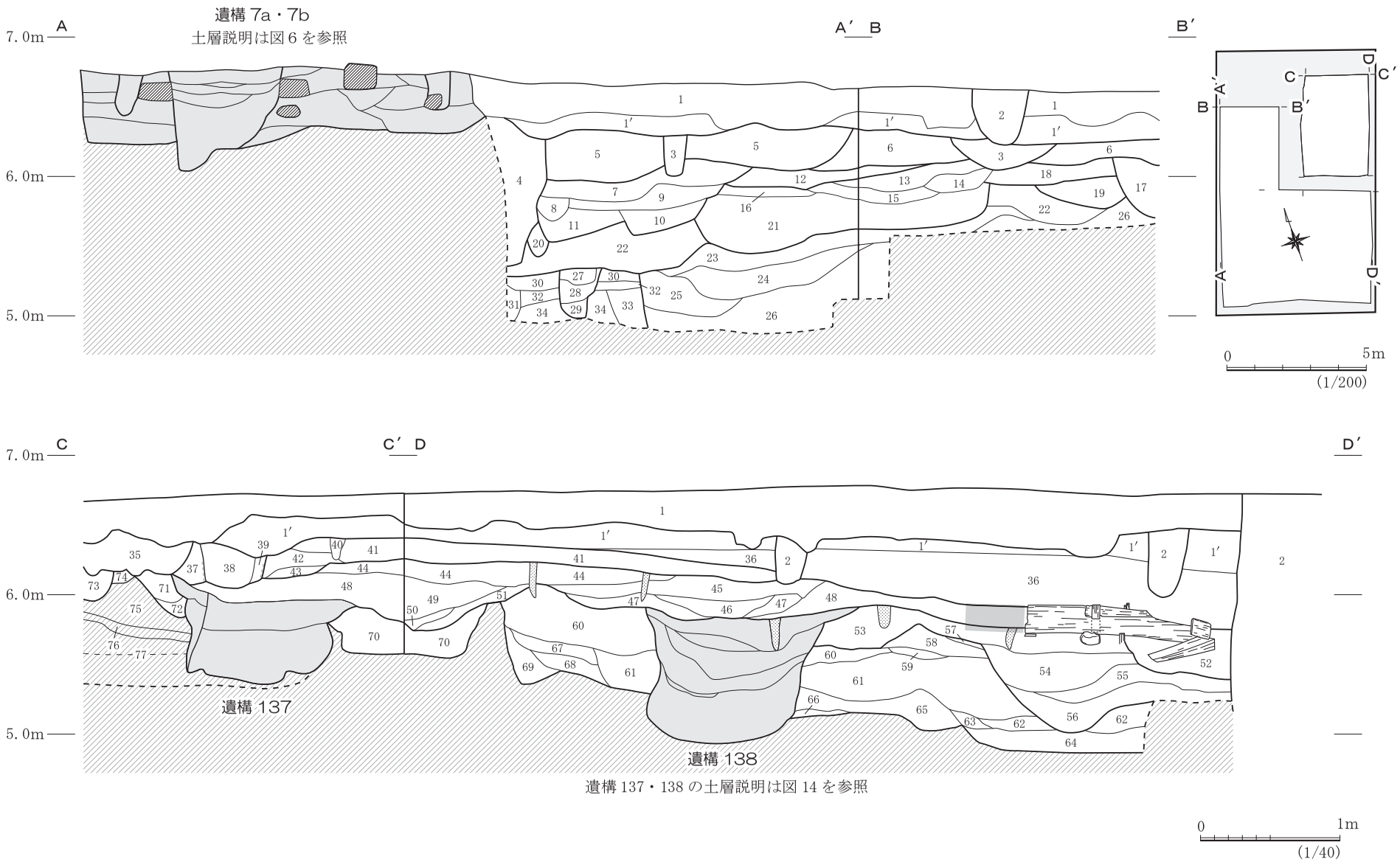

遺構 7a・7b
土層説明は図 6 を参照
7.0m
6.0m
5.0m
A
A′ B
B′
C
C′ D
D′
遺構 137
遺構 138
遺構 137・138 の土層説明は図 14 を参照
0
5m
(1/200)
0
1m
(1/40)

図３　土層断面図①

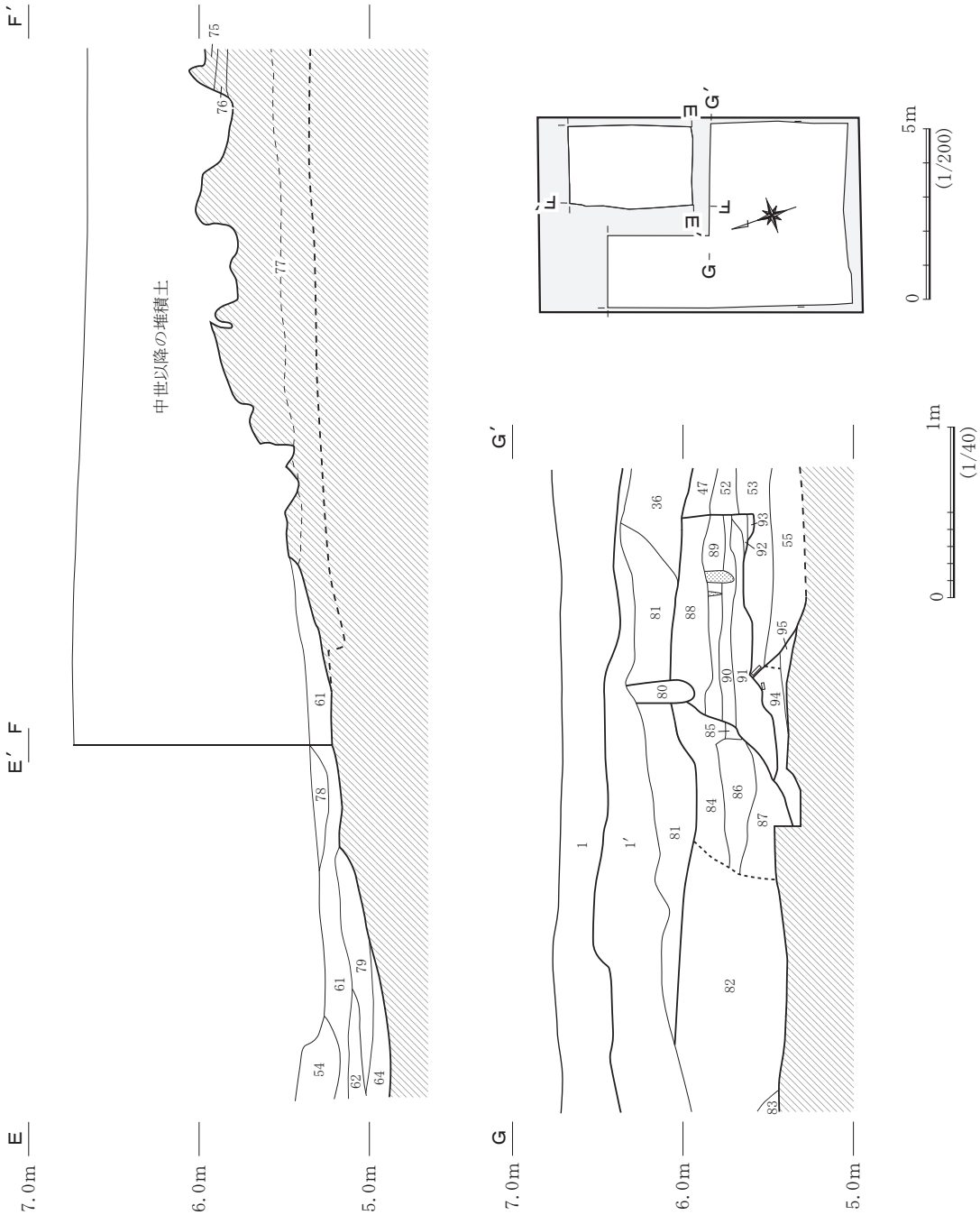


図４　土層断面図②

調査区壁断面図　土層説明（図３・４に対応）

1　暗灰色土　砂質土。泥岩塊多い。1面構成土。

1′　暗灰色土　砂質土。泥岩塊少量。

2　暗灰色土　泥岩粒多量。締まり強い。

3　暗灰色土　泥岩粒少量。粘性あり。

4　暗黄褐色土　泥岩塊多量。締まりあり。

5　暗灰色土　砂質土。泥岩粒少量。灰の薄層が入る。

6　暗灰色土　砂質土。泥岩粒少量。2面構成土。

7　暗灰色土　泥岩粒多量。締まり強い。

8　暗灰色土　砂質土。泥岩粒少量。

9　暗灰色土　砂質土。泥岩粒ごく微量、炭粒微量。

10　暗灰色土　砂質土。炭粒多量。

11　暗灰色土　砂質土。炭粒少量。

12　暗灰色土　砂質土。泥岩粒少量。締まりあり。

13 暗灰色土　砂質土。上面に泥岩地業層あり。黄色砂を斑文状に含む。締まりあり。3面構成土。
14 黄褐色砂　暗灰色土が斑文状に入る。炭粒微量。
15 暗灰色土　砂質土。締まり弱い。
16 暗灰色土　砂質土。締まりあり。
17 暗灰色土　砂質土。炭粒微量。
18 暗灰色土　砂質土。泥岩粒微量。締まりあり。
19 暗灰色土　炭粒微量。
20 暗灰色土　泥岩粒多量。粘性あり。
21 暗灰色土　砂質土。炭粒、貝殻片少量。
22 暗褐色土　砂質土。貝殻片少量。締まりあり。
23 暗褐色土　砂質土。泥岩粒微量。
24 暗褐色土　砂質土。炭粒、貝殻片微量。
25 暗褐色土　砂質土。泥岩粒微量。
26 暗灰褐色土　泥岩塊多量。締まり弱い。
27 暗褐色土　砂質土。黄色砂を斑文状に含む。
28 黒褐色土　砂質土。黄色砂を斑文状に含む。
29 灰褐色砂　黒色土を斑文状に含む。
30 暗褐色土　砂質土。
31 暗褐色土　砂質土。
32 黄色砂　下部で暗褐色砂を含む。
33 暗灰褐色砂　貝殻片少量。
34 灰色砂　貝殻片微量。ラミナ状の互層堆積。
35 暗褐色土　泥岩粒少量。
36 暗灰色土　泥岩塊多量。
37 暗灰褐色土　砂質土。締まり弱い。
38 黄褐色砂　泥岩粒多量。締まりあり。
39 暗灰褐色砂　泥岩塊少量。
40 暗褐色土　泥岩粒少量。
41 黄灰色土　泥岩ブロックによる地業層。遺構35（道路）築成土。
42 暗灰色土　砂質土。泥岩粒少量。締まりあり。
43 黄褐色砂　中位に炭層が入る。
44 暗灰色土　泥岩粒少量。締まりあり。
45 暗灰色土　砂質土。泥岩粒、貝殻片少量。
46 暗灰色土　砂質土。黄色砂、泥岩粒少量。
47 暗灰色土　微細砂を含む砂質土。粘性ややあり。
48 暗灰色土　微細砂を含む砂質土。粘性ややあり。
49 暗灰色土　砂質土。褐鉄化した薄い層が入る。締まりあり。
50 暗灰色土　砂質土。貝殻片少量。締まりあり。
51 暗灰色砂　貝殻片少量。酸化により締まりややあり。
52 黒色土　貝殻片少量。締まりややあり。
53 暗黄褐色土　砂質土。黄色砂が斑文状に入る。
54 暗黄褐色土　有機質腐植土。砂が少量混入。
55 青灰色砂　やや粗い貝殻片を少量含む。
56 暗黄褐色土　有機質腐植土。木片多く混入。
57 黒色土　有機質腐植土。酸化のためか硬化。
58 黒褐色土　砂質土。泥岩粒微量。締まりあり。
59 黒褐色土　粘性ややあり。
60 黒褐色土　砂質土。締まりあり。
61 黒褐色土　砂質土。灰色砂をブロック状に含む。
62 青灰色砂
63 黒色土　有機質遺物多い。粘性あり。
64 黒灰色砂　木片少量。締まり弱い。
65 黒灰色砂　黄色砂をブロック状に含む。
66 黒褐色土　砂質土。炭化物を多量に含む。
67 暗灰色土　砂質土。泥岩塊少量。
68 暗灰色土　砂質土。67層より砂が多く締まり強い。
69 暗灰色土　砂質土。68層より砂が多く締まり強い。
70 黒褐色土　細砂少量。粘性ややあり。締まり弱い。
71 暗灰色土　砂質土。黄色砂、泥岩粒少量。
72 黄褐色砂　暗灰色土が斑文状に混入。締まりあり。
73 暗灰色土　砂質土。炭粒少量。締まりややあり。
74 暗灰色土　砂質土。黄色砂やや多い。締まりあり。
75 黄灰色砂　酸化鉄が目立ち硬化。
76 灰白色砂　粗粒の砂層。貝殻片を含む。
77 灰白色砂　細砂と中粗砂の互層。
78 黒色土　砂質土。64層より腐植土多く黒色味が強い。
79 黒色土　砂質土。やや砂質感が強い。
80 暗灰色土　泥岩粒少量。粘性あり。
81 暗灰色土　泥岩塊多い。
82 暗灰色土　泥岩塊、貝殻片多い。締まりあり。
83 暗灰色砂　混入物殆ど含まない。
84 暗灰色土　泥岩塊多い。締まりあり。

85 暗灰色土　砂質土。泥岩粒、炭粒少量。
86 暗黄灰色土 砂質土。貝殻片少量。締まりややあり。
87 暗灰色土　砂質土。炭粒少量。締まりあり。
88 暗灰色土　砂質土。泥岩粒、貝殻片少量。
89 暗灰色土　泥岩粒少量。締まり弱い。
90 黒灰色土　細砂と粘質土の混交土。炭粒微量。締まりややり。
91 黒灰色土　貝殻片少量。90層より締まりあり。
92 暗灰褐色砂 締まり弱い。
93 黒灰色土　粘質土。腐植した木材か。
94 黒灰色土　粘質土。下位へ向けて有機質腐植土に漸移。
95 暗灰色土　砂質土。上面に有機物腐植土が堆積。

第四章　発見された遺構と遺物

第１節　検出遺構

前章で述べたとおり、本地点で把握できた遺構面は、近代1枚、中世が3枚である。以下、新しい時代から順に検出された遺構の概要を説明する。

１面（近代） 表土直下、標高6.8ｍほどで検出され、基本土層のⅡ層を基盤とする。一部、近世末～近代の遺構が確認された。

遺構１はⅠ区南端で発見された井戸跡。平面円形で凝灰岩切石積みの井枠をもつ。南半部は調査区外へ続く。井枠の内寸で直径100㎝、掘り方も円形の平面プランを呈し直径270㎝を計測した。遺構10よりも新しく、使用は現代まで下ると思われる。帰属時期が新しく、掘削による崩落も心配されたことから詳細な調査は行わず、下層掘削に当たってもこの部分は掘り残して調査を進めた。

遺構７はⅠ区西辺で検出されたカマド跡。2基が並んで検出され、南側を7a、北側を7bと呼称した。

西半分ほどが調査区外に続く。上部が表土層で削平されているため両者が新旧で造り替えられたものなのか、同時期に使用されたものであるかは定かにできなかった。ともに袖の基礎に凝灰岩の切石を据えており、7aは両袖が残存、7bは右袖が欠失していた。両基の袖石とも側辺を弓状に加工しており、特に内側辺のカーブが強く見て取れた。残存部からは胴張り状の平面形を呈する馬蹄形であった可能性も推測できる。両袖間の内寸は7aが75㎝、7bが80㎝以上を測る。奥行きは7aが40㎝以上で、7bは袖部分が60㎝、焚口部～灰原？を含めると150㎝以上を計測する。カマド内部には焼土が厚く堆積し、袖石の内側辺は被熱による変色・剥落が顕著であった。7a・7b全体の掘り方は方形の平面プランで、幅280㎝以上、奥行き100㎝以上を測る。切り合い関係では明確にしえなかったが、掘り方形状からは構築・操業は同時期に行われたとする判断もできようか。一般民家の煮炊きに供したものか、ある種の業務用とされていたのかについて、現時点では類例も少なく断定できない。

出土遺物からは、18世紀後半頃の使用年代が考えられる。

遺構11は、遺構7a前面の掘り方で発見された。常滑産と見られる陶器壺を据えた小土坑で、カマドに付随する施設なのかは明確にできなかった。壺の内容物は確認できず、有機物を入れていた可能性も考えられる。一部、7aの掘り方と混同して埋土を掘ってしまったが、直径が45㎝、深さは壺の器高と同じ30㎝前後であったと推測される。

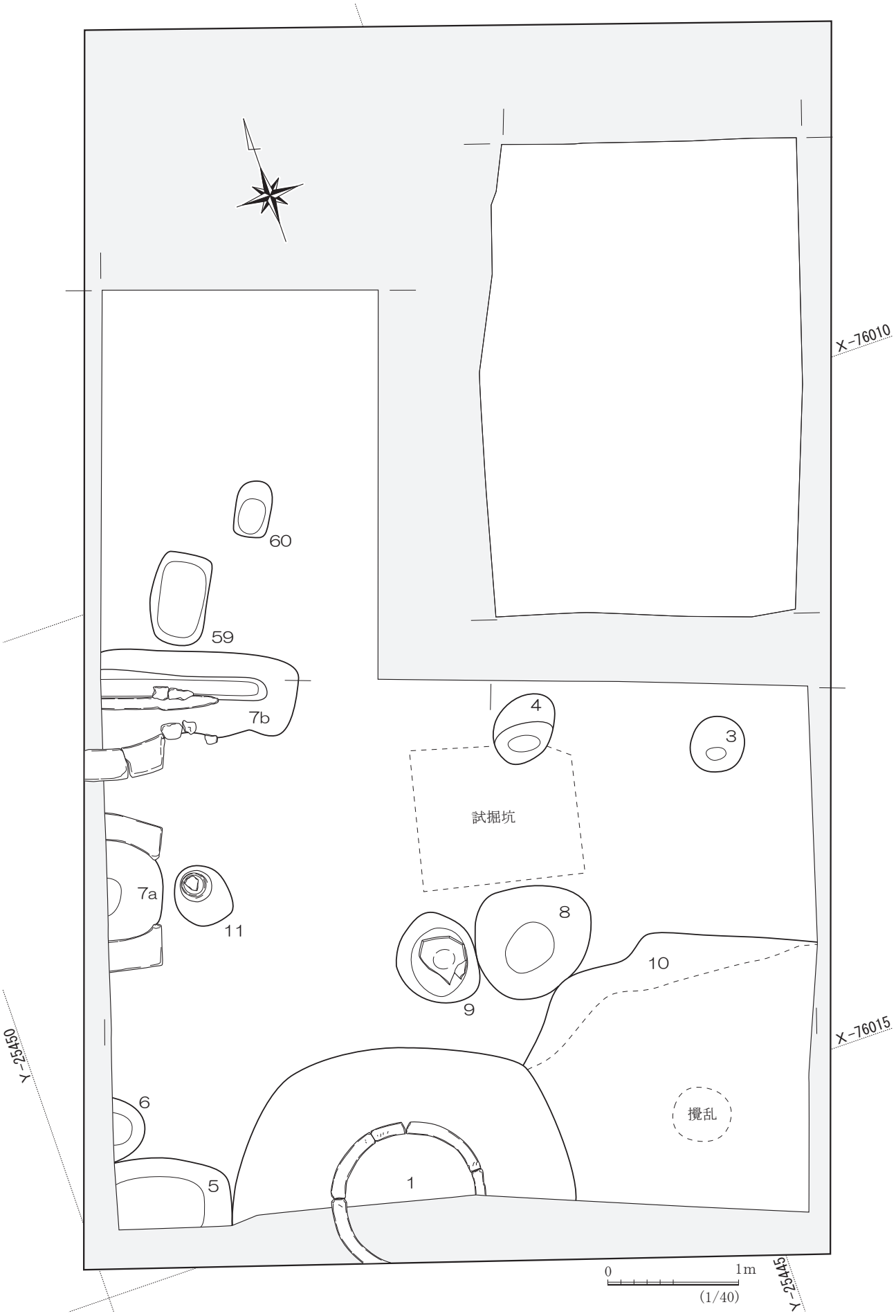
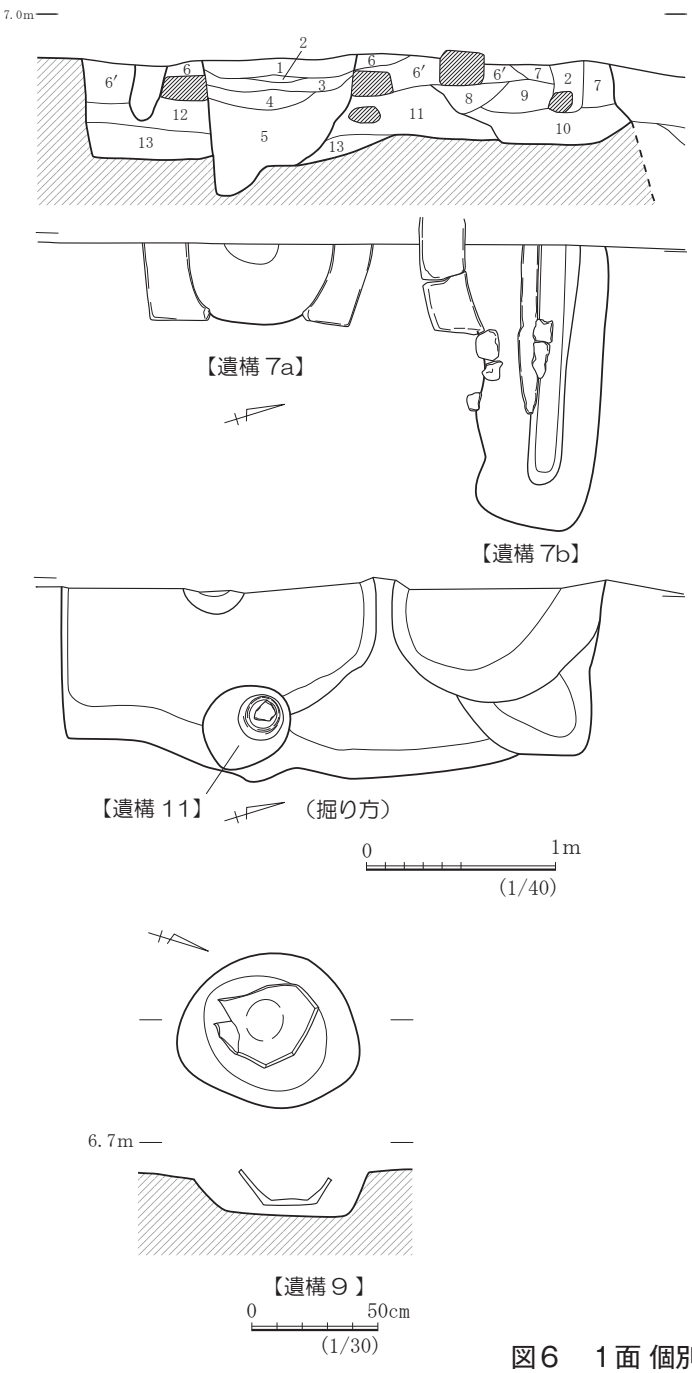
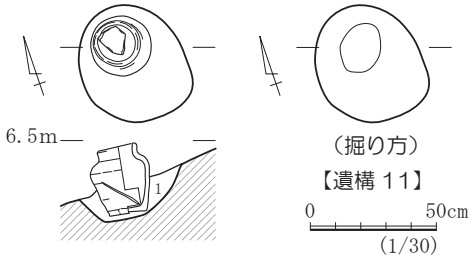

X−76010
X−76015
Y−25450
Y−25445
60
59
7b
4
3
試掘坑
7a
11
8
9
10
6
5
1
攪乱
0
1m
(1/40)

図５　１面全体図



1　暗褐色土　　粘性ややあり。締まり弱い。泥岩粒少量。
2　黒色土　　炭・灰が主体。
3　黄灰色土　　砂岩塊が主体。締まりややあり。
4　黄灰色土　　砂岩塊主体。締まりあり。
5　暗灰褐色土　砂質土。締まり弱い。
6　暗灰褐色土　砂質土。粘性ややあり。
6′暗灰褐色土　締まりややあり。
7　赤褐色土　　焼土。締まりあり。燃焼部壁体。
8　黄褐色土　　泥岩粒主体。締まりあり。
9　暗灰色土　　泥岩粒少量。締まりあり。
10 暗灰色土　　炭粒少量。粘性あり、締まり弱い。
11 暗灰色土　　砂質土。締まり弱い。
12 暗灰褐色土　泥岩粒やや多い。締まりあり。
13 暗灰褐色土　12 層より泥岩粒が減少する。締まりあり。



1 暗褐色土　砂質土。粘性ややあり。
締まり弱い。泥岩粒少量。

図６　１面 個別遺構図

遺構９は常滑産であろう陶器甕を据えた小土坑で、長径70cm、短径60cmほどの楕円形プランを呈する。確認できた深さは18cmで、据甕の底部のみが遺存していた。甕は胎土が均質で近代以降の印象を受ける。用途は不明だが、水甕や便槽などが可能性として考えられる。

1面では他に、大小の土坑や落ち込みが発見されている。**遺構10**は地表下３ｍより深く、ほぼ垂直に落ち込むことから井戸の可能性がある。遺構1に切られ、出土遺物の特徴から、使用時期は近代に収まるものと考えられる。

２面（中世）　標高6.3 ～ 6.7ｍで確認した。1面下からの掘り下げ時、および当面検出の遺構からも少量ながら近世遺物が出土している。遺構出土分の大半は中世の遺物なので、上層調査時の掘り残しと判断している。検出遺構の大半が小規模なピットで、一部は柱穴としての認識が可能な遺構も存在してはいたが、いずれも並びが不明確で上部構造の復元には及ばなかった。

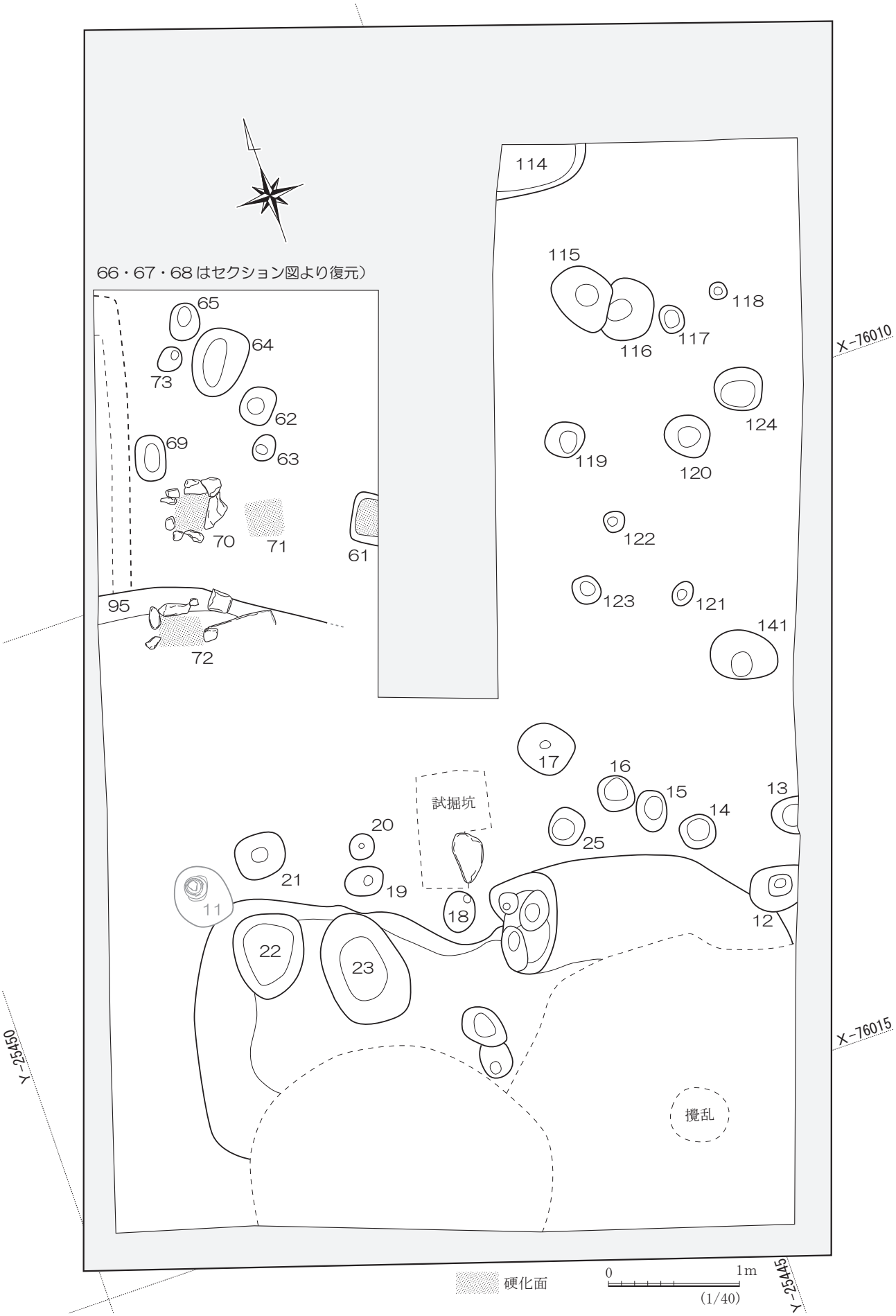

66・67・68はセクション図より復元）
114
115
116
117
118
124
119
120
122
123
121
141
65
64
73
62
69
63
70
71
61
95
72
17
16
15
14
13
25
試掘坑
20
21
19
18
12
11
22
23
撹乱
X-76010
X-76015
Y-25450
Y-25445
硬化面
0
1m
(1/40)

図７　２面全体図

遺構61・70・71・72は25cm四方ほどの平面形を呈する浅い窪みで、底面の硬化が顕著で柱材の加重によるものと考えられた。70・72の周囲には拳大の破砕泥岩が並んでおり、柱の根方固めと判断された。柱穴であれば、本来の掘り込み面は1面以上となろう。Ⅰ区南東部では幅4.5ｍほどの浅い落ち込みを確認した。落ち込みの北岸には多数のピットが見つかっているが確実に並ぶものはなく、落ち込みとの関連は明らかでない。小穴に混じって、礎石様の安山岩扁平石が一例見られた。落ち込みに関しては、自然地形の斜面堆積を遺構として認識してしまった可能性もある。

3面（中世） 5.8 ～ 6.4ｍで確認された。板壁建物と南北道路で構成される下層部分と、板壁建物が埋没した後の上層ピット群に細別される。後者の段階においても南北道路は機能していたと判断され、大きくは1枚の遺構面として捉えた。

上層では小規模なピットと土坑が検出された。ピットは特定の場所に集中する傾向が見られたものの柱穴列として並ぶ状況は確認できなかった。Ⅱ－西区の西壁側で検出された土坑群について、現地では明確な形で捉えられなかったため、整理作業時にセクション図を参考にして図上復元した。上層遺構について、個々の性格は不明である。また、下層の**遺構27a**（板壁建物）を切って西へ落ち込む**遺構27b**も底面まで完掘していないため、性格について明言しえない。

遺構41はⅠ区南部で検出された落ち込みで、大部分が上層遺構に切られてしまっていたが方形基調の平面プランを呈していたものと考えられる。東西220cm、南北20cmの平面規模を有し、確認面からの深さは20cmを計測した。底面ではピット1基が確認された。遺構の北辺は真北の直交方向に延びる。

下層の遺構27aの仕切り板と近い方向軸を示すことから、板材等は残っていなかったものの、本遺構も建物痕跡の一部と見なせるかもしれない。

下層遺構として、図10・11に南北道路（遺構135）と板壁建物跡（遺構27a）を掲げた。

遺構135はⅡ－東区の北東隅で検出された。泥岩ブロックで整地された道路面が確認でき、その西辺に遺構27aが取り付くように構築されていた。道路は側溝を伴わず、建物壁材との間は裏込め土が充填されていたと考えている。近隣の調査成果も参考とすれば、道路には建物間を繋ぐ路地といった規模と性格が想定できる。路面上の標高は、約6.4ｍ。全体の検出に及んでいないため略測値になるが、道路の走方向はN2°Ｗを指すことから、概ね真北を指向する規格のもとに造作されたと考えてよいだろう。

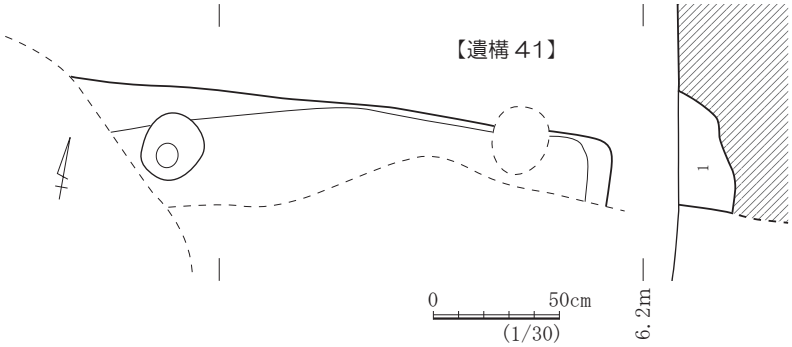
遺構27aは遺構135の東側に接し、調査範囲を超える建物規模を有していたと考えられる。遺構135との境界には板杭で固定された横板が立ち、これが上屋建物の外壁を成すものと考えた。ただ、横板の接地面レベルが南に向けて緩やかに落ち込む点が気に掛かるので、単に道路の土留め材という可能性も残る。建物内部と考えた西側には微かに南下がりの平坦面が広がり、この面上では腐植・粘質土化した横板の痕跡が9条ほど確認でき、間仕切りと推定した。なお、外壁の道路側でも横板痕跡を確認したが、路盤に直に接した位置にあることから、路盤の整形に供された補助材といった用途を考えたい。外壁はN5°Ｅに延び、間仕切り痕跡も近似した方向軸を残していた。

建物内の底面では2基の小穴が確認されたほか、やや特異な状況としてアワビ殻の集中出土が挙げられる。17個体分の集積箇所に加え、遺構の南域に散在する状況も見られた。いずれも殻を伏せた状態で確認されたが、身が付いた個体であったかについては知る術がない。

3面下（中世） 5.8 ～ 6.1ｍで確認した。先述のように、調査区全域を同一層の上面で捉えたのではない。全体に南へ落ち込む自然地形が把握でき、Ⅱ－東区では中世基盤層となるⅣ層・黄白色/灰白色砂層が検出されたものの、Ⅰ区ではこれより低いレベルでも同砂層は見て取れず、さらに下位での中世遺構の展開が確認された。

（79・81・86・87 はセクション図より復元）
79・81
82
78
83
84
85
75
76
86・87
74
126
125
X−76010
32
33
27b
試掘坑
48
35
37
36
39
49
28
29
30
41
31
撹乱
X−76015
Y−25450
0
1m
(1/40)

図８　３面全体図



1　暗褐色土　粘性ややあり。

図9　3面 個別遺構図

Ⅱ－西区でも、Ⅱ－東区と同じ標高ではⅣ層の確認はできなかった。

Ⅰ区では木組み護岸を持つ溝状遺構が、Ⅱ－西・東区では土坑群が検出された。

遺構57はⅠ区で発見された南北溝状遺構で、両岸とも横板の内壁際を板杭で固定した護岸施設を有していた。東辺の護岸材が土圧により西へ倒れていたため正確な計測値ではないが、大よその幅は40cmほどであったと推測される。護岸材の検出長は東辺が200cm、西辺が120cmであった。確認できた深さは30cmほどで、両護岸材とも南へ向けて落ち込んでいた。走方向は、N3° W。

遺構内からは手づくねかわらけや下駄などが出土し、立てた下駄の上にアワビ殻を被せた状況も見られた。意味は不明。

遺構58は遺構57の下位に遺存する。サブトレンチによる部分的な確認にとどまったが、57と同様の木組み護岸を有する東西溝状遺構と考えられる。幅約36cm、確認長は240cmを測る。護岸材の上端を確認できただけなので、深さは不明。走方向は、N85° W。

遺構133・138・137はやや大形の土坑で、有機質腐植土（鎌倉の遺跡調査では慣例的にマグソと呼ぶ）を覆土とする共通点をもつ。137と138は側壁がオーバーハングする袋状の断面形を呈し、規模・形状の近似性から同一の機能を有していたことが想定される。133は直径120cmの不整円形プランを呈し、確認面からの深さは50cmを測る。137は北端部が調査区外に続くため全体の検出には至らなかったが、概ね直径130cmの円形プランを呈していたと思われる。確認面からの深さは77cmを測る。底面上では部分的に硬化した繊維状物質が認められた（**図版4－7**）。138も東側の1/2以上が調査区外に続くため全体規模は定かでないが、概ね直径110cm前後の円形を基調とする平面プランを呈していたと考えられる。確認面からの深さは97cmを測る。

この他、規模のやや小さい土坑やピットが複数検出され、Ⅱ－西区では不整形土坑の切り合いが顕著であった。

第2節　出土遺物（図15～図29）

図15は表土～1面検出時までに出土した遺物を掲げた。中世と近世の遺物を図示したが、出土層序は近・現代である。1～10はロクロかわらけ。7・8は15世紀代、10は近世まで時期が下るだろうか。11は素焼きの土器で蓋と見られる。在地かわらけと同じく、胎土に白色針状物質を含んでいる。焼成は良好である。類例が乏しく定かでないが、これも近世まで下る資料となろうか。14は銅製の煙管雁首。江戸遺跡の編年研究から、18世紀後半の年代観が与えられる。

図16は1面検出遺構の出土遺物。15は**遺構1**出土の砥石。16～27は**遺構10**から出土。量としては

図10　3面 遺構27・135

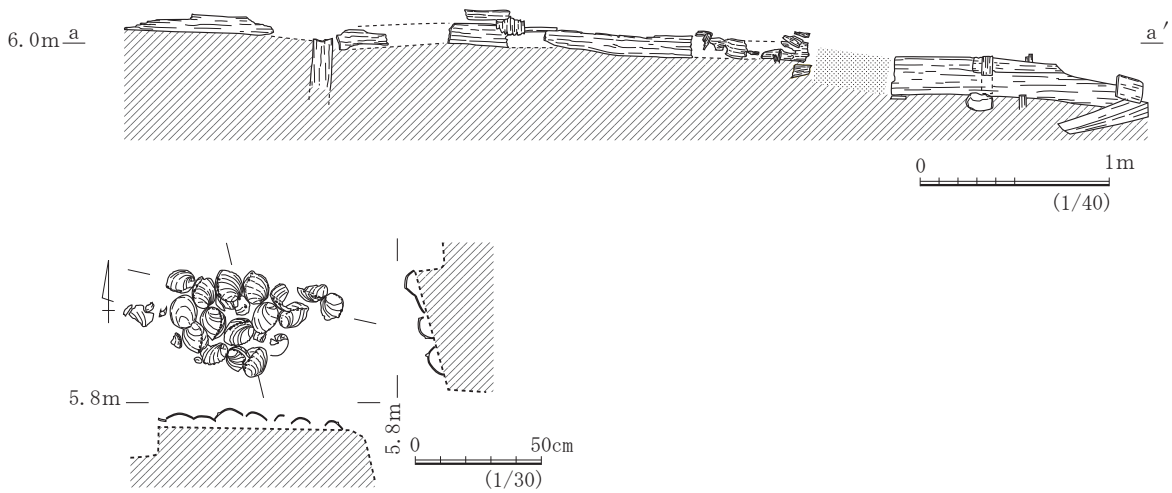


図11　3面 遺構27

近世の遺物が主体を成すが、21の瓦片などは近代まで下るものとなろう。22の火打石は半透明石英質の割り石を用いており、殆どの稜角に打撃・摩擦痕が認められる。25は用途不明の銅製品。両端近くの側面に貫通孔2ヶ所を設けている。26は木製の刀子柄。先端部に鞘と咬み合わせる突起を作出している。27も木製品だが用途は不明。板材短辺の凹部に角棒を差し込み、鉄釘で挟み込む形で固定している。28～31は**遺構7a**（カマド）から出土。28～30は肥前系磁器の染付け碗。何れも外面に手描きによる絵付けが見られる。

図17も1面遺構の出土遺物。33は遺構9の据甕底部。常滑産と思われる。胎土は均質で焼成は良好である。中世の常滑甕に比べて緻密で硬質な仕上がりとなっている。35は遺構11出土の常滑壺。ほぼ完形であるが口縁端部に僅かな摩擦痕が認められる。外面の胴下部にはヘラ描きの一本線が見られる。窯印であろう。

図18には1面下から2面まで掘り下げる際に出土した遺物を掲載した。中世遺物が主体であるが、近世・近代の遺物も少量ながら出土している。43～45は手づくねかわらけの小皿。46～58はロクロかわらけ。46・47は極小タイプの内折れ皿。48～54は小皿、55～58は大皿。これらのかわらけは、何れも中世に帰属する。59は肥前系磁器の染付け碗。60は陶器の染付け碗。産地は特定できない。61は均質・緻密な胎土で軟質な焼き上がりとなっている。近代以降の所産か。67は筒状の銅製品で、煙管の吸口であろうか。被熱のためか、空洞部が若干潰れてしまっている。

図19にも2面までの掘り下げ時、および2面遺構の出土遺物を掲載した。68～70が2面までの掘り下げ時の出土で、いずれも中国・北宋代に発行された銅銭。3点とも銭銘が良好に読み取れる。71以下は2面遺構の出土遺物。**遺構23**出土の73は常滑甕の口縁部小片。近世、18世紀中葉～後葉の所産か。83は**遺構63**出土の寛永通寶。これら近世遺物が出土した遺構は、1面で確認しきれなかった可能性が高い。89・90は**遺構66**から出土。90は頁岩製の硯。石材は京都・鳴滝産と思われるが、作硯は滋賀・高島産と見られる。裏面に針状具による線刻が見て取れる。

図20には2面下から3面検出までに出土した遺物を掲載した。91～96は手づくねかわらけの小皿。97・98も手づくねかわらけで大皿。99～108はロクロかわらけ。107が大皿、108が柱状高台皿と見られる他は小皿である。図示した分では手づくねの比率が高いように思われるが、出土した破片数・重量ではロクロ成形が手づくねを凌いでいる（**表1**）。また、図示はしなかったものの、ここでも近世遺物が若干量出土しており、やはり上層調査時の掘り残し遺構に包含されていた遺物と考えられる。

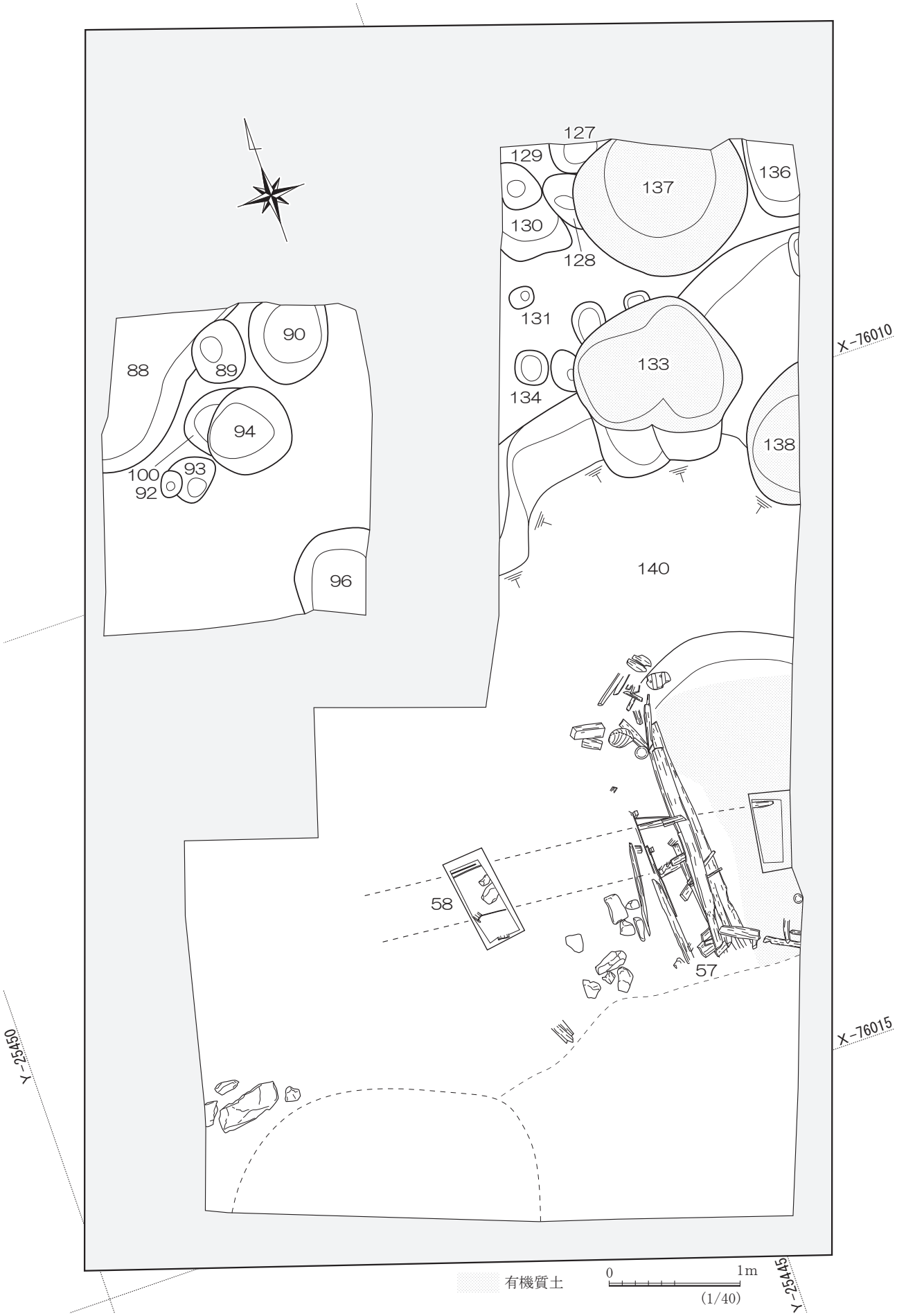

127
129
137
136
130
128
131
133
134
138
140
88
89
90
94
100
93
92
96
58
57
X-76010
X-76015
Y-25450
Y-25445
有機質土
0
1m
(1/40)

図12　3面下全体図①

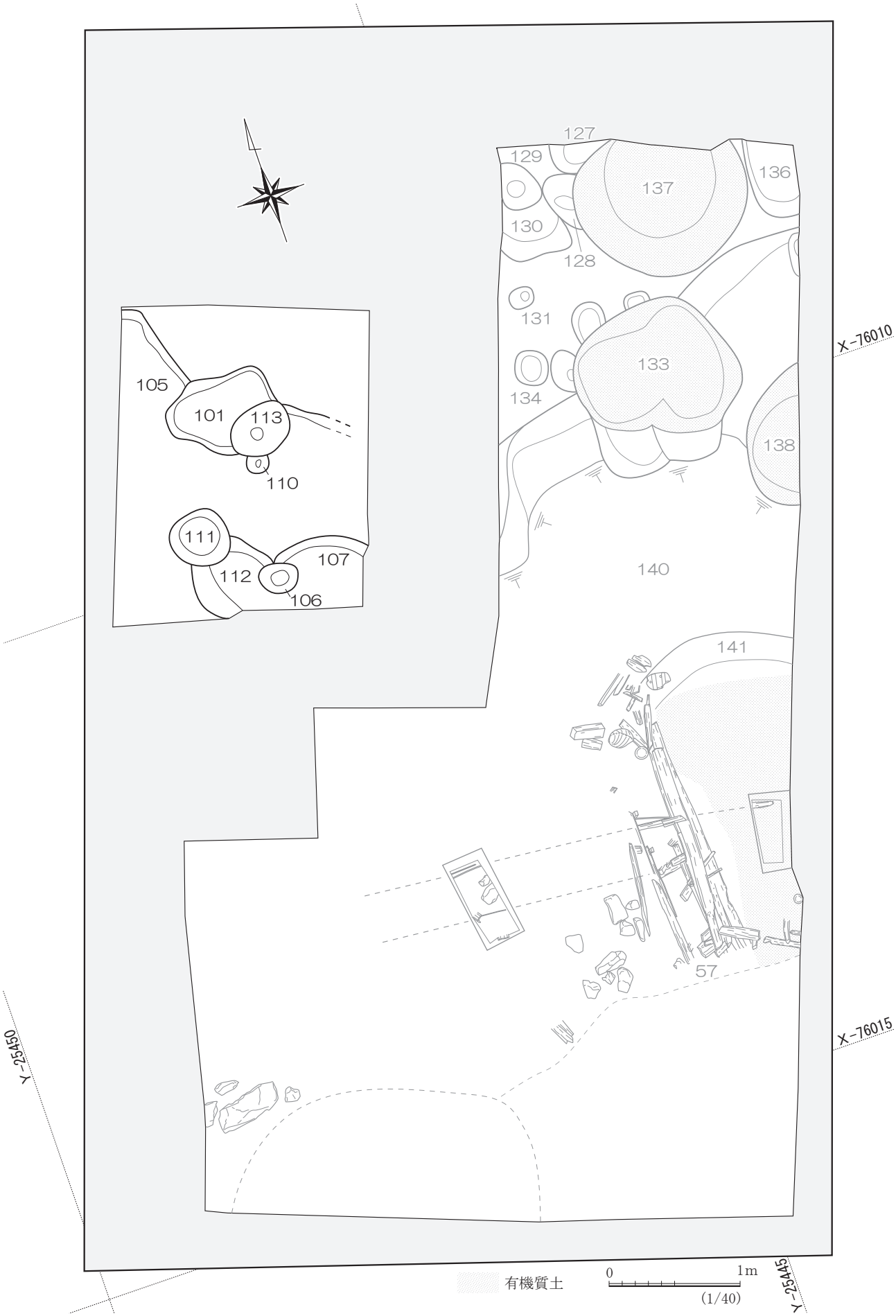
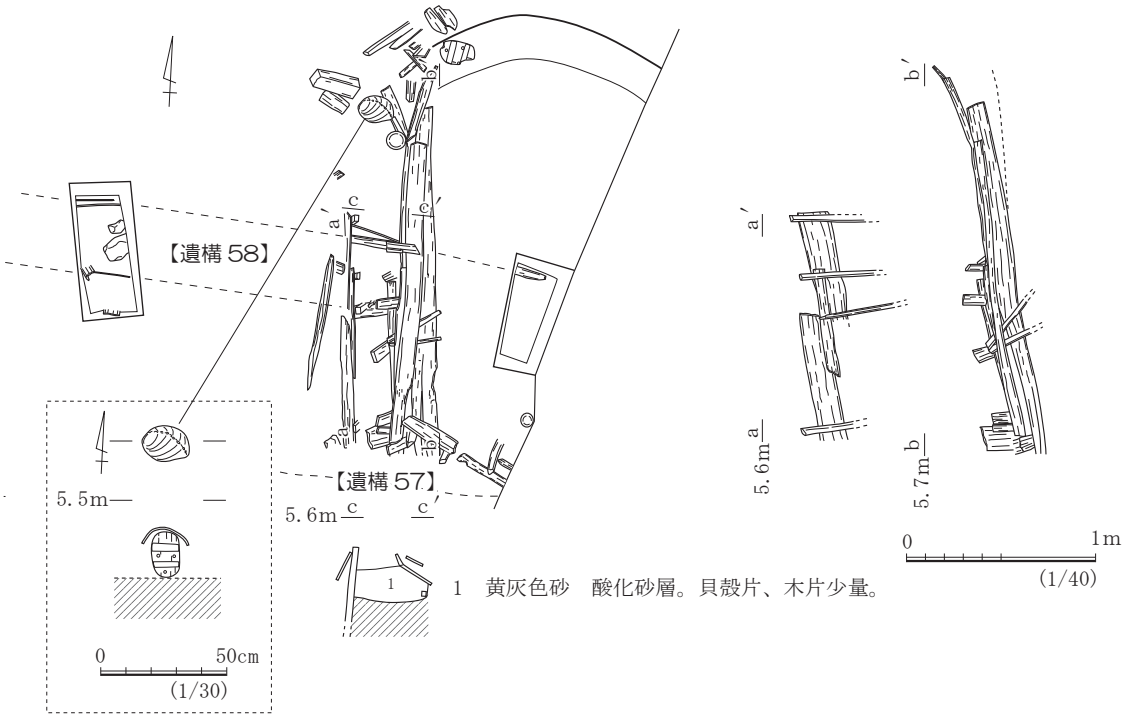
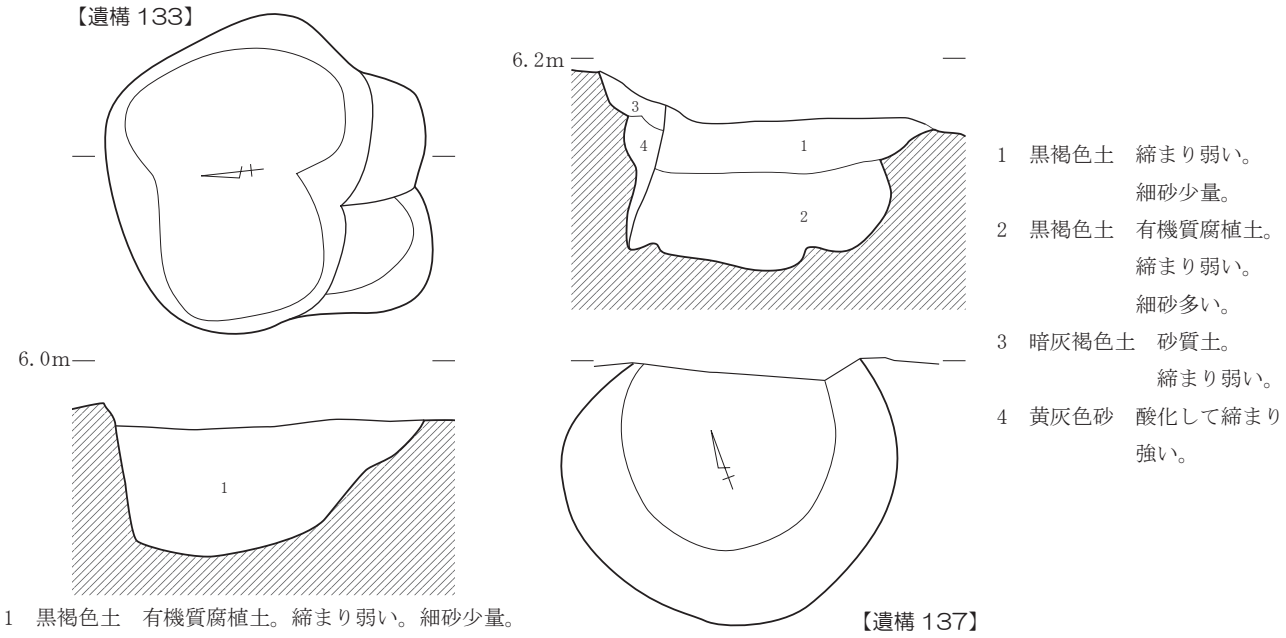

127
129
137
136
130
128
131
133
134
138
140
141
57
105
101
113
110
111
107
112
106
X-76010
X-76015
Y-25450
Y-25445
有機質土
0
1m
(1/40)

図13　3面下全体図②





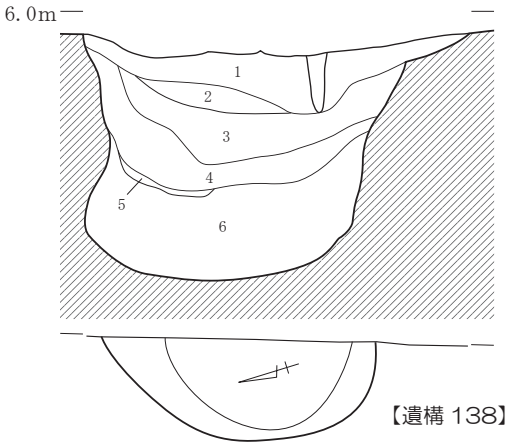


図14 3面下 個別遺構図

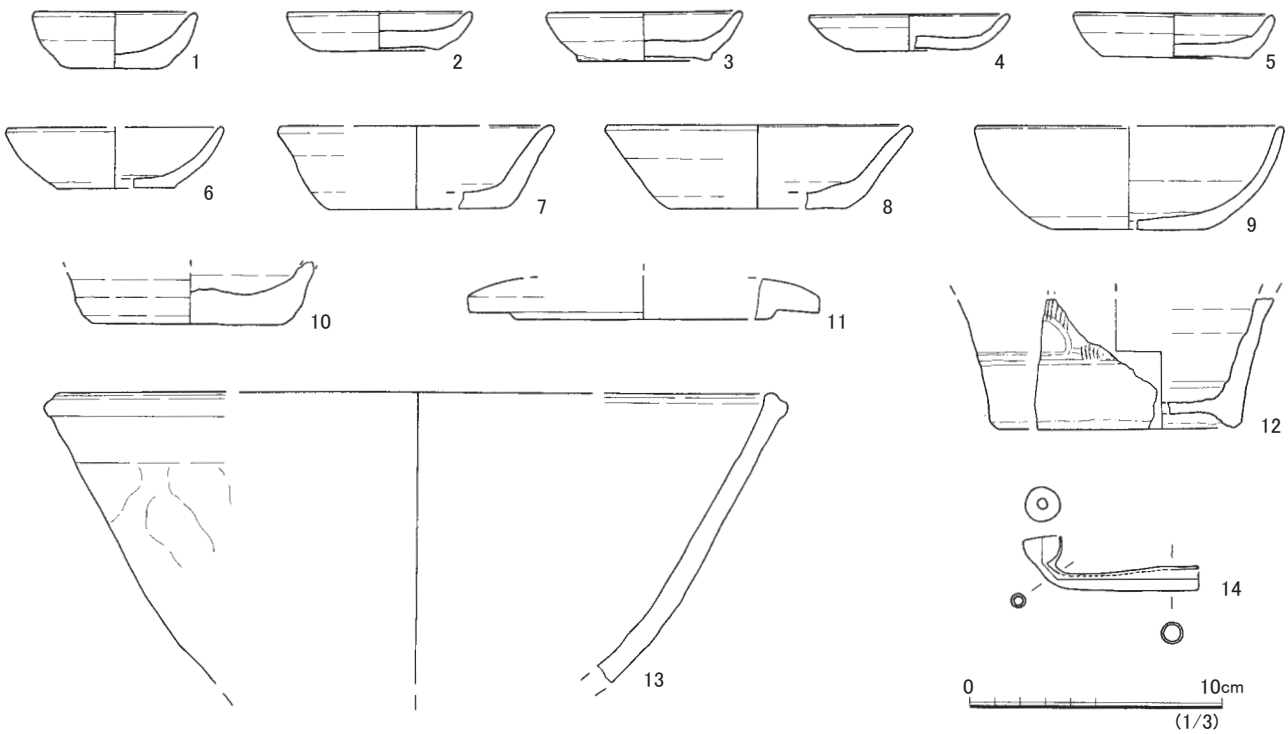


図15　表土～１面 出土遺物

図21 ～図24には、3面検出遺構からの出土遺物を掲載した。

図21 － 118 ～ 122は遺構135（南北道路）出土の遺物。出土総量は少なく、路盤構築土への包含遺物が主体となるため、小片遺物が大部分を占める。なお、路盤下ということで、表1においては3面下の欄に本遺構からの出土遺物を掲載している。118は手づくねかわらけの小皿。119はロクロかわらけの小皿で、外底面には静止糸切り痕が残る。本遺構出土のかわらけは、大・小ともに手づくねがロクロの破片数・重量を上回っている。121は常滑甕（壺）の肩部片で、外面に断面三角形の凸帯が巡る。外面に掛かる自然釉は厚く、光沢が鮮やかである。

図21 － 123 ～図22 － 163は遺構27a（板壁建物）の覆土から出土した。123 ～ 128は手づくねかわらけの小皿。129 ～ 132も手づくねかわらけで大皿。133 ～ 144はロクロかわらけ。138までが小皿、139 ～ 144が大皿である。138は上面観が擬扇面状となっている。割れ口の状況から、故意に打ち欠き・二次整形されたものと考えられる。143も二次的な加工痕が見られ、割れ口の二辺が摩擦によって平滑になっている。144は厚手の底部を有し、内底面には横方向の指ナデを施していない。外底面の回転糸切り痕は摩擦によるものか、やや不鮮明となっている。

図22 － 145･146は舶載磁器。145は青白磁の合子蓋。天井部の外面に草花文のレリーフが見られる。146は白磁口兀皿（碗）の口縁と底部の小片。ともに内面に細線による文様が見て取れる。作りは非常に薄い。147は陶器の壺で、全体形状は復元できず、頸部・肩部・底部の破片をそれぞれ掲図せざるを得なかった。大きくは東海諸窯産と見られ、胎土の緻密さから瀬戸または渥美を産地候補として考えているが現時点では特定に至っていない。149は尾張産片口鉢。無高台ながら体部から口縁部の内外面は回転ナデ調整であり、口縁部は丸く仕上げられている。外面体部下端には回転ヘラケズリ様の調整痕が看取でき、全体としてⅠ類の特徴を備えている。Ⅱ類への過渡期に作成されたものとなろうか。150は常滑の片口鉢で、体部外面に指頭押圧痕を残すⅡ類。口縁端部はやや内傾する平坦面を成している。154は古代の須恵器坏底部。156は軽石加工品。、2面に摩擦痕と数条の条痕が見て取れ、研磨具と考えて良いだろう。157 ～ 159は北宋銭。159は157と対照的に銹化が著しく、辛うじて「大観通寶」の銭銘

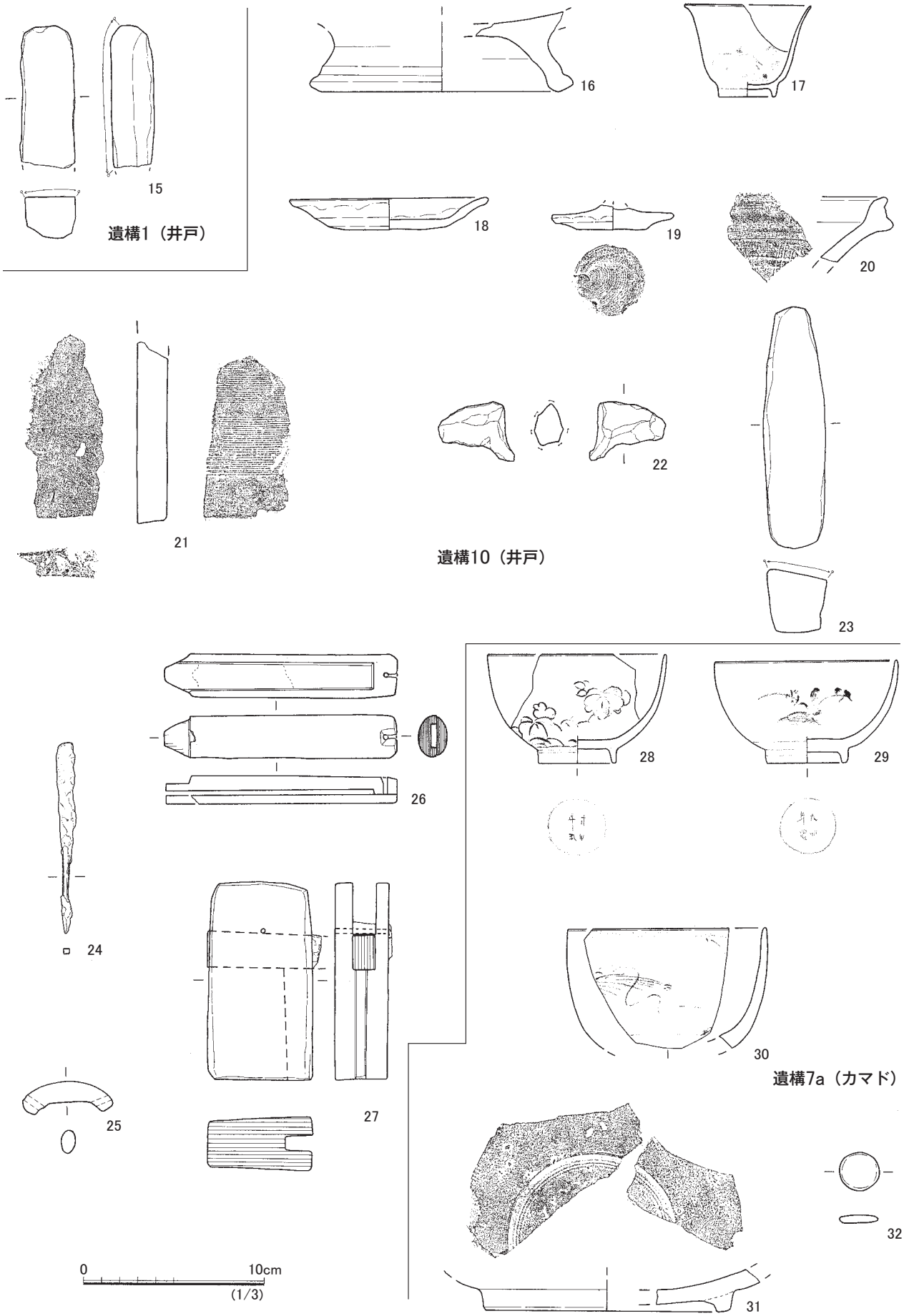

15
遺構1（井戸）
16
17
18
19
20
21
22
遺構10（井戸）
23
24
25
26
27
28
29
30
遺構7a（カマド）
31
32
0
10cm
(1/3)

図16　1面 出土遺物①

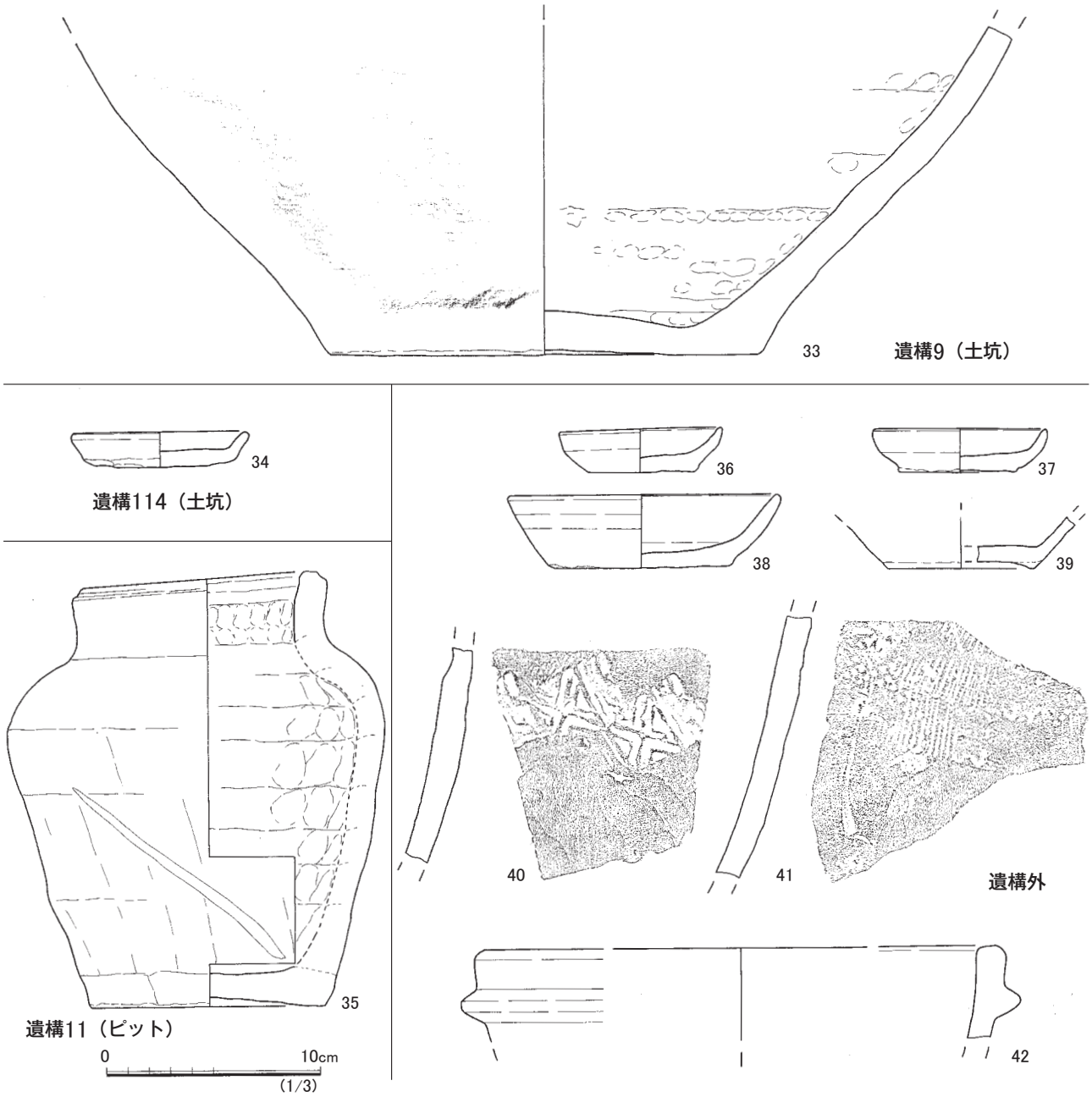


図17　1面 出土遺物②

を読み取ることができた。162は用途不明の円盤状木製品。板目材を使用している。163は貝殻の殻頂部を切断してリング状に加工した製品。ツタノハガイ科のマツバガイ、またはベッコウカサガイの殻を用いたか。切断面も含む外面は摩擦によるものか、やや滑らかになっている。用途は不明。

図23も3面遺構出土遺物。164～183は引き続き遺構27aに帰属する遺物で、171までが覆土下層、172～174が床面上、175～183が裏込め土など掘り方から出土。164・165は手づくねかわらけの大皿。165は底部のみの破片で、中央に穿孔がある。焼成後、内・外面から穿たれたものと見て取れた。168は素焼きの土器で、器種不明品の口縁部片。図示した傾きも不明確である。169は常滑壺の胴下端～底部。成形が粗雑で、胴部内面には粘土紐を巻く際のシワが顕著に残る。170・171は常滑甕の口縁～肩部で、ともに5型式。171は肩部外面に細かな斜格子のスタンプ文と指ナデによる2条の凹線が見られる。後者は、窯印か。172は手づくねかわらけの小皿。173はロクロかわらけの大皿。174は木製の横櫛。表面は黒色を呈するが、漆塗膜は確認できない。175～178は手づくねかわらけの小皿・大皿。179～182はロク

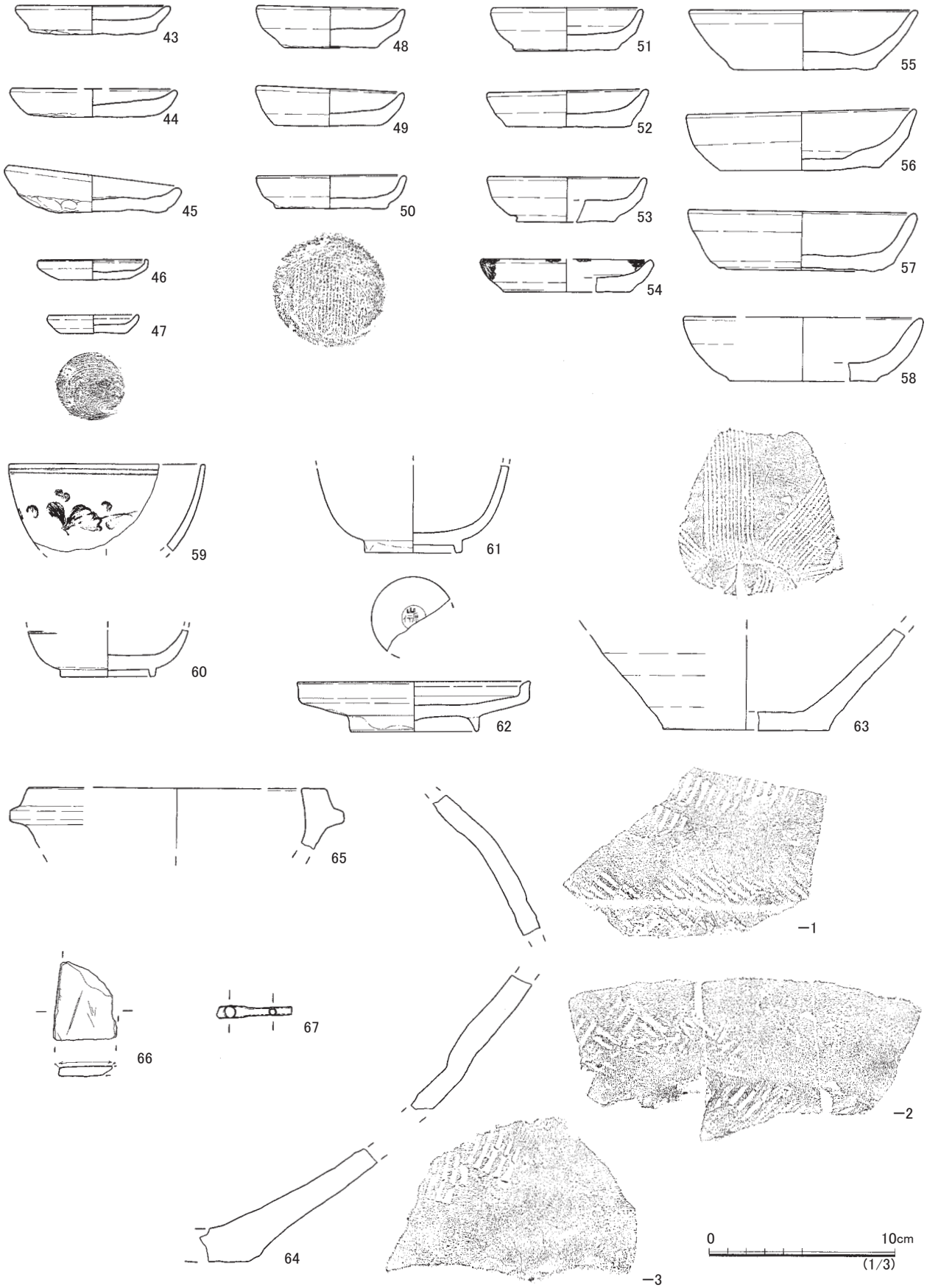

43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
65
66
67
64
−1
−2
−3
0
10cm
(1/3)

図18　1面下 出土遺物

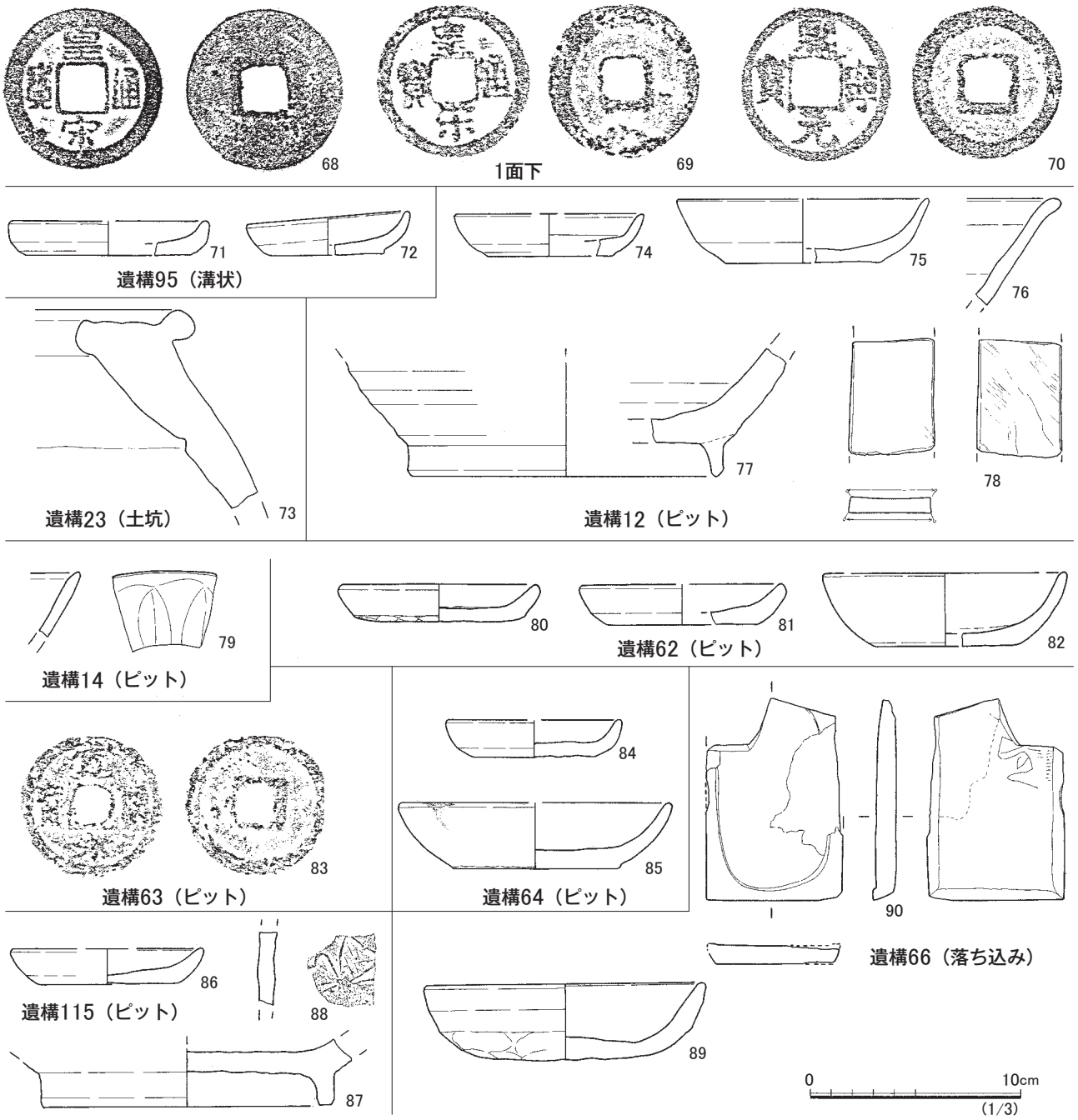


図19　1面下・2面 出土遺物

ロかわらけの小皿である。本遺構で出土したかわらけは、大皿で手づくねがロクロ成形品を凌駕し、小皿では両成形品が拮抗した破片数と重量を示している。183は円筒形の木製品で、容器の栓であろうか。

図23－184～194は他の3面遺構から出土。遺構54出土の185は注口部を欠くが瓜形水注であろう。小片からの復元であり、図示した径には不安が残る。遺構41出土の186は寛永通寶の文銭で、遺構1や遺構10など隣接する上層遺構の覆土を掘り残していたために混入したものと思われる。

図24－195～205は遺構27bから出土した遺物である。195～197はロクロかわらけの小皿と大皿。198は素焼きで小型の壺形土器。胎土には白色針状物質を含む。203は銹化の著しい銅銭。「熙寧元寶」と微かに判読できた。

図25～27には3面下の遺構から出土した遺物を掲載した。

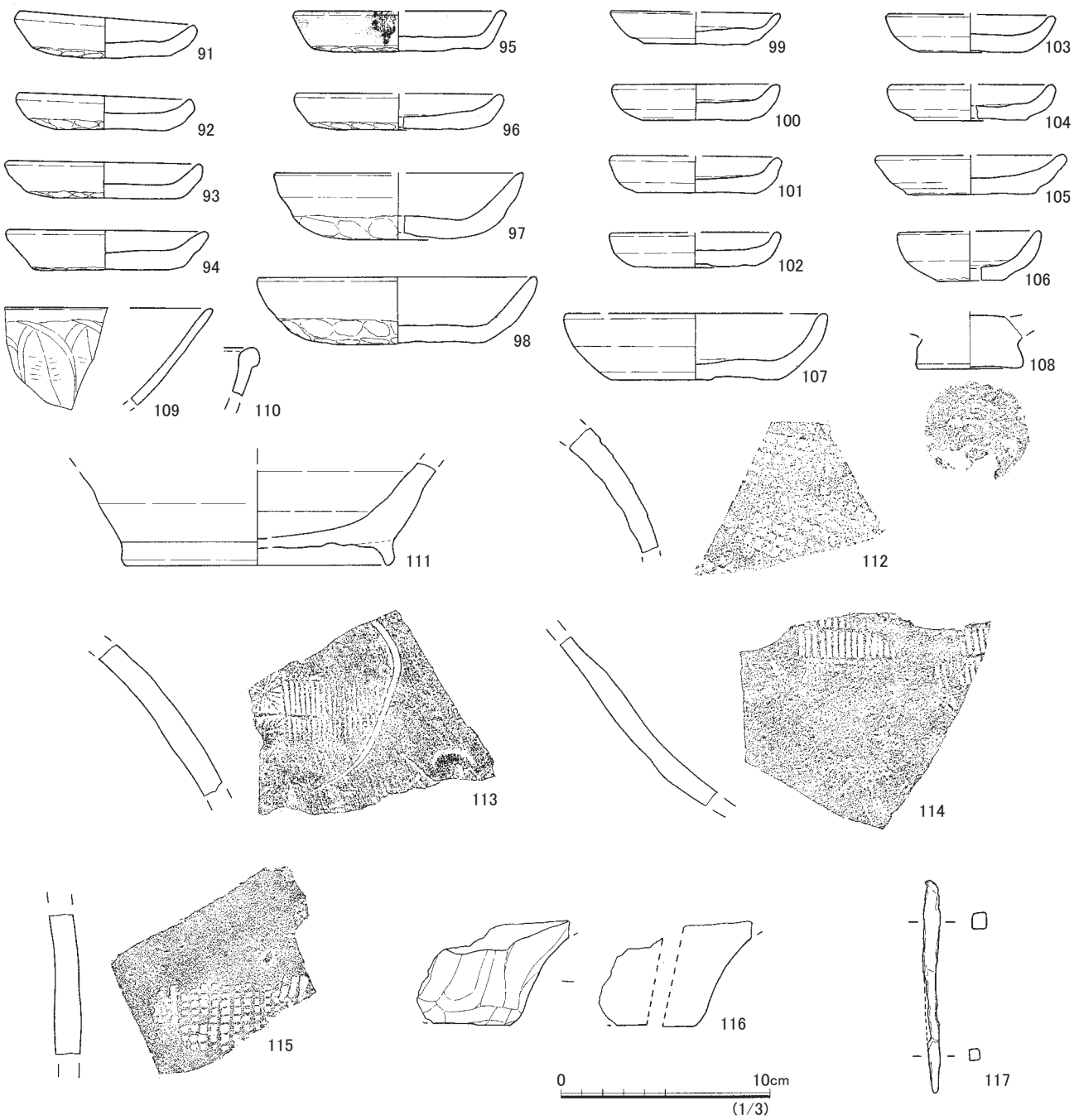


図20　2面下 出土遺物

図25－211～217は遺構133から出土。211・212は手づくねかわらけの大皿。213はロクロかわらけの大皿。本遺構では、出土かわらけの主体は手づくねとなる。217は常滑甕の胴部と底部。胴部外面に菊花文のスタンプを捺している。

図26－219～224は遺構138から出土。219・220はロクロかわらけの小皿。本遺構では手づくねも一定量の出土があり、大皿はロクロ成形品を超える破片数・重量を示している。

225～245は遺構140から出土。225～227は手づくねかわらけの大皿・小皿。本遺構でのかわらけ出土破片数は5点で、うち4点が手づくね成形品となっている。231～245は木製品。231は形状から鳥形との見解を示したが、確定はできない。232～245は箸。本報告では完形、もしくはそれに準じる資料のみを1点＝1個体としてカウントした。

246は遺構141で出土した手づくねかわらけの大皿。本遺構からの出土遺物は、この1点のみである。

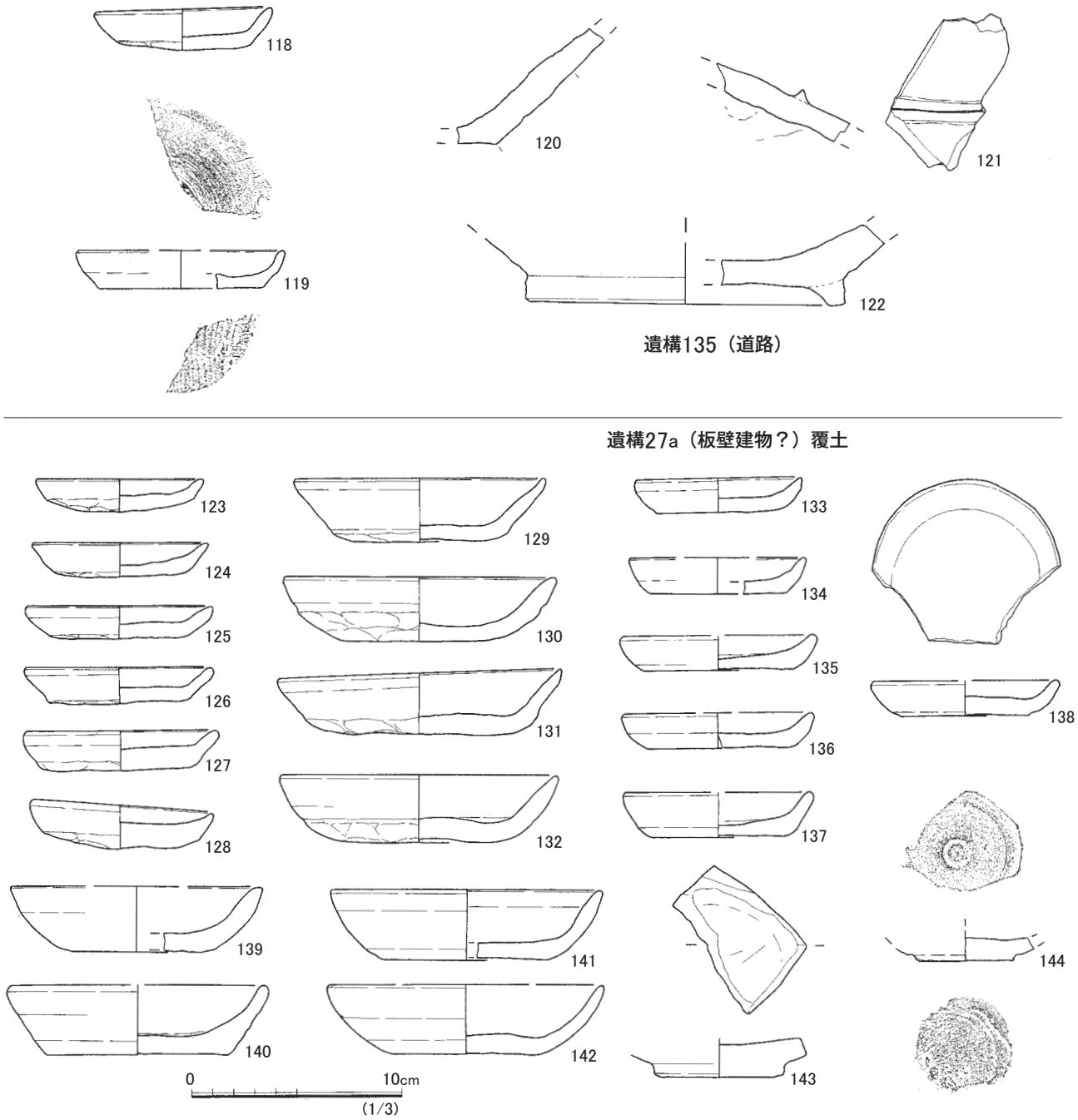


図21　3面 出土遺物①

図27－247～251は遺構57の木組み内から出土した。247～249は手づくねかわらけの小皿。249は焼け歪みが顕著である。250は漆器皿。内外面とも黒色漆が塗られ、文様は施していない。251は木製連歯下駄。後方を下にして立った状態で出土し、この上にアワビ殻が被っていた。252～260は遺構57の西側、261・262は東側から出土した。明確な掘り方プランを検出した訳ではなく、近接位置で出土したという程度の認識で捉えている。252は手づくねかわらけの小皿。253～257はロクロかわらけで、255までが小皿、256が大皿、257は柱状高台皿と思われる。256・257ともに底部外面の回転糸切り痕が不鮮明である。261・262はロクロかわらけの小皿と大皿。262の底部外面には静止糸切り痕が残る。本遺構および周辺出土のかわらけは、大皿では手づくねが主体だが、小皿の重量に関しては手づくね・ロクロ成形品が拮抗した数値を示している。

269～275は遺構105から出土。269～271は手づくねかわらけ。270の小皿と271の大皿は口縁端部

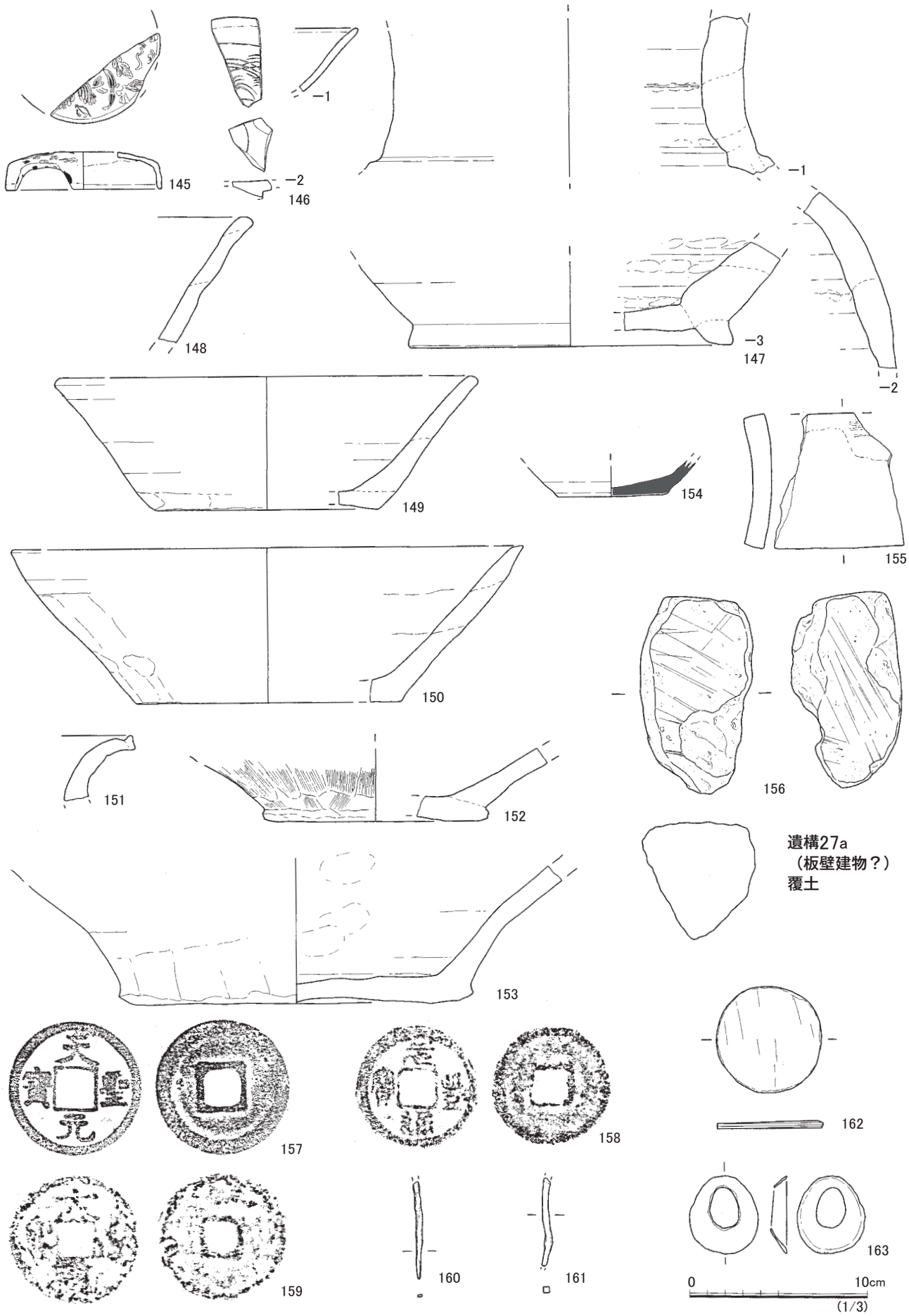

145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
遺構27a
（板壁建物？）
覆土
0
10cm
(1/3)

図22　3面 出土遺物②

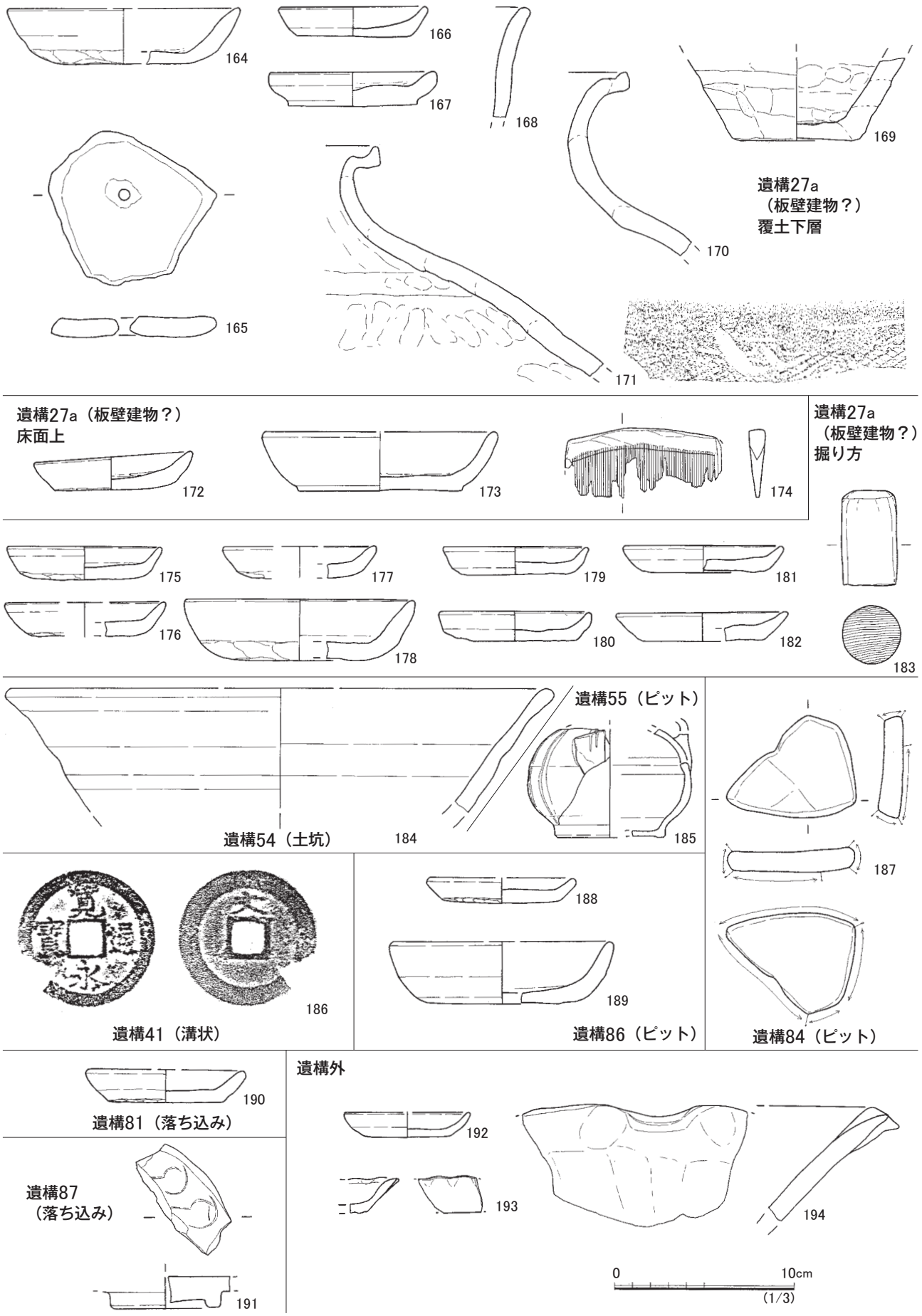

164
166
167
168
169
170
171
165
遺構27a
（板壁建物？）
覆土下層
遺構27a（板壁建物？）
床面上
172
173
174
遺構27a
（板壁建物？）
掘り方
175
177
179
181
176
178
180
182
183
遺構55（ピット）
遺構54（土坑）
184
185
187
186
遺構41（溝状）
188
189
遺構86（ピット）
遺構84（ピット）
190
遺構81（落ち込み）
遺構外
192
193
194
遺構87
（落ち込み）
191
0
10cm
(1/3)

図23　3面 出土遺物③

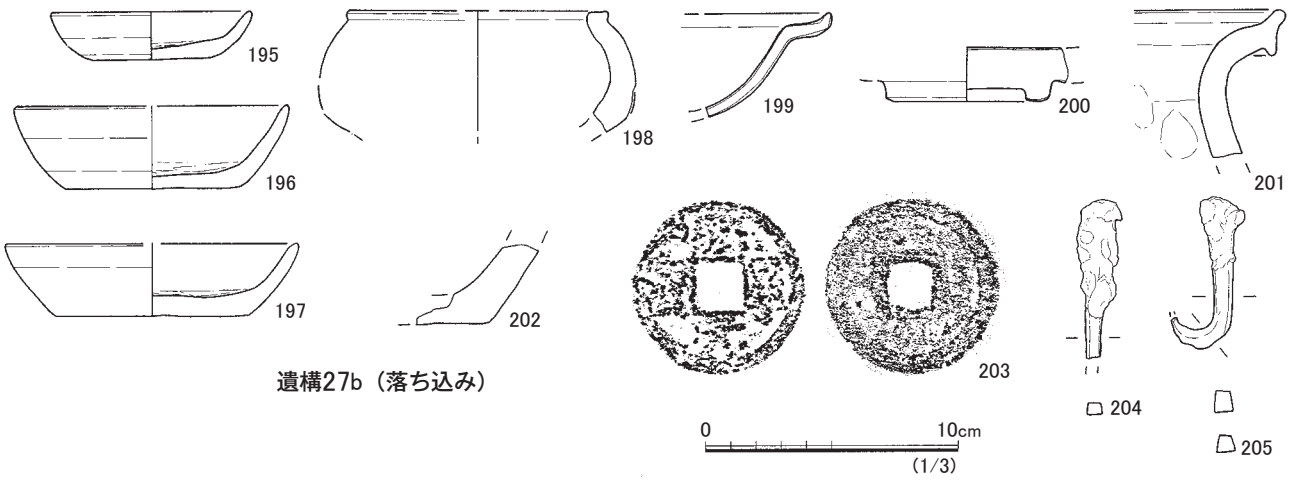


図24　3面 出土遺物④

がナデによって面取りされる。272・273はロクロかわらけの小皿と大皿。本遺構でのかわらけの出土量は、大皿では手づくねが主体で、小皿でも手づくねがロクロ成形品を上回っている。276は円盤状の鉄製品。

図28・図29も3面下からの出土遺物で、帰属遺構を把握できなかったもの。277～292は手づくねかわらけの小皿。293～296は手づくねの大皿である。297～313はロクロかわらけ。313の大皿以外、全て小皿である。297の底部内面には横方向のナデ調整が施されず、外底面に静止糸切り痕が残る。319は瀬戸の擂鉢で、上層遺構の掘り残しなどから出土したものであろう。

図29－324は肩部に突帯をもつ常滑甕（壺）片。331は木製品で連歯下駄。332も木製品で草履芯。334はハマグリの殻で内面に黒色の付着物が見られる。漆または膠などの接着剤と見られ、パレットとして使用されたものであろう。

第五章　調査成果のまとめ

ここまで、発見された遺構と遺物について説明を行ってきた。既述のように各面での遺構の検出には苦慮し、下位の遺構面で上層遺構を確認する例も間々あった。こうした現地での混乱については整理時に修正を図ったが、十分に果たせないままの報告となった。反省点が多く、今後の調査に活かしたい。

以下、出土遺物から各遺構面の年代観を検討し、周辺の調査成果も参考にしながら本報告のまとめを述べたい。

第1節　各遺構面の年代観

1面では円形の凝灰岩切石積み井戸（遺構1）や、袖材として切石を配するカマド（遺構7a・b）が発見された。遺構1は本遺構よりも古い遺構10で近代の所産と思われる瓦片が出土していることから、近代以降に構築されたものと考えた。同形態の井戸は現在でもコンクリート枡を付け足すなどして使用されている例があり、近代以降、一定の規格のもと普及したと考えられる。遺構7aは肥前系染付碗から18世紀後半頃に使用されたと考えられる。遺構11ピット内に埋置された壺は常滑産で17世紀代の所産と考えられる。このように、1面の検出遺構には近世から近代までの幅が認められる。

1面下～2面掘り下げ時に出土した遺物には近世・近代遺物が混在しているが、これらは該期遺構の掘り残しに伴うものであろう。かわらけの形態や供伴遺物の特徴から明確な年代観は示しにくい。この

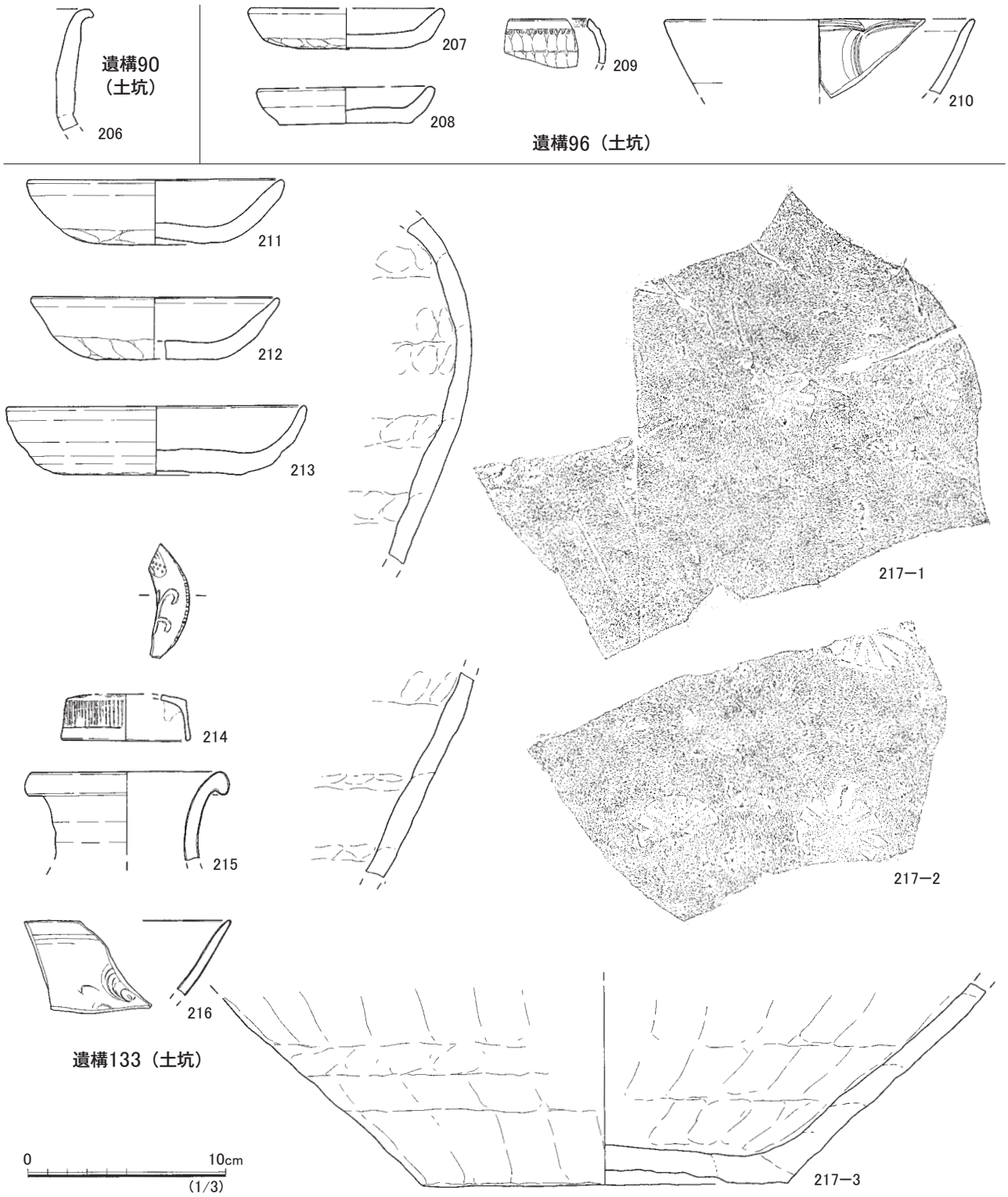


図25　3面下 出土遺物①

段階のかわらけを特徴付ける薄手丸深化や大・中・小への法量分化といった要素は見て取れなかったが、後述する2面年代観との相対から、13世紀後半～14世紀前半頃の年代観を与えておく。

2面でも一部の遺構で18世紀代の遺物が出土しているが、これらは調査時の混乱に伴う混入遺物と考えている。残りの良い遺物が少なかったため面全体の傾向を示しているか注意が必要だが、かわらけに一定量の手づくね成形品を含んでいること、ロクロ成形品の大皿は底径が広く身深でないことから、13世紀中葉～後半の特徴と考えられる。この段階では大・小ともロクロ成形品の出土量が手づくねを上回る傾向が見て取れる。2面下では両者の出土比率は縮まり、Ⅱ－東区では大皿で手づくねが上回る。

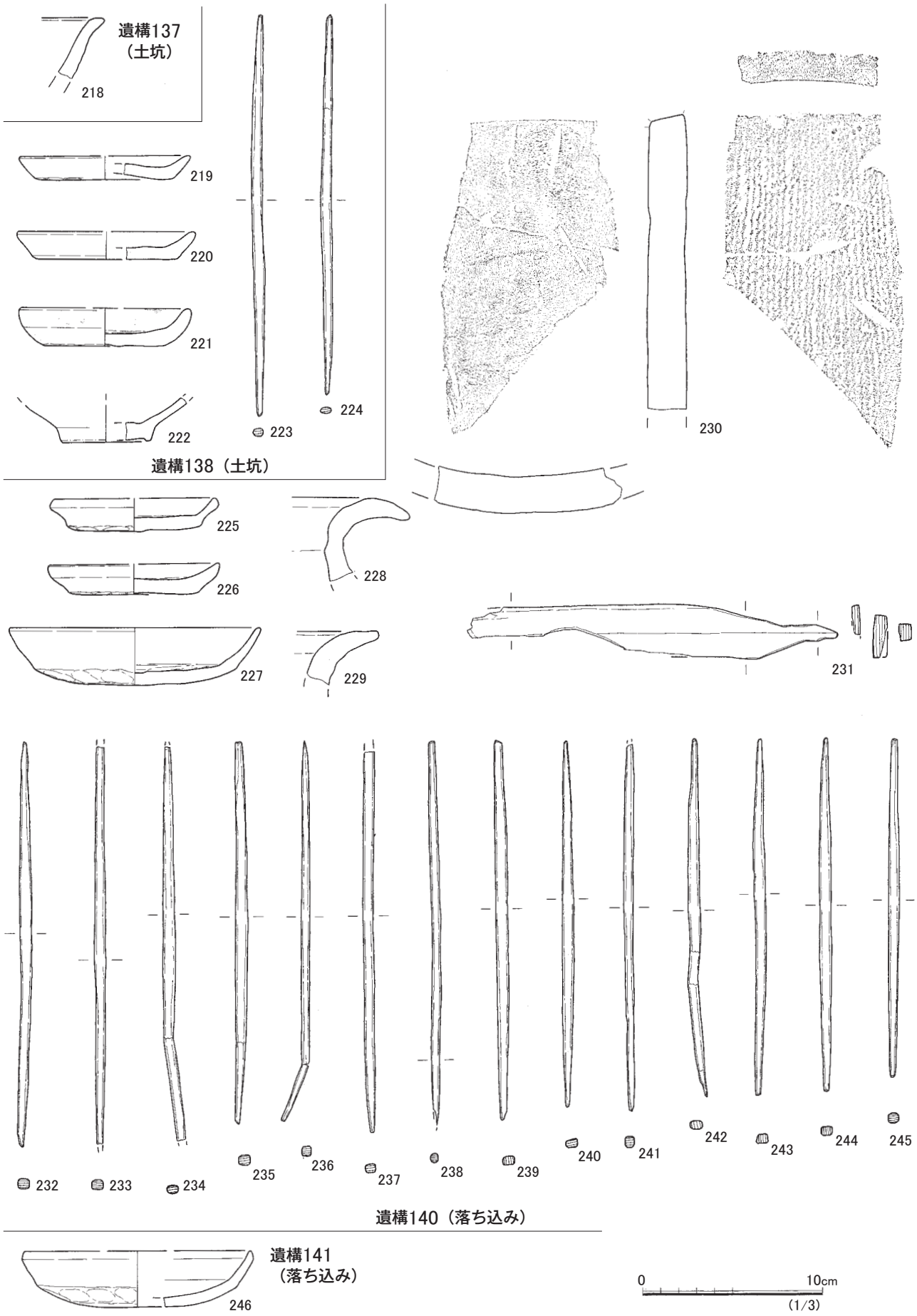


図26　3面下 出土遺物②

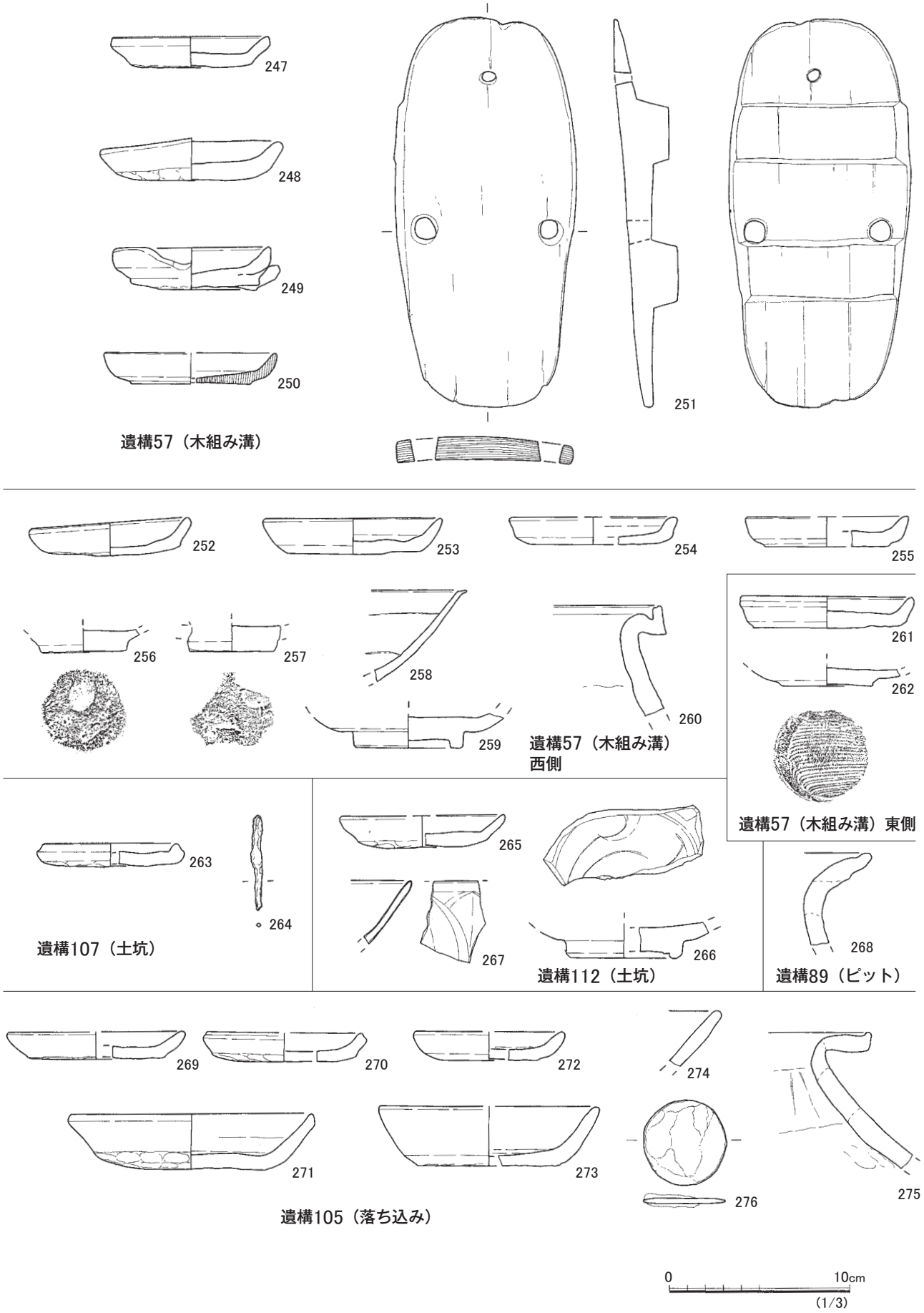


図27　3面下 出土遺物③

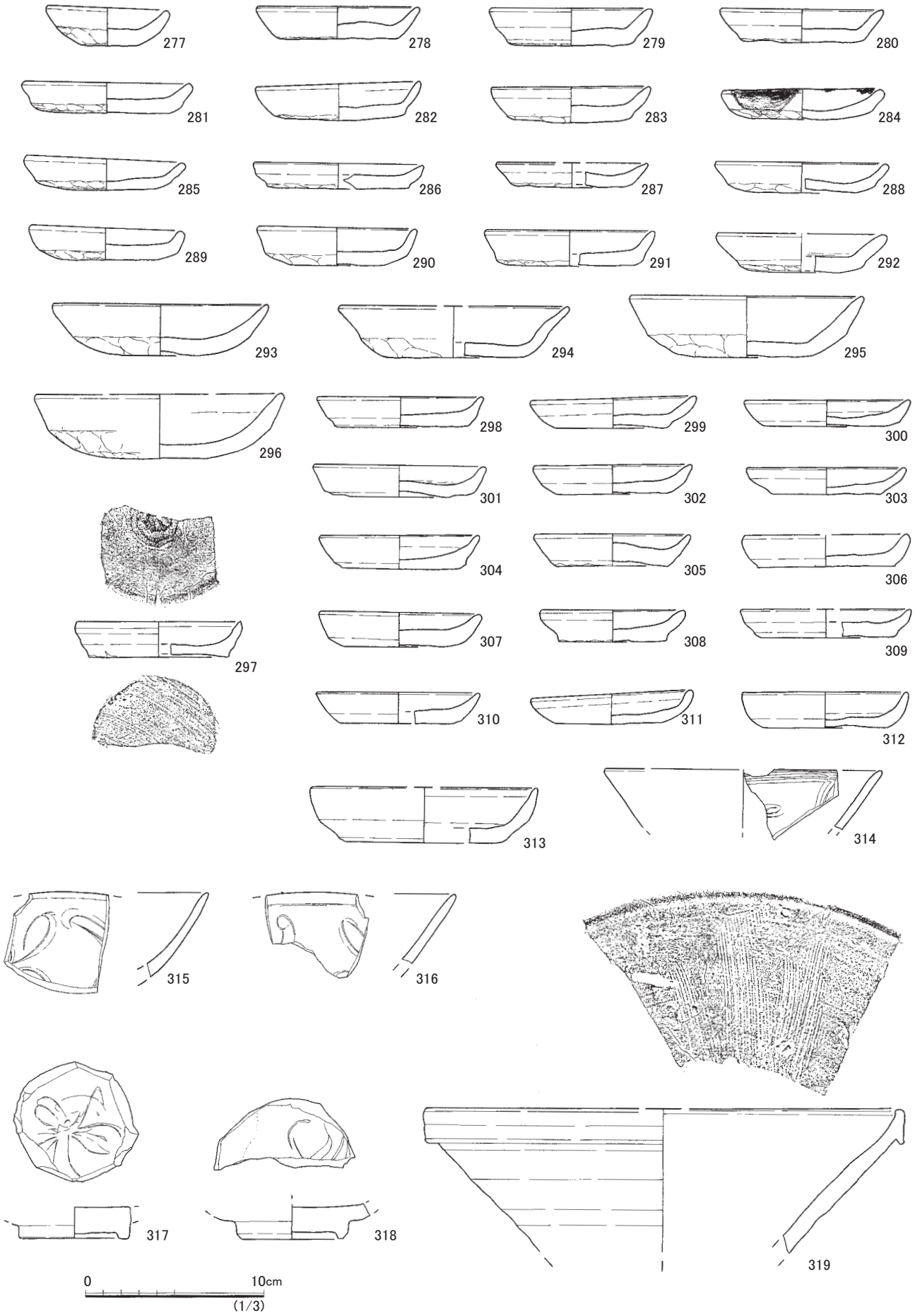


図28　3面下 出土遺物④

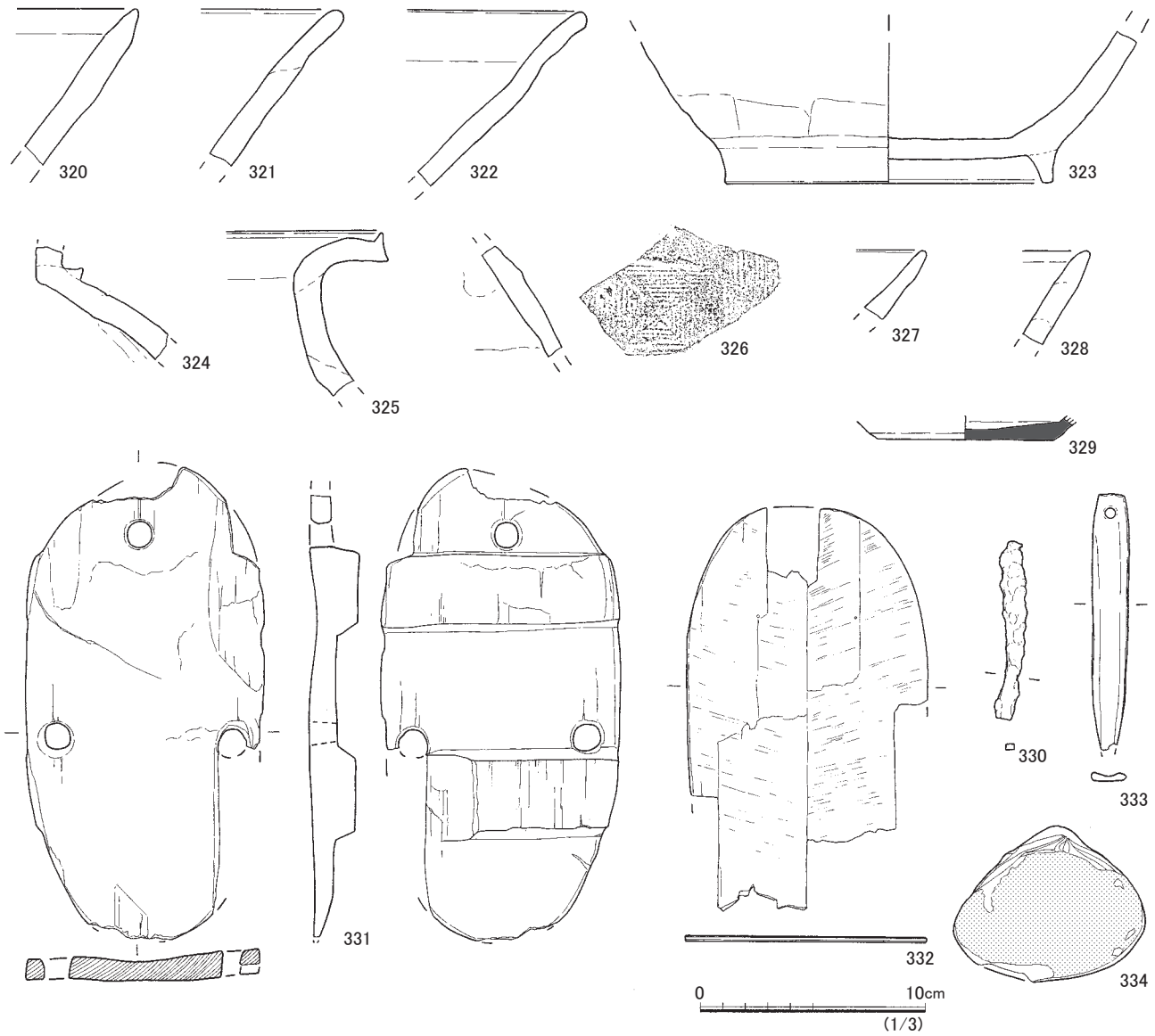


図29　3面下 出土遺物⑤

3面遺構では手づくねの出土比率が相対的に高くなるが、遺構によって異なり斉一的な動きとはならない。形態・法量上の特徴は2面・2面下のかわらけと大差がなく、ここから明確な年代差は認めにくい。遺構27aは覆土から常滑6型式の片口鉢Ⅱ類が出土しているので13世紀後半との位置付けも可能だが、前記かわらけの成形比率や2面年代観との対比から、13世紀中葉の年代観を示しておきたい。

3面下では手づくねかわらけの相対量が増し、一部の遺構を除きロクロ成形品を上回る状況となる。大皿・小皿とも口径が一回り大きく低平な側面観を呈するようになる。また、手づくねかわらけに器壁が薄く口縁端部を面状に整形する資料が何点か認められる。常滑窯の製品は5型式までに収まり、一部極端に新しい要素も混在するが、概ね13世紀第2四半期～中葉の遺物様相を呈している。

Ⅰ区では規制深度より下位へも中世層の堆積が認められたため、さらに古相を示す遺物が包含されている可能性も想定されるが、Ⅳ層上に構築された遺構133・138など土坑からの出土遺物を参考とすれば、本地点では大よそ13世紀第2四半期前後に開発が始まったものと理解できようか。

周辺調査地では13世紀前半、または12世紀末～13世紀第1四半期といった年代を当地域における中世の開発始期と捉えている。本地点でも製作年代が12世紀代まで遡及する個体は認められるので、Ⅰ区以南の下層には、より古段階の遺構が展開していた可能性も残しておきたい。

第２節　３面遺構の性格と軸線について

3面では南北道路の西に接して延びる、板杭で固定された横板を確認した。その西側での間仕切り状痕跡も含めて**遺構27ａ**と捉え、本報告では板壁建物と性格付けた。ごく狭小な範囲での検出であり、横板が南に向けて低くなる点など、現代の視点からは建物と考えるのに否定的要素も存在する。また、板壁建物の壁体は地中に埋め込むのが通例とされるので、この論に従えば建物内と想定したアワビ殻の集積などは床下に埋置されたことになる。こうした点をもとに、本遺構の性格をめぐっては以下の二説も併記しておきたい。①建物と考えた上で、壁体は地中に埋め込まず、ごく浅い竪穴の底を床面として使用した。この場合、直床となるので作業場など居住とは異なる用途を推測できる。②横板は南北道路の補強を目的に設置された。

3面以下の遺構は、概ね真北を意識した軸線で構築されたものと考えた。遺構展開が明確でないが、2面以降、現在の土地割りに近いN20°Ｅ前後の軸線が採用されたようだ。**図１－地点６・11**では中世の全時期を通じて「大町大路」に沿った後者の基軸線を看取でき、**地点７・11・17**では大路と同方向に延びる道路遺構（泥岩整地面）が検出されている。これら3地点で検出された道路遺構を単純に直線で結ぶと本地点の南辺を通ることになる（**図29**）。全てが一連の道路となるかは具体的な比較検討が必要であるため可能性の提示に止めるが、直線で本地点の南辺を通ると仮定すれば幅員は12ｍ以下と推定できる。本地点は逆川が北に屈曲して接近してくる位置にあることから、流路の位置が道路の走方向に影響を及ぼした可能性も考えられる。3面以下の遺構軸線が現在の土地区画と異なる要因も、当該期における河川など地形上の制約や、それを受けた道路の軸線に求めることができるかもしれない。現在、本地点の西側を走る南北道路は正方位に近い軸線であり、3面以前には、これに沿った土地割りが採用されていたことも考えられる。土地区画の規定要因は一様ではなく、地点や時期ごとに多元的に考える必要があろう。3面から2面への移行期において遺構軸線が変わる事象については、13世紀中葉～後半という比定時期とともに構築物の形態＝土地利用の在り方が変わる点にヒントがあるように思われる。本地点の資料だけでは歴史的背景までを含めた考察はできないが、上記2点を掲げ、調査成果の蓄積を待つことにしたい。

図30　東西道路の検出地点

付記―年代観の根拠について―

本編では各遺構面の年代観について、主として下記の文献を参考に提示してきた。在地土器で供膳具の中心となる「かわらけ」の編年研究では、特に年代観の付与という点で鎌倉内の研究者間に共通理解を見出せていない現状があり、また筆者自身がこれら先行研究を咀嚼できていないこともあって一定の幅を持たせた曖昧な記述に終始してしまった。お詫びしたい。

かわらけ：宗臺秀明　2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』

常滑：中野晴久　2005「常滑・渥美系」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』

引用・参考文献

高柳光寿　1959『鎌倉市史　総説編』　鎌倉市

三浦勝男編　1969『鎌倉の古絵図Ⅱ』　鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館

白石永二編　1976『鎌倉事典』　東京堂出版

菊川英政　1995「名越ヶ谷遺跡　大町三丁目1217番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11（第1分冊）』
鎌倉市教育委員会

木下　良ほか　1997『神奈川の古代道』　藤沢市教育委員会　博物館建設準備担当

押木弘己　2011「調査速報　米町遺跡の調査」『かまくら考古　第10号』　特定非営利活動法人鎌倉考古学研究所

表１　出土遺物計数・計量表

地区	面	遺構	かわらけ								土器						白磁												褐釉陶器	
			ロクロ				手づくね				南伊勢系鍋		鉢		火鉢		口兀皿		碗		瓶		蓮弁文碗		碗・皿		瓶		壺	
			大		小		大		小																					
Ⅰ	1	1掘り方	27	228	12	65	4	29	1	5					3	332														
Ⅰ	1	7a	13	212	4	40																	2	15						
Ⅰ	1	7b	2	19	3	27	17	223									1	3	1	2					1	2				
Ⅰ	1	8	4	31																										
Ⅰ	1	9			3	29																								
Ⅰ	1	10	206	1872	96	745	104	1210	7	56	1	9	1	129	8	1017					1	15	5	37	6	30	1	58	1	11
Ⅰ	1	11																												
Ⅱ西	1	60	5	38	1	4	3	36	2	21																				

地区	面	遺構	瀬戸												渥美・湖西				尾張型・常滑										備前	
			卸皿		折縁深皿		縁釉皿		天目碗		皿・鉢		瓶		甕		こね鉢		甕		壺		片口鉢				山茶碗 山皿		擂鉢	
																							Ⅰ類		Ⅱ類					
Ⅰ	1	1掘り方			1	22													29	1031	1	30	3	200	1	34				
Ⅰ	1	7a							1	27	1	102			1	125			23	826			6	242						
Ⅰ	1	7b													1	24			6	173										
Ⅰ	1	8											1	8	2	66														
Ⅰ	1	9													1				1	1390										
Ⅰ	1	10	1	23	4	120	1	49			3	196	2	69	20	1209	1	47	249	12414	2	45	22	1023	7	386	1	7	1	62
Ⅰ	1	11																			1	2150	1	72						
Ⅱ西	1	60																	2	62										

地区	面	遺構	瓦質土器		瓦				鉄製品・鉄滓						銅製品		石製品										木製品	
			火鉢		平瓦		丸瓦		刀子		釘		鉄滓		不明		火打石		砥石		碁石		軽石		滑石鍋		漆器椀	不明
Ⅰ	1	1掘り方	1	40	2	183					1	8							1	90								
Ⅰ	1	7a									1	25									2	4						
Ⅰ	1	7b							1	10																		
Ⅰ	1	8																										
Ⅰ	1	9																										
Ⅰ	1	10	3	183	4	322	1	182			4	46	1	18	1	32	1	21	2	221			1	105	1	7	1	1
Ⅰ	1	11																										
Ⅱ西	1	60	1	63	1	50					1	4																

地区	面	遺構	肥前系磁器				瀬戸・美濃磁器		瀬戸・美濃陶器		不明陶器						土師器			
			染付碗・皿		碗		染付碗		擂鉢		碗		碗・皿・鉢		甕・瓶		甕		坏	
Ⅰ	1	1掘り方	1	3	1	6	2	6			2	23	1	9						
Ⅰ	1	7a	13	326									5	149	1	10				
Ⅰ	1	7b	3	19							2	13			1	6				
Ⅰ	1	8																		
Ⅰ	1	9											1	6						
Ⅰ	1	10	30	478					2	14	7	64	24	551	4	33	2	11	1	3
Ⅰ	1	11																		
Ⅱ西	1	60																		

地区	面	遺構	かわらけ								土器				青磁（龍泉系）								青白磁		瀬戸		渥美・湖西			
			ロクロ				手づくね				南伊勢系鍋		火鉢		劃花文碗		蓮弁文碗		碗・皿		瓶		水注		皿・鉢		甕		こね鉢	
			大		小		大		小																					
Ⅰ	2	12	6	133	2	24	4	45											2	15										
Ⅰ	2	14	5	26	1	2											1	16												
Ⅰ	2	15	10	56	3	14	1	6																						
Ⅰ	2	16	5	42	8	34	3	21																			1	14		
Ⅰ	2	17	5	38	4	20																								
Ⅰ	2	18			2	8																					1	53		
Ⅰ	2	19	5	36	4	19																								
Ⅰ	2	21	5	34																										
Ⅰ	2	22	14	116	4	19							1	71																
Ⅰ	2	23	19	138	9	56																								
Ⅰ	2	24	6	42	3	16	1	15																						
Ⅰ	2	25			5	18																								
Ⅰ	2	26	5	53	3	21																								
Ⅱ西	2	61					2	9																						
Ⅱ西	2	62	13	122	7	55	3	62	2	29																			1	20
Ⅱ西	2	63			1	4																								
Ⅱ西	2	64	10	170	10	75																								
Ⅱ西	2	65	11	59																										
Ⅱ西	2	66・67・68	1	7	1	4	5	30	2	5																	1	138		
Ⅱ西	2	73	3	71	4	24	2	18	1	17	1	5																		
Ⅱ西	2	95	1	9	1	54																								
Ⅱ東	2	114	16	133	15	80	38	370	5	60					1	8					1	7	1	25	1	4	4	159		
Ⅱ東	2	115	5	28	14	86	2	15	1	4	1	8																		
Ⅱ東	2	116	4	33	2	21	9	187	1	23							1	6												
Ⅱ東	2	117	3	19			1	16																						
Ⅱ東	2	120	2	72			2	185																						
Ⅱ東	2	123	7	57	6	25																					1	6		

地区	面	遺構	常滑										瓦質土器		瓦		銅製品		石製品				近世陶器		土師器		須恵器			
			甕		壺		片口鉢				山茶碗 山皿		火鉢		平瓦		銭		砥石		硯		碗・皿・鉢		相模型甕		坏		蓋	
							Ⅰ類		Ⅱ類																					
Ⅰ	2	12	10	553			2	276									1	11	1	37										
Ⅰ	2	14	4	240			1	51			1	9																		
Ⅰ	2	15	1	38			1	55																						
Ⅰ	2	16	8	295																										
Ⅰ	2	17	1	9																										
Ⅰ	2	18	1	7			1	12																						
Ⅰ	2	19																												
Ⅰ	2	21																												
Ⅰ	2	22	1	56																										
Ⅰ	2	23	2	632					3	71																				
Ⅰ	2	24					1	13																						
Ⅰ	2	25																												
Ⅰ	2	26	6	209			2	20																						
Ⅱ西	2	61																												
Ⅱ西	2	62	6	128											1	36														
Ⅱ西	2	63															1	3												
Ⅱ西	2	64	7	438																										
Ⅱ西	2	65																												
Ⅱ西	2	66・67・68	2	38																	1	104							1	6
Ⅱ西	2	73					1	139																			1	4		
Ⅱ西	2	95																												
Ⅱ東	2	114	22	948			3	83											1	10					2	33				
Ⅱ東	2	115	8	127			1	194																						
Ⅱ東	2	116	18	1002			1	102																						
Ⅱ東	2	117	1	26																			1	21						
Ⅱ東	2	120																												
Ⅱ東	2	123			1	4							1	44																

地区	面	遺構	かわらけ								白かわらけ		土器						白磁					
			ロクロ				手づくね				ロクロ		南伊勢系鍋		火鉢		不明		口兀皿		碗		瓶	
			大		小		大		小		大													
Ⅰ	3	27a覆土～床面	166	2709	118	1435	360	5051	91	1133	1	12	6	47					2	11	1	5	2	17
Ⅱ東	3	27a裏込め			2	119			1	72														
Ⅰ	3	27b	164	2052	69	598	83	1194	17	156					1	112			2	10	1	3		
Ⅰ	3	28	3	21	5	16	2	10									1	21						
Ⅰ	3	29	11	73	3	17																		
Ⅰ	3	30			2	14																		
Ⅰ	3	32					1	6																
Ⅰ	3	33	3	13																				
Ⅰ	3	34			1	9																		
Ⅰ	3	35	3	15			1	8																
Ⅰ	3	36	1	10			1	8	1	9														
Ⅰ	3	37	5	38					1	4														
Ⅰ	3	39					1	4																
Ⅰ	3	41	5	77	3	17	13	103	1	12											1	8		
Ⅰ	3	48	4	19					2	8														
Ⅰ	3	49	19	194	4	24			1	3														
Ⅰ	3	54	8	67	2	25																		
Ⅰ	3	55																						
Ⅱ西	3	74	3	21					2	26														
Ⅱ西	3	75	1	5																				
Ⅱ西	3	76	1	8																				
Ⅱ西	3	78	1	10																				
Ⅱ西	3	79・81	4	50	2	13	21	141	5	43														
Ⅱ西	3	82	1	21	2	12	11	90	3	13														
Ⅱ西	3	83	3	11	1	3																		
Ⅱ西	3	84	3	31			2	14																
Ⅱ西	3	85	4	35	5	33	7	56																
Ⅱ西	3	86・87																						
Ⅱ西	3	91	1	11			2	25																
Ⅱ東	3	125	4	17	2	4	5	35	1	3														
Ⅱ東	3	126	1	11	4	21	2	17																

地区	面	遺構	青磁（同安系）		青磁（龍泉系）										青白磁			
			櫛描文碗		劃花文碗		蓮弁文碗		折縁皿		碗・皿		瓶		水注		合子	
Ⅰ	3	27a覆土～床面	2	9	12	163	6	51			1	3	1	7			1	14
Ⅱ東	3	27a裏込め																
Ⅰ	3	27b			1	4	2	24	1	26	1	143						
Ⅰ	3	28																
Ⅰ	3	29																
Ⅰ	3	30																
Ⅰ	3	32																
Ⅰ	3	33																
Ⅰ	3	34																
Ⅰ	3	35																
Ⅰ	3	36																
Ⅰ	3	37																
Ⅰ	3	39																
Ⅰ	3	41			1	7												
Ⅰ	3	48																
Ⅰ	3	49																
Ⅰ	3	54																
Ⅰ	3	55													1	12		
Ⅱ西	3	74																
Ⅱ西	3	75																
Ⅱ西	3	76																
Ⅱ西	3	78																
Ⅱ西	3	79・81																
Ⅱ西	3	82																
Ⅱ西	3	83																
Ⅱ西	3	84																
Ⅱ西	3	85																
Ⅱ西	3	86・87																
Ⅱ西	3	91																
Ⅱ東	3	125																
Ⅱ東	3	126																

地区	面	遺構	瀬戸						渥美・湖西								尾張型・常滑									
			卸皿		皿・鉢		瓶		甕		壺		こね鉢		山茶碗		甕		壺		片口鉢				山茶碗	
																					Ⅰ類		Ⅱ類		山皿	
Ⅰ	3	27a覆土～床面	1	28	1	59			60	2887							366	25347	4	329	14	824	6	478	2	25
Ⅱ東	3	27a裏込め																								
Ⅰ	3	27b			1	10			19	670			1	39	1	16	106	4807	1	29	8	350	3	230		
Ⅰ	3	28															1	122								
Ⅰ	3	29															4	159								
Ⅰ	3	30															1	13								
Ⅰ	3	32																								
Ⅰ	3	33															1	7								
Ⅰ	3	34																								
Ⅰ	3	35							1	18	1	34														
Ⅰ	3	36							4	273																
Ⅰ	3	37							2	135					1	7	3	44								
Ⅰ	3	39															1	22								
Ⅰ	3	41							2	69							8	485			2	29				
Ⅰ	3	48																								
Ⅰ	3	49	1	13													3	108			3	121				
Ⅰ	3	54															1	18			1	18				
Ⅰ	3	55																								
Ⅱ西	3	74									2	95														
Ⅱ西	3	75																								
Ⅱ西	3	76																								
Ⅱ西	3	78																								
Ⅱ西	3	79・81							2	34							5	296			2	26				
Ⅱ西	3	82							1	68							5	192								
Ⅱ西	3	83															1	8								
Ⅱ西	3	84															3	150								
Ⅱ西	3	85															7	56								
Ⅱ西	3	86・87																								
Ⅱ西	3	91															1	30								
Ⅱ東	3	125					1	26									6	335								
Ⅱ東	3	126															3	80								

地区	面	遺構	瓦器		瓦質土器		瓦		鉄製品・鉄滓						銅製品		石製品				木製品・木材						
			碗		火鉢		平瓦		釘		針		鉄滓		銭		軽石		滑石鍋		草履芯	箸	横櫛	刀子柄	栓	曲物底・蓋	不明
Ⅰ	3	27a覆土～床面			1	16	2	87	4	36	1	1			3	14	1	151	1	115	1	7	1	1	1	2	1
Ⅱ東	3	27a裏込め																									
Ⅰ	3	27b			4	223			5	46			1	120	1	3			1	94							
Ⅰ	3	28																									
Ⅰ	3	29																									
Ⅰ	3	30																									
Ⅰ	3	32																									
Ⅰ	3	33																									
Ⅰ	3	34																									
Ⅰ	3	35																									
Ⅰ	3	36																									
Ⅰ	3	37																									
Ⅰ	3	39																									
Ⅰ	3	41													1	3											
Ⅰ	3	48	1	3																							
Ⅰ	3	49																									
Ⅰ	3	54							1	16			1	10													
Ⅰ	3	55																									
Ⅱ西	3	74																									
Ⅱ西	3	75																									
Ⅱ西	3	76																									
Ⅱ西	3	78																									
Ⅱ西	3	79・81																									
Ⅱ西	3	82																									
Ⅱ西	3	83																									
Ⅱ西	3	84																									
Ⅱ西	3	85																									
Ⅱ西	3	86・87																									
Ⅱ西	3	91																									
Ⅱ東	3	125																									
Ⅱ東	3	126																									

地区	面	遺構	肥前系磁器		土師器								古式土師器		須恵器						灰釉陶器	
			染付碗・皿		相模型甕		三浦型甕		甕		坏		壺		坏		瓶		甕		碗	
Ⅰ	3	27a覆土～床面	1	16	2	18	1	4	6	57			1	7	1	8			2	92	1	7
Ⅱ東	3	27a裏込め																				
Ⅰ	3	27b															1	7				
Ⅰ	3	28																				
Ⅰ	3	29																				
Ⅰ	3	30																				
Ⅰ	3	32																				
Ⅰ	3	33																				
Ⅰ	3	34																				
Ⅰ	3	35																				
Ⅰ	3	36																				
Ⅰ	3	37																				
Ⅰ	3	39																				
Ⅰ	3	41																				
Ⅰ	3	48																				
Ⅰ	3	49																				
Ⅰ	3	54																				
Ⅰ	3	55																				
Ⅱ西	3	74									1	7										
Ⅱ西	3	75																				
Ⅱ西	3	76																				
Ⅱ西	3	78																				
Ⅱ西	3	79・81																				
Ⅱ西	3	82							1	5												
Ⅱ西	3	83							1	4	1	1										
Ⅱ西	3	84																				
Ⅱ西	3	85																				
Ⅱ西	3	86・87																				
Ⅱ西	3	91																				
Ⅱ東	3	125																				
Ⅱ東	3	126																				

地区	面	遺構	かわらけ										土器				白磁					
			ロクロ				手づくね						南伊勢系鍋		不明		端反碗		碗		瓶	
			大		小		大		小		内折れ											
Ⅱ西	3下	100																				
Ⅱ西	3下	107	1	9	2	7	7	71	6	44	1	22										
Ⅱ東	3下	127			2	9	1	8					1	12								
Ⅱ東	3下	128					1	11														
Ⅱ東	3下	129					1	4	1	3												
Ⅱ東	3下	130					1	12														
Ⅱ東	3下	131					1	8														
Ⅱ東	3下	132	2	34	1	17	8	88	3	31												
Ⅱ東	3下	133	5	199			18	497	8	46											1	33
Ⅱ東	3下	134					3	17														
Ⅱ東	3下	135下	2	21	3	28	18	203	6	92											1	5
Ⅱ東	3下	137			1	14	7	99														
Ⅱ東	3下	138	8	81	7	117	12	92	4	30									1	13		
Ⅱ東	3下	140	1	12			3	164	2	20											1	13
Ⅰ	3下	57	7	128	8	327	60	888	23	371					1	20	1	28				
Ⅰ	3下	57西																				
Ⅰ	3下	57東							1	64												
Ⅱ西	3下	88	21	195			6	64			1	6	2	37								
Ⅱ西	3下	89							5	18												
Ⅱ西	3下	93					1	9														
Ⅱ西	3下	90	3	19	2	13	2	18											1	5		
Ⅱ西	3下	94			3	36	4	62														
Ⅱ西	3下b	101																				
Ⅱ西	3下b	105	9	154	12	70	28	409	16	125											2	35
Ⅱ西	3下b	106																				
Ⅱ西	3下b	110					1	5	1	3												
Ⅱ西	3下b	111			3	25	4	25														
Ⅱ西	3下b	113					1	7														

地区	面	遺構	青磁（龍泉系）												瀬戸						渥美・湖西			
			劃花文碗		蓮弁文碗		碗・皿		瓶		酒会壺		梅瓶蓋		碗		皿・鉢		瓶		甕		こね鉢	
Ⅱ西	3下	100	1	14																				
Ⅱ西	3下	107	1	2					1	17														
Ⅱ東	3下	127																						
Ⅱ東	3下	128																						
Ⅱ東	3下	129																						
Ⅱ東	3下	130																						
Ⅱ東	3下	131																						
Ⅱ東	3下	132																						
Ⅱ東	3下	133	1	18			1	3			2	48	1	8										
Ⅱ東	3下	134																						
Ⅱ東	3下	135下															1	132			3	185	1	339
Ⅱ東	3下	137																			1	86		
Ⅱ東	3下	138																			1	21		
Ⅱ東	3下	140																			1	64		
Ⅰ	3下	57	3	10	1	10	1	97							1	6					3	148	1	27
Ⅰ	3下	57西																						
Ⅰ	3下	57東																						
Ⅱ西	3下	88																			2	33		
Ⅱ西	3下	89																						
Ⅱ西	3下	93																			1	138		
Ⅱ西	3下	90																	1	58	3	287		
Ⅱ西	3下	94			1	4															1	165		
Ⅱ西	3下b	101																						
Ⅱ西	3下b	105																			5	371		
Ⅱ西	3下b	106																			1	42		
Ⅱ西	3下b	110																						
Ⅱ西	3下b	111																						
Ⅱ西	3下b	113																						

地区	面	遺構	尾張型・常滑								東遠		瓦		鉄製品・鉄滓						石製品					
			甕		壺		片口鉢 Ⅰ類		山茶碗 山皿		無台碗		平瓦		釘		不明		鉄滓		火打石		硯		滑石鍋	
Ⅱ西	3下	100	1	26																						
Ⅱ西	3下	107	9	336									1	46	1	2										
Ⅱ東	3下	127	2	558																						
Ⅱ東	3下	128																								
Ⅱ東	3下	129																	1	48						
Ⅱ東	3下	130																								
Ⅱ東	3下	131																								
Ⅱ東	3下	132	4	747			1	100																		
Ⅱ東	3下	133	15	908																						
Ⅱ東	3下	134																								
Ⅱ東	3下	135下	39	2491	1	43	3	257																		
Ⅱ東	3下	137			1	23																				
Ⅱ東	3下	138																								
Ⅱ東	3下	140																								
Ⅰ	3下	57	45	2753	1	9	5	121			1	58									1	49	1	21	1	43
Ⅰ	3下	57西																								
Ⅰ	3下	57東	1	17																						
Ⅱ西	3下	88	7	321			1	57							1	7										
Ⅱ西	3下	89	1	93																						
Ⅱ西	3下	93	6	567																						
Ⅱ西	3下	90	11	572											1	6										
Ⅱ西	3下	94	8	376			2	47							1	9										
Ⅱ西	3下b	101	2	94																						
2西	3下b	105	19	1576	1	23	3	120	1	4							1	17								
Ⅱ西	3下b	106																								
Ⅱ西	3下b	110	1	34																						
Ⅱ西	3下b	111	1	147																						
Ⅱ西	3下b	113																								

地区	面	遺構	木製品						土師器										須恵器			
			草履芯	箸	下駄	形代?	木地碗	漆器皿	相模型甕		三浦型甕		甕		甑		坏		坏		甕	
Ⅱ西	3下	100							1	16							1	6	2	20	1	29
Ⅱ西	3下	107													1	16	1	16				
Ⅱ東	3下	127																				
Ⅱ東	3下	128																				
Ⅱ東	3下	129																				
Ⅱ東	3下	130																				
Ⅱ東	3下	131																				
Ⅱ東	3下	132																				
Ⅱ東	3下	133																				
Ⅱ東	3下	134																				
Ⅱ東	3下	135下																				
Ⅱ東	3下	137																				
Ⅱ東	3下	138	1	3																		
Ⅱ東	3下	140	2	56		1	1															
Ⅰ	3下	57	1	10	1			1					2	20								
Ⅰ	3下	57西																				
Ⅰ	3下	57東	1	4																		
Ⅱ西	3下	88																				
Ⅱ西	3下	89																				
Ⅱ西	3下	93																				
Ⅱ西	3下	90																				
Ⅱ西	3下	94																	1	6		
Ⅱ西	3下b	101							1	8												
Ⅱ西	3下b	105											1	47								
Ⅱ西	3下b	106																				
Ⅱ西	3下b	110																				
Ⅱ西	3下b	111									1	12										
Ⅱ西	3下b	113																				

地区	面	かわらけ												白かわらけ		土器											
		ロクロ				手づくね								ロクロ		蓋		南伊勢系鍋		鍔釜		鉢		火鉢		不明	
		大		小		大		小		内折れ		柱状高台		大													
一	表採	11	131			5	57	1	5																		
Ⅰ	表土	13	108	11	53	2	10																				
Ⅱ西	表土	24	400	8	49	4	38	6	56					1	18	1	18										
Ⅱ東	表土	152	1605	51	554	12	120	1	2																		
Ⅰ	1	116	1285	24	164	26	516	10	116									1	14								
Ⅰ	1下	133	1604	45	438	32	261	3	58	1	18							1	10					1	24		
Ⅱ西	1下	94	711	31	254	14	141	8	110															3	536		
Ⅱ東	1下	102	1626	72	1088	39	532	23	405									1	4			1	106	4	209		
Ⅰ	2下	121	1397	41	349	25	398																	1	41	2	66
Ⅱ西	2下	100	1510	67	728	59	1059	31	790									1	10								
Ⅱ東	2下	11	206	13	155	21	350	3	14			1	51														
Ⅰ	3	59	659	20	196	35	342	6	48											1	10						
Ⅱ西	3																										
Ⅱ東	3	4	68	6	61	18	476	4	96																		
Ⅰ	3下	8	121	4	118	13	176	3	97																		
Ⅱ西	3下	65	686	65	1085	136	2045	42	970	1	12							1	8								
Ⅱ東	3下	5	103	6	116	72	953	28	372																		
Ⅱ東	地山砂層																										

地区	面	白磁								青磁（龍泉系）										青白磁								褐釉陶器	
		口兀皿		碗		瓶		櫛描文皿		劃花文碗		蓮弁文碗		折縁皿		碗・皿		酒会壺蓋		梅瓶		水注		合子		蓋		壺	
一	表採											1	6																
Ⅰ	表土	1	5													1	6					1	5			1	5		
Ⅱ西	表土																												
Ⅱ東	表土	1	5			1	27					2	9			1	7			4	43								
Ⅰ	1					1	11					2	18				38											1	11
Ⅰ	1下	2	14	2	10							4	54							1	25								
Ⅱ西	1下			2	6			1	8			5	20			2	16	1	9										
Ⅱ東	1下	1	8	2	11	1	17					2	12																
Ⅰ	2下	2	21	1	15	1	14			1	14			1	16					1	9								
Ⅱ西	2下	1	4	1	3	2	27			2	7	4	37			3	31												
Ⅱ東	2下			1	12	1	6			1	10	1	11																
Ⅰ	3			1	6							2	26																
Ⅱ西	3																												
Ⅱ東	3																												
Ⅰ	3下									1	12	1	9			1	13												
Ⅱ西	3下	1	4			8	182	1	10	11	210	4	35	1	6	2	7							1	5				
Ⅱ東	3下									6	83					4	24												
Ⅱ東	地山砂層																												

地区	面	瀬戸																渥美・湖西							
		卸皿		折縁深皿		縁釉皿		入子		天目碗		皿・鉢		蓋		瓶		甕		壺		こね鉢		山茶碗	
—	表採																	2	68						
Ⅰ	表土															1	5								
Ⅱ西	表土																								
Ⅱ東	表土	2	70									3	149			1	66			1	79				
Ⅰ	1											1	38					12	1371						
Ⅰ	1下	1	7					1	13			2	131			2	11	6	125						
Ⅱ西	1下	1	10			1	27	1	27			2	74					6	191						
Ⅱ東	1下											2	177					8	998	1	36				
Ⅰ	2下			1	54							1	25			2	367	3	236						
Ⅱ西	2下									1	4					1	19	8	670						
Ⅱ東	2下																								
Ⅰ	3											1	7			2	219	3	67						
Ⅱ西	3																								
Ⅱ東	3															1	217	1	56						
Ⅰ	3下																								
Ⅱ西	3下													1	3	2	118	35	2251			2	47		
Ⅱ東	3下																	8	591	1	57			1	29
Ⅱ東	地山砂層																								

地区	面	尾張型・常滑										備前		瓦質土器		瓦				鉄製品・鉄滓							
		甕		壺		片口鉢				山茶碗		擂鉢		火鉢		平瓦		丸瓦		釘		針		不明		鉄滓	
						Ⅰ類		Ⅱ類		山皿																	
—	表採	11	530																								
Ⅰ	表土	20	3081																	1	8						
Ⅱ西	表土	19	664					1	109					1	24												
Ⅱ東	表土	88	5354	1	65	9	431	4	359					3	129							1	15				
Ⅰ	1	143	7233	1	45	2	248	3	371	4	62					1	43			2	22					1	58
Ⅰ	1下	162	6512	1	82	10	686	4	201					1	182			1	128	5	115						
Ⅱ西	1下	78	3865	1	19	7	242	2	104					1	13	1	134			1	15						
Ⅱ東	1下	183	11218			8	296	5	307	1	8			2	231					2	51						
Ⅰ	2下	93	5052	2	76	10	554	1	60	2	43	2	221	2	163	3	312										
Ⅱ西	2下	82	4446	1	14	5	218	3	360					1	25					3	48						
Ⅱ東	2下	39	2259			1	27																				
Ⅰ	3	51	1928	2	42	6	201	8	798					5	282					1	34					2	35
Ⅱ西	3	7	809			2	250																				
Ⅱ東	3	14	1411					1	48																		
Ⅰ	3下	21	1133																								
Ⅱ西	3下	206	11275	1	66	9	855													2	19			1	28	2	313
Ⅱ東	3下	25	1612					2	206							1	489										
Ⅱ東	地山砂層																										

地区	面	土師器				ロクロ土師器		古式土師器		須恵器								灰釉陶器	
		坏		甕		坏		壺		坏		蓋		瓶		甕		碗	
—	表採																		
Ⅰ	表土																		
Ⅱ西	表土																		
Ⅱ東	表土									1	5								
Ⅰ	1																		
Ⅰ	1下			2	16					2	21					1	16		
Ⅱ西	1下	1	9									1	6						
Ⅱ東	1下							1	10									1	10
Ⅰ	2下																		
Ⅱ西	2下			5	50			2	14					1	33			2	14
Ⅱ東	2下																		
Ⅰ	3	1	6	1	3	1	6			2	40								
Ⅱ西	3																		
Ⅱ東	3									1	25								
Ⅰ	3下			1															
Ⅱ西	3下	2	10	4	54			2	19	5	48							3	28
Ⅱ東	3下			1	8					1	6								
Ⅱ東	地山砂層																		

地区	面	遺構	動物遺体												
			不明	魚骨	アカニシ	サザエ	アワビ	バテイラ	ハマグリ	チョウセンハマグリ	シジミ	バイ	サルボウガイ	ツメタガイ	ダンベイキサゴ
Ⅰ	1	1掘り方			3	2			1			1		1	
Ⅰ	1	7a													
Ⅰ	1	7b	1												
Ⅰ	1	8													
Ⅰ	1	9													
Ⅰ	1	10	4	2	23	4	6	3	8	1	1	3	1	2	3
Ⅰ	1	11													
Ⅱ西	1	60			1					1					

地区	面	遺構	動物遺体		
			獣骨	アカニシ	ダンベイキサゴ
Ⅰ	2	12			
Ⅰ	2	14			
Ⅰ	2	15			
Ⅰ	2	16	1		
Ⅰ	2	17	1		
Ⅰ	2	18			
Ⅰ	2	19			
Ⅰ	2	21			
Ⅰ	2	22	3		
Ⅰ	2	23	1		
Ⅰ	2	24			
Ⅰ	2	25			
Ⅰ	2	26			
Ⅱ西	2	61			
Ⅱ西	2	62		1	
Ⅱ西	2	63			
Ⅱ西	2	64			
Ⅱ西	2	65			
Ⅱ西	2	66・67・68			
Ⅱ西	2	73			
Ⅱ西	2	95			
Ⅱ東	2	114	1		
Ⅱ東	2	115	1	1	1
Ⅱ東	2	116	1		
Ⅱ東	2	117			
Ⅱ東	2	120			
Ⅱ東	2	123			

地区	面	遺構	人骨	動物遺体															
				不明	魚骨	アカニシ	サザエ	アワビ	バテイラ	カキ	ハマグリ	チョウセンハマグリ	バイ	ツメタガイ	カガミガイ	ツノマタナガニシ	オオノガイ	ダンベイキサゴ
Ⅰ	3	27a覆土～床面	1	9	4	36	7	51	1	1	21	44	6	2	2		1	34
Ⅱ東	3	27a裏込め																
Ⅰ	3	27b		1		9	2	1			2					1		1
Ⅰ	3	28																
Ⅰ	3	29																
Ⅰ	3	30																
Ⅰ	3	32																
Ⅰ	3	33																
Ⅰ	3	34																
Ⅰ	3	35																
Ⅰ	3	36		1														
Ⅰ	3	37																
Ⅰ	3	39																
Ⅰ	3	41				1	1	1			1							
Ⅰ	3	48																
Ⅰ	3	49																
Ⅰ	3	54				1						1						1
Ⅰ	3	55																
Ⅱ西	3	74																
Ⅱ西	3	75																
Ⅱ西	3	76																
Ⅱ西	3	78																
Ⅱ西	3	79・81																
Ⅱ西	3	82																
Ⅱ西	3	83																
Ⅱ西	3	84				1												
Ⅱ西	3	85																
Ⅱ西	3	86・87																
Ⅱ西	3	91			1	1		1										
Ⅱ東	3	125																
Ⅱ東	3	126																

地区	面	遺構	動物遺体																				種子	
			獣骨	魚骨	アカニシ	サザエ	アワビ	バテイラ	カキ	ハマグリ	チョウセンハマグリ	シジミ	シオフキガイ	バイ	サルボウガイ	ツメタガイ	サトウガイ	カガミガイ	イタヤガイ	アサリ	ツノマタナガニシ	ダンベイキサゴ	桃核	胡桃核
Ⅱ西	3下	100			1																			
Ⅱ西	3下	107			1									1							1			
Ⅱ東	3下	127																						
Ⅱ東	3下	128																						
Ⅱ東	3下	129				1					1													
Ⅱ東	3下	130																						
Ⅱ東	3下	131																						
Ⅱ東	3下	132			1		1			1														
Ⅱ東	3下	133		1	1		1				7													
Ⅱ東	3下	134																						
Ⅱ東	3下	135下	1		1																			
Ⅱ東	3下	137			1	2				1	1											1		
Ⅱ東	3下	138			1		1															1		
Ⅱ東	3下	140			8	23	9	3		3	1		1	2		3	1	1				223		
Ⅰ	3下	57			5	9	13	1		5	5	1										4	1	1
Ⅰ	3下	57西		1	10	2	1			1	1					1						3		
Ⅰ	3下	57東																						
Ⅱ西	3下	88	11													1				1				
Ⅱ西	3下	89		1		1										1								
Ⅱ西	3下	93								2												1		
Ⅱ西	3下	90																						
Ⅱ西	3下	94								1												1		
Ⅱ西	3下b	101																						
Ⅱ西	3下b	105			3	1	2	1	2	5									1			3		
Ⅱ西	3下b	106																						
Ⅱ西	3下b	110			1																			
Ⅱ西	3下b	111																						
Ⅱ西	3下b	113																						

地区	面	動物遺体														種子
		獣骨	魚骨	アカニシ	サザエ	アワビ	カキ	ハマグリ	チョウセンハマグリ	シオフキガイ	バイ	サルボウガイ	ツメタガイ	ゴイサギ	ダンベイキサゴ	桃核
一	表採															
Ⅰ	表土															
Ⅱ西	表土															
Ⅱ東	表土			1												
Ⅰ	1		1													
Ⅰ	1下		2													
Ⅱ西	1下															
Ⅱ東	1下	3		4									1			
Ⅰ	2下	3		3		1			1							
Ⅱ西	2下	1	1					1								
Ⅱ東	2下	1		1				1				1				
Ⅰ	3	1	1	8	1	3			5							
Ⅱ西	3															
Ⅱ東	3			1				1								
Ⅰ	3下	1			2	1										
Ⅱ西	3下	1	1	10	6	5	1	16	6	1					4	126
Ⅱ東	3下		1	15	4	5	1	2	2	1	1				6	
Ⅱ東	地山砂層						2	5			2		2	1		

凡例

かわらけ							
ロクロ				手づくね			
大		小		大		小	
27	228	12	65	4	29	1	5
13	212	4	40				
2	19	3	27	17	223		
4	31						
		3	29				
206	1872	96	745	104	1210	7	56
5	38	1	4	3	36	2	21

破片点数　重量

（木製品・自然遺物は点数のみ）

表２　出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
表土～１面　出土遺物（図15）						
1	土器	ロクロかわらけ	(6.9)	(3.8)	2.2	小　1/2弱　胎土：白色針状物質　色調：橙色
2	土器	ロクロかわらけ	7.1	4.6	1.5	小　ほぼ完形　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
3	土器	ロクロかわらけ	(7.6)	(5.3)	1.9	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
4	土器	ロクロかわらけ	(7.8)	(4.7)	1.4	小　1/3　胎土：雲母　色調：白橙色
5	土器	ロクロかわらけ	7.7	5.8	1.7	小　完形、59g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
6	土器	ロクロかわらけ	(8.5)	(4.6)	2.4	小　1/3　胎土：精良　色調：橙褐色
7	土器	ロクロかわらけ	(10.6)	(6.8)	3.3	大　1/6　胎土：白色針状物質　色調：橙色
8	土器	ロクロかわらけ	(11.9)	(7.0)	3.3	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：淡橙色
9	土器	ロクロかわらけ	(12.0)	(6.0)	4.1	大　1/2弱　胎土：精良、白色針状物質 色調：橙褐色
10	土器	ロクロかわらけ	—	(7.4)	2.5	大　底2/3　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
11	土器	蓋	外径 (13.8)	凸部径 (10.6)	［1.6］	1/8以下　胎土：白色針状物質　色調：橙色
12	青白磁	梅瓶	—	(9.4)	［5.0］	底部1/6
13	陶器	常滑 片口鉢	(28.2)	—	［11.7］	Ⅱ類　口1/6　内面に自然釉　胎土：長石　色調：褐色
14	銅製品	煙管 雁首	長さ 6.9	火皿径 0.9	小口径 0.6	江戸Ⅳ期　18世紀後半　完形、重さ10g
１面　出土遺物①（図16）						
15	石製品	砥石	長さ ［7.7］	幅 2.8	厚さ 2.3	上野産中砥（凝灰岩）　一端が欠損　表面一面を使用
16	土器	鉢	—	13.0	［4.3］	胎土は橙色で雲母・白色針状物質を含む
17	磁器	肥前系 染付碗	7.0	3.2	4.9	（小坏）　体部外面に草花文
18	陶器	瀬戸 緑釉小皿	(11.0)	(4.8)	1.8	外底面に回転糸切り痕　口縁内外面に灰釉 古瀬戸後期以降か
19	陶器	瀬戸 蓋	外径 6.8	3.7	［1.2］	ツマミ欠失　天井外面に褐釉　小壺・茶入類の蓋か
20	陶器	堺・明石系 擂鉢	—	—	［3.7］	傾き不明瞭　体部内面に擂り目 胎土は明橙色で白色・赤色の礫を含む
21	瓦	平瓦 （桟瓦）	長さ ［12.0］	幅 4.7	厚さ 1.7	いぶし瓦　表面は黒灰色でにぶい光沢あり 近代以降か
22	石製品	火打石	長さ 4.4	幅 3.5	厚さ 1.7	重さ21g　石英質の割り石で、白色・半透明 殆どの稜角に摩擦痕あり
23	石製品	砥石	長さ 13.5	幅 3.3	厚さ 3.5	上野産中砥（凝灰岩）　ほぼ完形　表面一面を使用 櫛歯状タガネ痕あり
24	鉄製品	釘	長さ 10.5	幅 0.3	厚さ 0.3	
25	銅製品	不明	長さ 5.0	幅 1.2	厚さ 0.8	両端付近の側面に貫通孔２ヶ所　用途不明
26	木製品	刀子柄	長さ 12.9	幅 2.5	厚さ 1.6	ほぼ完形　板目材　組み合わせ式 茎装着部に鉄錆付着
27	木製品	不明	長さ 11.0	幅 5.8	厚さ 3.0	ほぼ完形？　板目材による組み物 溝状凹部への差し込みと鉄釘で固定
28	磁器	肥前系 染付碗	10.0	4.4	6.0	体部外面に草花文　高台内に「大明年製」
29	磁器	肥前系 染付碗	10.2	4.4	5.5	体部外面に草花文　高台内に「大明年製」
30	磁器	肥前系 染付碗	(11.0)	—	［6.6］	体部外面に草花文　高台内に「大明年製」
31	陶器	瀬戸 大皿	—	(13.0)	［2.4］	内底面に櫛歯による圏線　内底面～体部外面灰釉
32	石製品	碁石 （黒）	直径 2.2	—	厚さ	
１面　出土遺物②（図17）						
33	陶器	常滑 甕	—	20.1	［15.1］	胴下部～底部　外底面に砂付着、外周ナデ　胴部外面煤付着　胎土：長石　色調：暗赤灰色

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
34	土器	手づくね かわらけ	(8.0)	—	1.6	小　1/2　胎土：白色針状物質　色調：橙色
35	陶器	常滑？ 壺	9.8	10.9	20.2	ほぼ完形　外面胴下端はヨコヘラケズリ、外面の胴下部に焼成前のヘラ描き（窯印か） 口縁端部に擦痕胎土：長石（表出目立つ）　色調：淡赤橙色
36	土器	ロクロ かわらけ	7.5	5.0	2.0	小　完形、51g　胎土：白色針状物質色調：黄橙色
37	土器	ロクロ かわらけ	8.0	5.4	2.0	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
38	土器	ロクロ かわらけ	12.7	8.4	3.5	大　1/2　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
39	陶器	尾張型 山茶碗	—	(7.0)	[2.4]	底部1/4　胎土：長石　色調：灰白色
40	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片　外面に「×」＋縦格子文のスタンプ
41	陶器	渥美 甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目叩きとハケメ
42	石製品	滑石鍋	(24.0)	—	[5.7]	口1/8
1面下　出土遺物（図18）						
43	土器	手づくね かわらけ	8.2	(6.9)	1.5	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
44	土器	手づくね かわらけ	(8.7)	(7.2)	1.4	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
45	土器	手づくね かわらけ	9.2	—	2.5	小　2/3　胎土：精良　色調：橙褐色
46	土器	ロクロ かわらけ	5.8	4.0	1.1	極小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄色
47	土器	ロクロ かわらけ	4.8	3.6	1.0	極小　完形、18g　胎土：白色針状物質 色調：橙色　外底面に板状圧痕
48	土器	ロクロ かわらけ	7.8	5.0	2.1	小　完形、69g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
49	土器	ロクロ かわらけ	7.8	5.7	1.9	小　完形、62g　胎土：白色針状物質 色調：橙色
50	土器	ロクロ かわらけ	7.9	6.0	1.8	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色 外底面に簾状の圧痕
51	土器	ロクロ かわらけ	8.1	5.7	2.5	小　完形、72g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
52	土器	ロクロ かわらけ	8.4	6.7	1.9	小　完形、77g　胎土：白色針状物質 色調：橙色
53	土器	ロクロ かわらけ	8.3	5.2	2.4	小　2/3　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
54	土器	ロクロ かわらけ	(9.0)	(6.7)	1.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色 口縁部内外面に煤付着
55	土器	ロクロ かわらけ	(12.1)	7.8	3.2	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
56	土器	ロクロ かわらけ	12.2	8.6	3.2	大　完形、191g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
57	土器	ロクロ かわらけ	(12.0)	8.7	3.2	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
58	土器	ロクロ かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.5	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
59	磁器	肥前系 染付碗	(10.4)	—	[4.7]	体部外面に草花文
60	陶器	染付碗	—	(10.1)	[2.5]	淡い黄緑色釉（外面体部下端～高台内無釉） 体部外面に絵付け　胎土：緻密・軟質
61	陶器	碗	—	(5.2)	[4.7]	淡い灰桃色釉（高台外面～高台内無釉） 台内中央に印判「山仟原」？　胎土：緻密・軟質
62	陶器	瀬戸・美濃 皿	12.6	6.8	2.7	内面～体部外面に灰釉　内底面にトチン痕 高台内に回転ヘラ切り痕
63	陶器	瀬戸・美濃 擂鉢	—	(9.0)	[5.1]	体～底1/6　内外面に鉄釉　外底面回転糸切り痕 内面体部に12条、底部に9条一単位の擂り目
64	陶器	渥美 甕	—	—	—	胴・底小片　胴部外面に平行文のタタキメ
65	石製品	滑石鍋	(16.0)	—	[3.3]	口1/8　外面に煤付着
66	石製品	砥石	長さ [4.3]	幅 3.3	厚さ 0.5	鳴滝産仕上げ砥（頁岩）　表一面を使用
67	銅製品	煙管 吸口	長さ 4.1	径 0.7	—	完形、重さ4g

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
１面下・２面遺構　出土遺物（図19）						
68	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	「皇宋通寶」真書　北宋代、1038年初鋳
69	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	「皇宋通寶」 北宋代、1039年初鋳
70	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	「熙寧元寶」 北宋代、1068年初鋳
71	土器	ロクロ かわらけ	(9.3)	(7.8)	1.6	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
72	土器	ロクロ かわらけ	7.5	5.5	1.7	小　ほぼ完形　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
73	陶器	常滑 甕	—	—	[9.1]	近世Ｄ類　18世紀中葉～後葉 口小片　胎土：長石　色調：橙色
74	土器	ロクロ かわらけ	(8.8)	(6.0)	2.0	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
75	土器	ロクロ かわらけ	(11.8)	(7.3)	3.0	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
76	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[3.5]	山茶碗系（Ⅰ類）　口小片　胎土：長石　色調：灰褐色
77	陶器	尾張 片口鉢	—	(14.3)	[5.5]	山茶碗系（Ⅰ類）　底1/4　胎土：長石　色調：灰色
78	石製品	砥石	長さ [5.6]	幅 3.9	厚さ 0.8	産地不明仕上げ砥（頁岩） 表裏二面を使用、両側面に鋸挽き痕
79	青磁	龍泉窯系 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.0]	口小片
80	土器	手づくね かわらけ	(9.2)	(8.3)	1.8	小　1/4　色調：橙褐色
81	土器	ロクロ かわらけ	(9.6)	(7.1)	1.9	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
82	土器	ロクロ かわらけ	(11.4)	(6.5)	3.5	大　1/5　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
83	銅製品	銭	2.2	0.6	0.1	「寛永通宝」 江戸時代、1636年初鋳
84	土器	ロクロ かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.8	小　1/3　胎土：雲母　色調：橙褐色
85	土器	ロクロ かわらけ	(12.7)	(7.8)	3.2	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
86	土器	ロクロ かわらけ	(8.8)	(6.5)	1.7	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
87	陶器	尾張 片口鉢	—	(13.8)	[3.1]	山茶碗系（Ⅰ類）　底1/4　胎土：長石　色調：灰褐色
88	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴部　胴小片　外面に花弁文のスタンプ
89	土器	手づくね かわらけ	(13.0)	—	3.6	大　2/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
90	石製品	硯	長さ [7.6]	幅 6.5	高さ 1.1	鳴滝産（頁岩）、作硯は高島か 前方部欠損、裏面に針状具による線刻あり
２面下　出土遺物（図20）						
91	土器	手づくね かわらけ	8.4	6.6	2.2	小　4/5　胎土：白色針状物質、雲母　色調：橙褐色
92	土器	手づくね かわらけ	8.2	—	1.8	小　4/5　胎土：白色針状物質、雲母　色調：橙褐色
93	土器	手づくね かわらけ	9.2	7.7	1.8	小　完形、84g　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
94	土器	手づくね かわらけ	9.4	7.3	1.9	小　完形、96g　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
95	土器	手づくね かわらけ	(9.8)	(8.7)	1.9	小　1/2弱　胎土：白色針状物質　色調：淡褐色
96	土器	手づくね かわらけ	(9.7)	(8.7)	1.7	小　1/2弱　胎土：白色針状物質、雲母 色調：橙褐色
97	土器	手づくね かわらけ	(12.0)	—	3.2	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
98	土器	手づくね かわらけ	13.2	—	3.3	大　ほぼ完形、185g　胎土：白色針状物質 色調：淡黄褐色
99	土器	ロクロ かわらけ	(8.1)	(5.0)	1.5	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
100	土器	ロクロ かわらけ	7.8	5.1	1.8	小　完形、60g　色調：橙褐色
101	土器	ロクロ かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：淡褐色

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
102	土器	ロクロかわらけ	(8.0)	(5.8)	1.7	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
103	土器	ロクロかわらけ	(7.8)	(4.8)	1.8	小　1/2弱　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
104	土器	ロクロかわらけ	(7.6)	(5.3)	1.7	小　1/2弱　色調：にぶい淡褐色
105	土器	ロクロかわらけ	(8.8)	(6.1)	1.9	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
106	土器	ロクロかわらけ	(6.7)	(3.0)	2.4	小　1/2弱　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
107	土器	ロクロかわらけ	(12.4)	8.1	3.2	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
108	土器	ロクロかわらけ	—	5.0	[2.7]	柱状高台のみ　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
109	青磁	龍泉窯系蓮弁文碗	—	—	[4.6]	Ⅱb類　口小片
110	陶器	緑釉陶器盤	—	—	[2.3]	口小片　胎土：白色・黒色粒多い
111	陶器	尾張片口鉢	—	(12.6)	[5.0]	山茶碗系（Ⅰ類）　底1/4　胎土：長石　色調：灰色
112	陶器	常滑甕	—	—	—	胴部小片　外面格子目タタキ
113	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に御簾格子＋花弁文のスタンプ、 ヘラ描きによる窯印
114	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に御簾格子のスタンプ
115	陶器	渥美甕	—	—	—	胴小片　外面に格子目のスタンプ
116	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.0]	獣脚部のみ　貫通孔あり
117	鉄製品	釘	長さ [10.2]	幅 0.8	厚さ 0.9	下端わずかに欠損
3面　出土遺物①（図21）						
118	土器	手づくねかわらけ	8.3	6.5	1.8	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
119	土器	ロクロかわらけ	(9.8)	(7.8)	1.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色 内底面のナデ調整なし、外底面静止糸切り痕
120	陶器	尾張片口鉢	—	—	[5.4]	山茶碗系（Ⅰ類）　底部片（無高台）　胎土：長石　色調：灰色
121	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　肩部外面に断面三角形の凸帯を貼付 外面に自然釉
122	渥美	渥美こね鉢	—	(13.5)	[3.8]	底1/6　胎土：長石　色調：灰褐色
123	土器	手づくねかわらけ	(7.8)	—	1.5	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
124	土器	手づくねかわらけ	(8.2)	(6.5)	1.6	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
125	土器	手づくねかわらけ	(8.7)	(6.8)	1.6	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
126	土器	手づくねかわらけ	8.8	6.8	1.3	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
127	土器	手づくねかわらけ	8.9	7.8	1.9	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
128	土器	手づくねかわらけ	8.4	—	1.6	小　完形、77g　胎土：白色針状物質 色調：橙色
129	土器	手づくねかわらけ	(11.8)	(8.4)	3.0	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
130	土器	手づくねかわらけ	(12.7)	—	3.1	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
131	土器	手づくねかわらけ	13.4	—	2.9	大　2/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
132	土器	手づくねかわらけ	13.0	—	3.2	大　1/2　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
133	土器	ロクロかわらけ	(7.8)	(6.0)	1.6	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
134	土器	ロクロかわらけ	(8.2)	(6.4)	1.7	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
135	土器	ロクロかわらけ	(9.0)	(7.0)	1.7	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
136	土器	ロクロ かわらけ	(8.8)	(6.7)	1.7	小　1/5　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
137	土器	ロクロ かわらけ	(8.8)	(6.2)	2.1	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
138	土器	ロクロ かわらけ	8.6	6.0	1.7	小　1/2　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
139	土器	ロクロ かわらけ	(11.8)	(7.2)	3.1	大　1/6　胎土：白色針状物質　色調：橙色
140	土器	ロクロ かわらけ	(12.0)	8.6	3.3	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
141	土器	ロクロ かわらけ	(12.7)	(7.8)	3.3	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
142	土器	ロクロ かわらけ	(13.0)	7.0	3.3	大　1/5　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
143	土器	ロクロ かわらけ	—	6.1	[1.9]	大　底1/2　二次利用（割れ口が研磨により平滑）
144	土器	ロクロ かわらけ	—	4.5	[1.1]	大　底部ほぼ完存　胎土：白色針状物質 色調：橙色　内底面のナデ調整なし
3面　出土遺物②（図22）						
145	青白磁	合子蓋	(8.6)	—	[2.1]	1/3　内面無釉　天井部外面に浮き彫りの草花文 割れ口に黒色の付着物
146	白磁	口兀皿	—	—	[0.9]	口・底小片　内面に櫛描き状の文様あり
147	陶器	瀬戸? 瓶?	—	(18.0)	—	頸・胴・底小片 頸～肩外面灰釉（ハケ塗り？＋自然釉）、内面自然釉 胴下端、高台内外周は回転ヘラケズリ
148	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[7.0]	山茶碗系（Ⅰ類）　口～体部小片　胎土：長石　色調：灰白色
149	陶器	尾張 片口鉢	(23.0)	(12.4)	7.5	山茶碗系（Ⅰ類・無高台）　1/8　内面使用により平滑 胎土：粗砂、長石　色調：灰褐色
150	陶器	常滑 片口鉢	(28.6)	(14.9)	8.7	Ⅱ類　1/8　内面使用により平滑、一部黒変 胎土：緻密、長石　色調：褐色
151	陶器	常滑 甕	—	—	[3.7]	5型式　口小片　胎土：粗砂、長石　色調：淡黄褐色 口縁内面～端部に自然釉
152	陶器	常滑 甕	—	(12.6)	[4.1]	胴下端～底部1/3　胴外面タテハケ　外底面砂付着、条痕多数 胎土：精良　色調：灰色
153	陶器	常滑甕	—	(20.0)	[7.6]	底1/4　胎土：長石　色調：橙色
154	須恵器	坏	—	(6.0)	[2.2]	底部1/4　外底面に回転糸切り痕　胎土：精良 色調：灰褐色
155	石製品	滑石鍋 転用品	長さ 8.6	幅 [7.3]	厚さ 1.3	胴部片の再加工品　外面側や薄く焦げている
156	石製品	研磨具	長さ 11.0	幅 6.0	厚さ 6.5	軽石製　二面に擦痕と条線痕
157	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	「天聖元寶」　北宋代、1023年初鋳
158	銅製品	銭	直径 2.2	孔径 0.7	厚さ 0.1	「元豊通寶」　北宋代、1078年初鋳
159	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	「大観通寶」　北宋代、1107年初鋳
160	鉄製品	釘	長さ [5.6]	幅 0.3	厚さ 0.3	上端欠損　重さ1g
161	鉄製品	釘	長さ [5.0]	幅 0.4	厚さ 0.4	上・下端とも欠損
162	木製品	円盤 用途不明	直径 6.0	—	厚さ 0.4	板目材　表面に細かな条痕あり
163	貝製品	不明	長径 4.5	短径 3.9	高さ 0.9	用途不明
3面　出土遺物③（図23）						
164	土器	手づくね かわらけ	(12.8)	—	3.0	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
165	土器	手づくね かわらけ	長さ 9.2	幅 8.6	厚さ 1.2	大（転用品）　焼成後に底部穿孔 胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
166	土器	ロクロ かわらけ	8.0	6.2	1.6	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
167	土器	ロクロ かわらけ	9.0	7.2	1.8	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
168	土器	不明	—	—	[6.0]	口小片　胎土：雲母　色調：淡桃褐色
169	陶器	常滑 壺	—	[7.5]	[4.5]	底1/3　胴部外面にヨコヘラケズリ　胎土：緻密 色調：褐灰色

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
170	陶器	常滑 甕	—	—	［10.1］	5型式　口小片　胎土：長石　色調：褐色 口縁内面～胴部外面に自然釉
171	陶器	常滑 甕	—	—	—	5型式　傾き不明確　胎土：長石　色調：褐色 肩部外面に斜格子文のスタンプとナデによる凹線
172	土器	手づくね かわらけ	8.6	6.8	1.8	小　完形、72g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙
173	土器	ロクロ かわらけ	(12.8)	(9.0)	［3.3］	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
174	木製品	横櫛	横幅 ［8.7］	高さ 3.8	厚さ 0.9	3/4ほど遺存か　板目材　表面は黒色（漆ではない）
175	土器	手づくね かわらけ	8.4	7.2	1.8	小　完形、71g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
176	土器	手づくね かわらけ	(8.7)	6.6	1.9	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
177	土器	手づくね かわらけ	(8.3)	7.1	1.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
178	土器	手づくね かわらけ	12.6	—	3.4	大　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
179	土器	ロクロ かわらけ	7.9	6.2	1.5	小　完形、53g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
180	土器	ロクロ かわらけ	8.3	6.8	1.6	小　完形、67g　色調：黄橙色
181	土器	ロクロ かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.6	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
182	土器	ロクロ かわらけ	(9.2)	(6.6)	1.6	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
183	木製品	栓	直径 3.2	—	高さ 5.3	完形　外面に黒色の付着物（漆か）
184	陶器	尾張 片口鉢	(29.8)	—	［6.8］	山茶碗系（Ⅰ類）　胎土：長石　色調：灰色
185	青白磁	瓜形水注	—	(6.2)	［6.0］	胴・底1/4(図上合成)　環状把手一部遺存 内面および胴下端～底部外面は無釉
186	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 1.0	「寛永通寶」（文銭）　江戸時代、1668年初鋳
187	陶器	渥美甕 転用	長さ 7.3	幅 5.7	厚さ 1.3	割れ四辺と外面側の一面が使用により摩滅・滑らか
188	土器	手づくね かわらけ	(8.0)	(6.8)	1.5	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
189	土器	ロクロ かわらけ	(12.0)	(8.4)	3.5	大　1/5　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
190	土器	手づくね かわらけ	(8.6)	(6.5)	1.9	小　1/6　胎土：白色針状物質　色調：淡褐色
191	青磁	龍泉窯系 劃花文碗	—	(6.0)	［2.3］	底部1/4　高台内～接地面無釉 内底面にヘラ描きの劃花文
192	土器	ロクロ かわらけ	(6.9)	(5.0)	1.4	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
193	陶器	瀬戸 皿	—	—	［2.0］	稜皿か　小片　内面～体部外面に褐釉
194	陶器	常滑 片口鉢	—	—	［6.4］	Ⅱ類　胎土：長石　色調：橙色
3面　出土遺物④（図24）						
195	土器	ロクロ かわらけ	7.8	4.7	1.9	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
196	土器	ロクロ かわらけ	(10.8)	7.0	3.2	中　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
197	土器	ロクロ かわらけ	(11.6)	(7.8)	3.0	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
198	土器	壺	(10.1)	—	［4.7］	1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
199	青磁	龍泉窯系 折縁皿	—	—	［4.0］	口小片
200	青磁	龍泉窯系 碗	—	6.6	［2.1］	底のみ　高台接地面にも釉付着
201	陶器	常滑 甕	—	—	［5.6］	6a型式　口小片
202	石製品	滑石鍋	—	—	［3.2］	底・体部小片　外面に煤付着
203	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	「熙寧元寶」　唐代、621年初鋳
204	鉄製品	釘	長さ ［6.3］	幅 0.6	厚さ 0.5	下端欠損

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
205	鉄製品	釘	長さ ［5.0］	幅 0.4	厚さ 0.6	下端欠損
３面下　出土遺物①（図25）						
206	陶器	瀬戸 四耳壺	—	—	［6.0］	前期Ｉａ期　口頸小片　口頸内外面にハケ塗り施釉
207	土器	手づくね かわらけ	(9.7)	(8.6)	2.0	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
208	土器	ロクロ かわらけ	(8.7)	(6.7)	1.8	小　1/6　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
209	青白磁	小壺	—	—	［2.2］	口～胴小片　口縁端の内面無釉、煤付着
210	青磁	龍泉窯系 劃花文碗	(15.6)	—	［3.8］	Ｉ－２類　口1/5　内面にヘラ描きの劃花文
211	土器	手づくね かわらけ	(12.2)	—	3.4	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
212	土器	手づくね かわらけ	(12.3)	—	3.1	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
213	土器	ロクロ かわらけ	(15.0)	9.8	3.5	大　2/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
214	青白磁	合子蓋	(6.0)	—	［2.3］	1/4　天井部外面に浮き彫りの文様（唐草文？）
215	青磁	瓶子	(9.8)	—	［4.3］	口頸部1/3
216	青磁	龍泉窯系 劃花文碗	—	—	［3.8］	内面にヘラ描き劃花文
217	陶器	常滑 甕	—	(18.5)	［10.0］	胴小片・底1/6　胴部外面に菊花様花弁文のスタンプ 外底面に砂付着　胎土：長石　色調：橙褐色
３面下　出土遺物②（図26）						
218	陶器	尾張 片口鉢	—	—	［3.3］	山茶碗系（Ｉ類）　口小片　胎土：長石　色調：灰色
219	土器	手づくね かわらけ	(9.3)	(7.8)	1.3	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
220	土器	ロクロ かわらけ	(9.7)	(7.7)	1.6	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
221	土器	ロクロ かわらけ	(9.3)	(6.8)	2.1	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：淡褐色 内外面に薄く煤付着
222	白磁	碗	—	(4.8)	［2.4］	底1/5　高台接地面～高台内無釉
223	木製品	箸	長さ 22.0	幅 0.6	厚さ 0.4	完形
224	木製品	箸	長さ 22.0	幅 0.6	厚さ 0.4	完形
225	土器	手づくね かわらけ	(8.8)	(7.5)	1.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
226	土器	手づくね かわらけ	(9.3)	(7.4)	1.8	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
227	土器	手づくね かわらけ	13.7	—	3.2	大　3/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
228	陶器	渥美 甕	—	—	［5.6］	口小片　口縁部内面に自然釉
229	陶器	渥美 甕	—	—	［3.0］	口小片　口縁部内外面に自然釉
230	瓦	平瓦	長さ ［16.0］	幅 ［10.0］	厚さ 2.1	永福寺女瓦Ａ類　狭端部と一側縁遺存 凹面ナデ、凸面縦位の縄目タタキ
231	木製品	鳥形？	長さ 20.6	幅 2.9	厚さ 0.8	完形？　板目材
232	木製品	箸	長さ 22.4	幅 0.7	厚さ 0.7	完形
233	木製品	箸	長さ ［21.9］	幅 0.6	厚さ 0.6	上下端とも欠損
234	木製品	箸	長さ ［21.9］	幅 0.7	厚さ 0.5	上下端とも欠損
235	木製品	箸	長さ 21.2	幅 0.7	厚さ 0.6	完形
236	木製品	箸	長さ 21.2	幅 0.5	厚さ 0.6	完形
237	木製品	箸	長さ ［21.0］	幅 0.6	厚さ 0.5	一端欠損
238	木製品	箸	長さ ［21.4］	幅 ［0.5］	厚さ 0.6	一端、一側面欠損

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
239	木製品	箸	長さ 21.0	幅 0.7	厚さ 0.6	完形
240	木製品	箸	長さ 20.2	幅 0.7	厚さ 0.5	完形
241	木製品	箸	長さ ［20.3］	幅 0.5	厚さ 0.6	一端欠損
242	木製品	箸	長さ 19.8	幅 0.7	厚さ 0.5	完形
243	木製品	箸	長さ 19.7	幅 0.7	厚さ 0.6	完形
244	木製品	箸	長さ 20.6	幅 0.6	厚さ 0.5	完形
245	木製品	箸	長さ 18.7	幅 0.6	厚さ 0.6	完形
246	土器	手づくね かわらけ	(12.5)	—	3.1	大　1/4弱　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
３面下　出土遺物③（図27）						
247	土器	手づくね かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.6	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：灰橙色
248	土器	手づくね かわらけ	9.8	—	2.4	小　完形、109g　胎土：白色針状物質、雲母 色調：橙褐色
249	土器	ロクロ かわらけ	8.5	7.0	2.3	小　完形、87g　胎土：白色針状物質 色調：橙色　歪み大きい（片口を成形か？）
250	木製品	漆器 皿	(9.5)	(6.6)	1.7	1/4　板目材　内面ロクロ挽き痕目立つ 内外面とも黒色漆塗り、無文
251	木製品	連歯下駄	長さ 21.3	幅 10.0	高さ 3.0	完形　板目材　左前方部にわずかな窪み
252	土器	手づくね かわらけ	8.6	7.7	1.8	小　完形、65g　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
253	土器	ロクロ かわらけ	9.7	7.3	2.0	小　完形、45g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
254	土器	ロクロ かわらけ	(9.0)	(7.2)	1.5	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
255	土器	ロクロ かわらけ	(8.9)	(6.8)	1.6	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：赤橙色
256	土器	ロクロ かわらけ	—	4.8	［1.2］	小　底部完存　胎土：白色針状物質 色調：橙色　外底面ナデ？
257	土器	ロクロ かわらけ	—	4.7	［1.4］	大？　底3/4　胎土：白色針状物質 色調：橙色　外底面ナデ？
258	白磁	端反碗	—	—	［5.0］	体部内面に沈線
259	青磁	龍泉窯系 碗	—	6.0	［1.9］	底部のみ　高台内～接地面無釉
260	陶器	常滑 甕	—	—	［6.2］	5型式　口小片　胎土：長石　色調：灰褐色
261	土器	ロクロ かわらけ	(9.4)	(8.4)	1.8	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
262	陶器	東遠？ 無台碗	—	5.0	［1.0］	底完存　胎土：精良、混入物なし　色調：灰黒色 外底面に静止糸切り痕
263	土器	手づくね かわらけ	(7.8)	—	1.3	内折れ　1/3　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
264	鉄製品	釘	長さ 5.2	幅 0.2	厚さ 0.2	上下端とも欠損
265	土器	手づくね かわらけ	(8.9)	—	1.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
266	青磁	龍泉窯系 劃花文碗	—	(6.4)	［2.0］	底部1/3　内底面にヘラ描きの劃花文
267	青磁	龍泉窯系 蓮弁文碗	—	—	—	口小片、傾き不明確
268	陶器	常滑 甕	—	—	［5.1］	3型式　口小片　胎土：長石　色調：灰色 口縁部内面～外面に自然釉
269	土器	ロクロ かわらけ	(9.6)	(7.7)	1.5	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
270	土器	手づくね かわらけ	(8.6)	—	1.6	小　1/5　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
271	土器	手づくね かわらけ	(13.3)	—	3.2	大　2/3　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
272	土器	ロクロ かわらけ	(8.0)	(5.4)	1.6	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
273	土器	ロクロ かわらけ	(12.0)	(7.8)	3.3	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
274	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[3.1]	山茶碗系（Ⅰ類）　口小片　胎土：長石　色調：淡橙褐色
275	陶器	常滑 甕	—	—	[7.7]	5型式　口～胴小片　胴内面黒変
276	鉄製品	円盤 用途不明	直径 4.7	—	厚さ 0.3	重さ 15g
3面下　出土遺物④（図28）						
277	土器	手づくね かわらけ	6.7	—	2.1	小　ほぼ完形、[41]g　胎土：白色針状物質 色調：にぶい灰褐色
278	土器	手づくね かわらけ	8.9	6.9	1.7	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
279	土器	手づくね かわらけ	9.0	7.1	2.0	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
280	土器	手づくね かわらけ	9.1	7.1	1.8	小　完形、73.1g　2/3　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
281	土器	手づくね かわらけ	9.3	—	1.7	小　ほぼ完形、[71]g　胎土：緻密、夾雑物少ない 色調：淡黄褐色
282	土器	手づくね かわらけ	9.0	7.4	2.0	小　完形、80g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
283	土器	手づくね かわらけ	8.8	6.9	1.9	小 ほぼ完形、68.7g　3/4　胎土：白色針状物質 色調：橙色
284	土器	手づくね かわらけ	8.3	—	1.8	小　完形、65g　胎土：色調：暗褐灰色
285	土器	手づくね かわらけ	8.8	—	1.9	小　1/2　胎土：緻密　色調：淡黄褐色
286	土器	手づくね かわらけ	(9.4)	(8.0)	1.4	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
287	土器	手づくね かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.4	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
288	土器	手づくね かわらけ	(9.4)	—	1.7	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
289	土器	手づくね かわらけ	8.4	—	2.0	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
290	土器	手づくね かわらけ	8.6	—	2.2	小　完形、87g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
291	土器	手づくね かわらけ	(9.4)	(8.3)	2.0	小　1/2　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
292	土器	手づくね かわらけ	(9.2)	—	2.2	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙色
293	土器	手づくね かわらけ	(12.0)	—	2.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
294	土器	手づくね かわらけ	(12.8)	—	2.8	大　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
295	土器	手づくね かわらけ	13.0	—	3.3	大　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
296	土器	手づくね かわらけ	(13.7)	—	3.6	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：淡黄褐色
297	土器	ロクロ かわらけ	(9.2)	(7.8)	2.0	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
298	土器	ロクロ かわらけ	9.0	7.4	1.7	小　完形、87.1g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
299	土器	ロクロ かわらけ	9.0	6.2	1.6	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
300	土器	ロクロ かわらけ	9.1	7.0	1.5	小　ほぼ完形、70.5g　胎土：白色針状物質 色調：橙色
301	土器	ロクロ かわらけ	9.7	8.2	1.8	小　3/4　胎土：白色針状物質　色調：橙色
302	土器	ロクロ かわらけ	(8.8)	6.0	1.6	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
303	土器	ロクロ かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.5	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
304	土器	ロクロ かわらけ	8.8	7.0	2.0	小　ほぼ完形、71.4g　胎土：白色針状物質 色調：黄橙色
305	土器	ロクロ かわらけ	8.7	6.4	1.8	小　1/3　胎土：白色針状物質　色調：橙褐色
306	土器	ロクロ かわらけ	(9.0)	(7.8)	1.8	小　1/4　胎土：白色針状物質、雲母　色調：橙褐色

番号	種別	器種	法量（cm）			その他の特徴
			口径	底径	器高	
307	土器	ロクロかわらけ	9.0	6.0	1.9	小　2/3　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
308	土器	ロクロかわらけ	(7.9)	(6.0)	1.8	小　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
309	土器	ロクロかわらけ	(9.4)	(7.4)	1.6	小　1/2弱　胎土：白色針状物質　色調：橙色
310	土器	ロクロかわらけ	(9.0)	(7.0)	1.8	小　1/2　胎土：白色針状物質　色調：灰橙色
311	土器	ロクロかわらけ	9.0	6.0	1.7	小　1/2　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
312	土器	ロクロかわらけ	9.0	7.0	2.0	小　1/2　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
313	土器	ロクロかわらけ	(12.5)	(8.8)	3.1	大　1/4　胎土：白色針状物質　色調：黄橙色
314	青磁	龍泉窯系劃花文碗	—	5.6	[2.0]	Ⅰ－2類　底1/2　高台接地面～高台内無釉 内底面ヘラ描きの劃花文
315	青磁	龍泉窯系劃花文碗	—	—	[4.7]	内面にヘラ描きの劃花文
316	青磁	龍泉窯系劃花文碗	—	—	[4.0]	内面にヘラ描きの劃花文
317	青磁	龍泉窯系劃花文碗	—	6.2	[1.8]	底完存　内底面にヘラ描きの劃花文
318	青磁	龍泉窯系劃花文碗	(15.4)	—	[3.3]	Ⅰ－2類　口1/5　内面にヘラ描きの劃花文
319	陶器	瀬戸・美濃擂鉢	(11.4)	(8.4)	3.3	Ⅰ類　大窯第2段階後半か　口1/6 内外面に鉄釉　内面に11～12条一単位の擂り目
3面下　出土遺物⑤（図29）						
320	陶器	常滑片口鉢	—	—	[7.7]	Ⅱ類　口小片　胎土：長石　色調：褐色
321	陶器	尾張片口鉢	—	—	[6.8]	山茶碗系（Ⅰ類）　口小片　胎土：長石　色調：灰褐色
322	陶器	尾張片口鉢	—	—	[7.5]	山茶碗系（Ⅰ類）　口小片　胎土：長石　色調：灰色
323	陶器	尾張片口鉢	—	14.4	[6.0]	山茶碗系（Ⅰ類）　底部1/2　外面の体部下端ヨコヘラケズリ 胎土：長石　色調：灰色
324	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　肩部外面に断面三角形の凸帯を貼付 外面に自然釉
325	陶器	常滑甕	—	—	[7.3]	5型式　口小片　胎土：長石　色調：褐色
326	陶器	常滑甕	—	—	—	胴小片　外面に重方格文のスタンプ
327	陶器	渥美こね鉢	—	—	[3.3]	口小片　胎土：精良　色調：灰褐色
328	陶器	渥美こね鉢	—	—	[4.2]	口小片　内面使用により摩滅・平滑
329	須恵器	坏	—	(7.8)	[1.1]	南比企窯産　底1/4　内面の体・底部境に圏線 外底面回転糸切り離し→外周回転ヘラケズリ 胎土：白色針状物質　色調：灰黒色
330	鉄製品	釘	長さ 8.0	幅 0.4	厚さ 0.3	下端欠損
331	木製品	連歯下駄	長さ [21.0]	幅 10.3	高さ 2.0	前端部と右後方部側辺が欠損　追柾目材
332	木製品	草履芯	[17.9]	10.7	0.3	前方部1/2ほど　板目材　一部に編み藁付着
333	骨製品	笄	[11.4]	1.6	0.4	先端部欠損
334	貝製品	漆パレット	長軸 8.5	短軸 7.0	—	内面に黒色の付着物（漆？ニカワ？）

１．Ⅰ区１面　全景（北から）

２．Ⅰ区１面　遺構7a（東から）

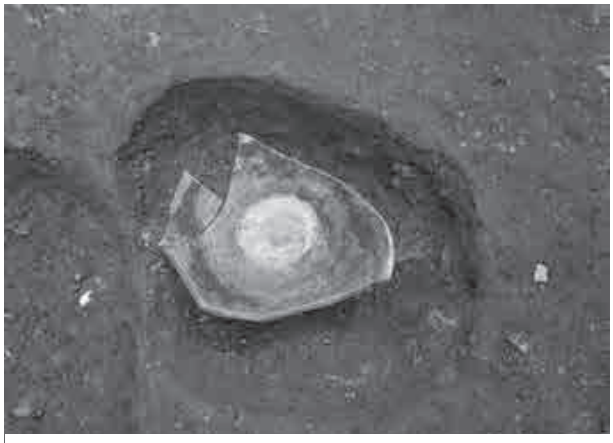
３．同上　土層断面（東から）

４．Ⅰ区１面　遺構7b（東から）

５．Ⅰ区１面　遺構7b（東から）

６．同上　断面（東から）

７．Ⅰ区１面　遺構１（北から）



８．Ⅰ区１面　遺構９（北から）

図版２

１．Ⅰ区１面　遺構7a断面・遺構11（東から）

２．Ⅰ区１面　遺構11（南から）

３．Ⅰ区２面　全景（北から）

４．Ⅰ区３面　遺構27a　遺物出土状況（西から）

５．同上　アワビ殻集積出土状況（南から）

６．Ⅰ区１面　遺構27a板壁材検出状況（西から）

１．Ⅰ区３面　遺構27a（北から）

２．Ⅰ区３面下　遺構57（北から）

３．同上　土層断面（南東から）

４．同上　遺物出土状況（南から）

５．Ⅱ東区３面下　遺構27周辺　遺物出土状況（東から）

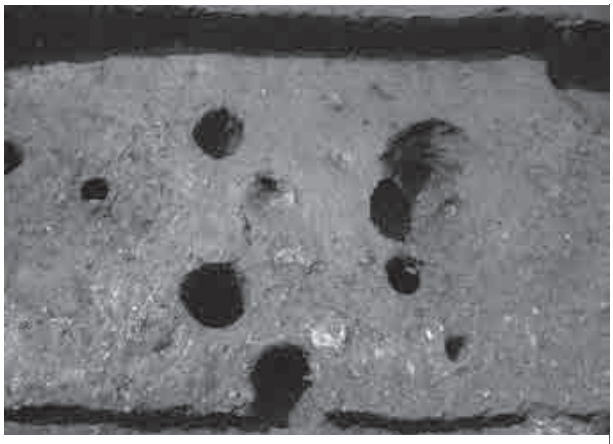
６．Ⅱ西区２面　全景（北から）

７．Ⅱ西区３面　全景（北から）

図版４

１．Ⅱ西区３面下　全景（北から）

２．Ⅱ西区３面下②　全景（北から）



３．Ⅱ東区１面　全景（東から）

４．Ⅱ東区３面　全景（北から）

５．Ⅱ東区３面　遺構27a　遺物出土状況

６．Ⅱ東区３面下　全景（北から）

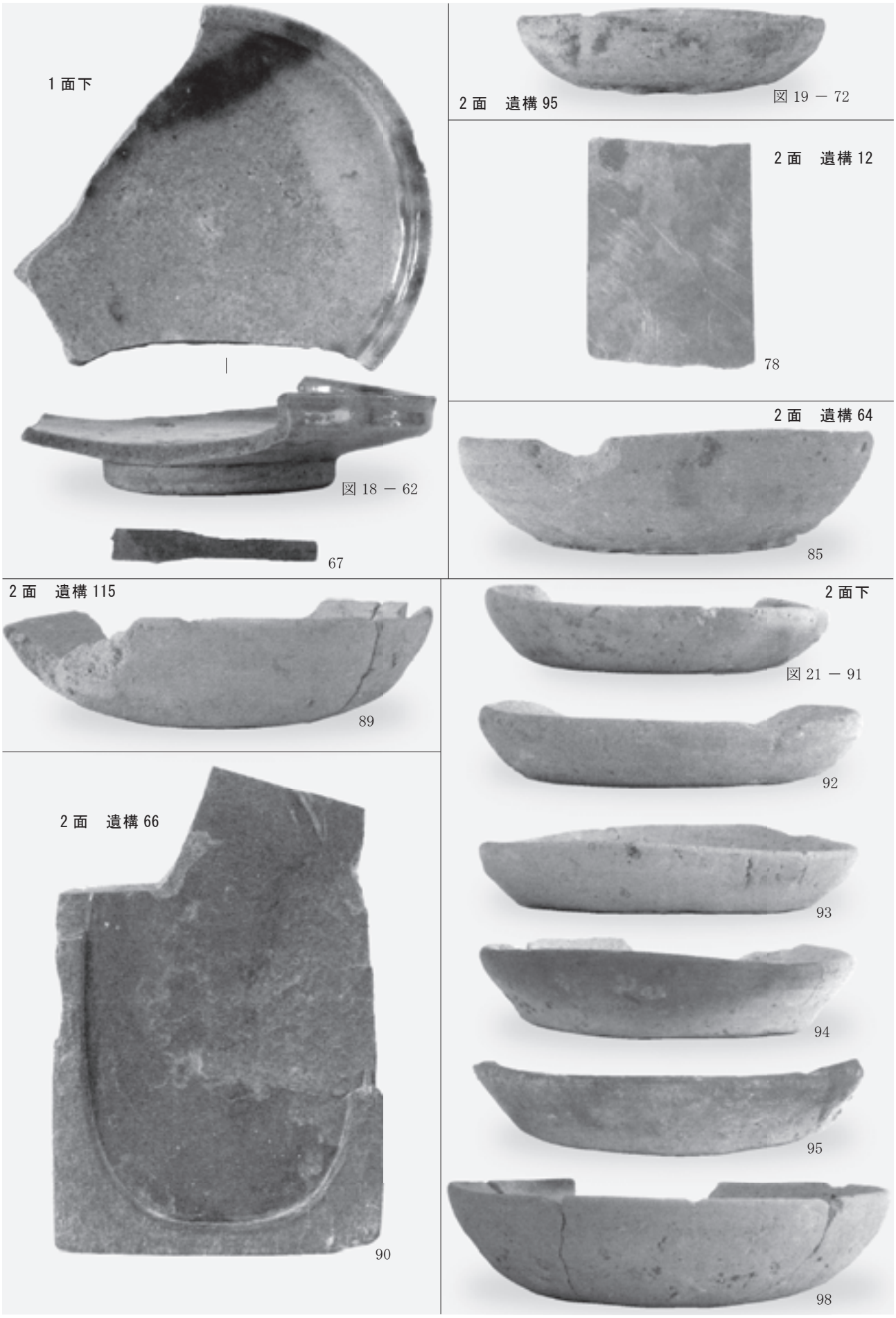
７．Ⅱ東区３面下　遺構133（西から）

８．Ⅱ東区　地山砂層検出状況（南西から）

図 15 － 3
9
5
表土～１面
12
6
14
図 16 － 15
１面　遺構１
22
26
17
１面　遺構 10
18
23
19
25
27
１面　遺構 7a
28
29
32

図版６

１面　遺構 11
図 17 － 35
１面　遺構外
36
37
42
１面下
図 18 － 43
45
46
47
48
49
50
51
52
55
56
57


1面下
図 18 － 62
67
2面　遺構 95
図 19 － 72
2面　遺構 12
78
2面　遺構 64
85
2面　遺構 115
89
2面　遺構 66
90
2面下
図 21 － 91
92
93
94
95
98

図版８

図 20 － 100

104

105

2 面下

3 面　遺構 135

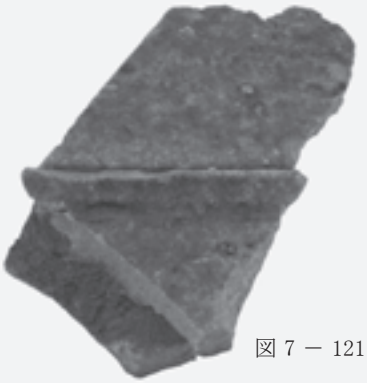


図 7 － 121

3 面　遺構 27a

130

131

126

132

127

137

128

138

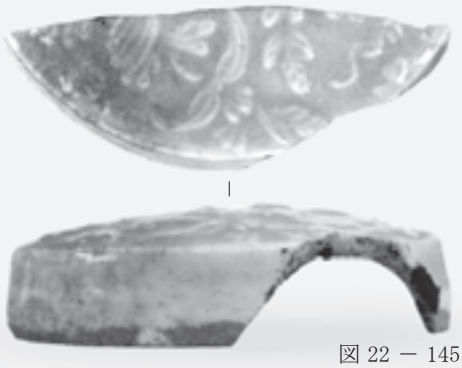
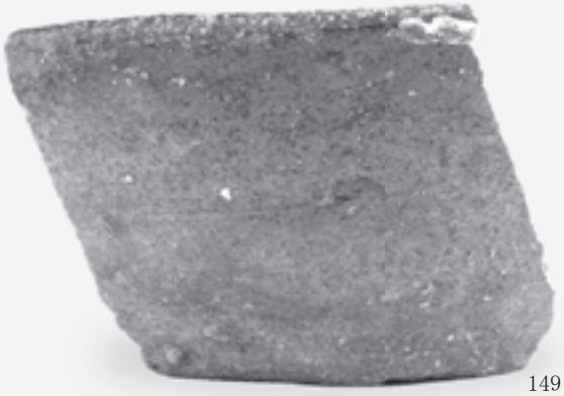


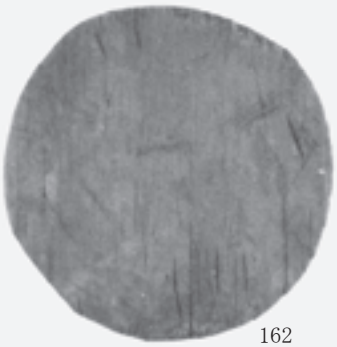
図 22 － 145

146



149

156



162

163

3 面　遺構 27a

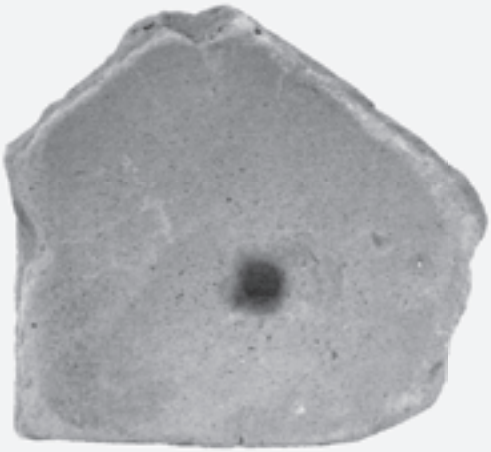
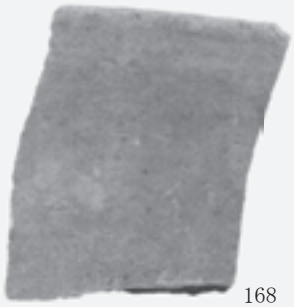


図 23 － 165



168

169

166

172

167

174

図版10

3 面　遺構 27a

図 23 － 175

179

178

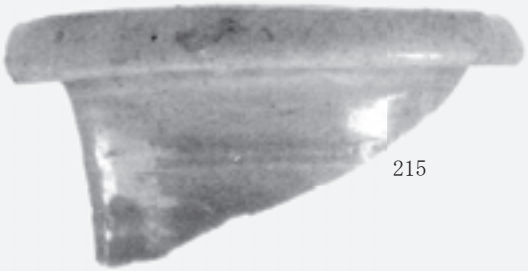
180

183

3 面　遺構 84

187

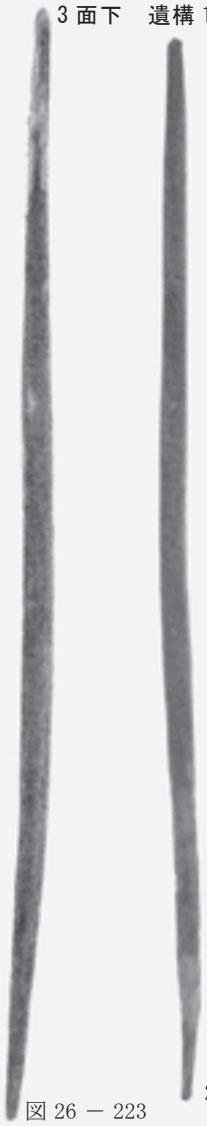
図 25 － 214



215

3 面下　遺構 133

3 面下　遺構 138



224

図 26 － 223

231

3 面下　遺構 140

225

227

3面下　遺構140

図26－232　233　234　235　236　237　238　239　240　241　242　243　244　245

図24－195

204　205

3面　遺構27b

3面下　遺構57

図27－247

248

249

図版12

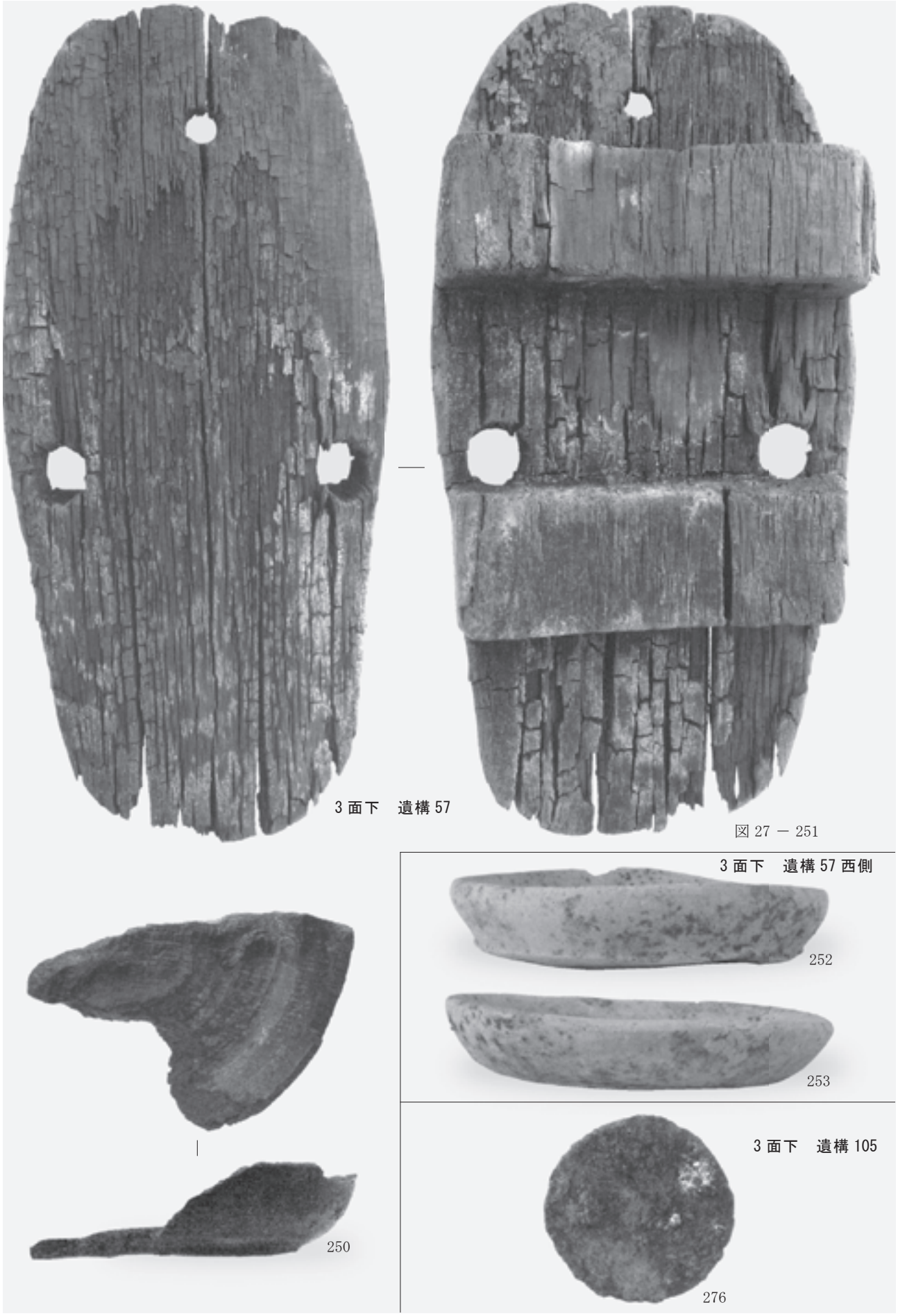
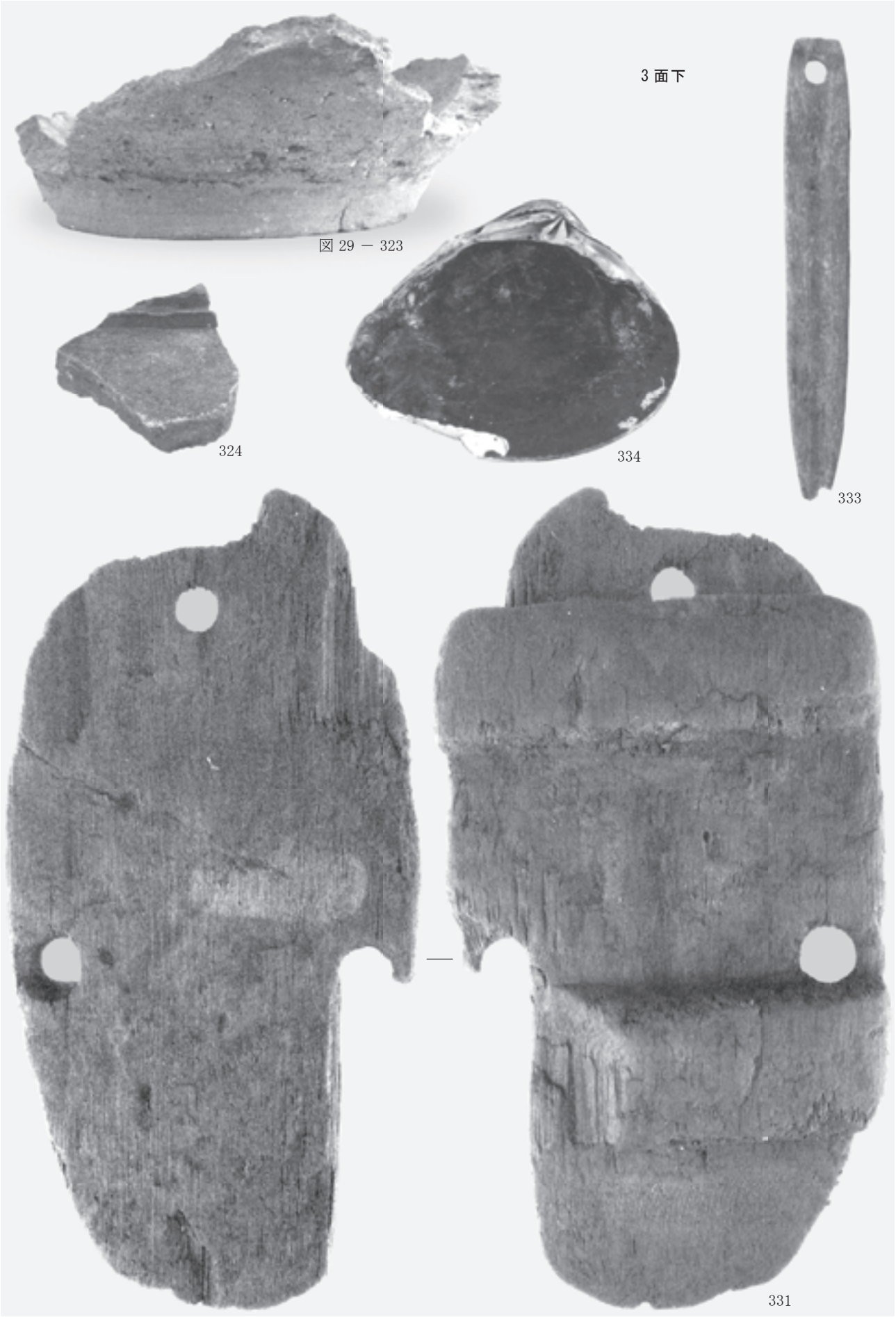


図 28 － 277
278
280
281
282
283
284
290
295
298
299
300
301
304
3 面下

図版14